世界の国を知る 世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来

120カ国の教材が
使える！

活用マニュアル

初心者でも
すぐ！そのまま！
実践できる

ver.2

公益財団法人　愛知県国際交流協会

はじめに

2013年現在、愛知県には、20万人を超える外国籍の人が生活しています。特に近年は、日本に生活基盤をおき、長期的に暮らしていこうという外国籍の県民が増え、たとえば、同じクラスに「外国にルーツを持つ」友達がいることも珍しくないなど、多様なバックグラウンドを持つ人々が身近にいることが当たり前になっています。

でも、そうした人々のことを私たちはどのくらい理解しているのでしょう? そもそも、私たちはどのくらい外国のことを知っているのでしょう? 全く知らない国もあるでしょう。何となくのイメージしかない国もあるでしょう。もしかしたら、そのイメージも正しくないかもしれません。しかし、世界でこれだけ人やものの行き来が盛んになった今、遠く離れた地域で起こっていることは、私たちの生活と無関係ではなくなっています。そう、まったく知らない国とも、どこかでつながっているのです。

さらに、この地球には、今、環境破壊、貧困、紛争など、多くの課題が山積みです。それら人類共通の課題を解決するためには、地球に暮らす私たち一人ひとりが自分の課題として解決する方法を考えながら、よりよい未来を築こうと行動しなければいけません。そのための「力」を育てていくことが必要です。

そして、その力を育てる教育が「国際理解教育」です。

愛知県では、2005年に愛知万博、2010年にCOP10（生物多様性条約第10回締結国会議）が開催されました。2014年にはESDユネスコ世界会議の開催を控えています。そして、当協会では、NPO法人NIED・国際理解教育センター、県内市町村や市町村国際交流協会の職員と協働で、 2007年から5年間を費やし、国際理解教育教材「世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来」120カ国版を作成してきました。このマニュアルは、その教材をより実践的に活用していただくためのモデルプログラムをまとめたものです。世界の人たちと交流する機会に恵まれた愛知県において、このマニュアルとこれまで作成してきた教材が、より多くの方たちに活用され、地球の課題解決に向けた一歩になることを願っています。

最後に、本マニュアル作成にあたっては、NPO法人NIED・国際理解教育センター、清須市立春日小学校、名古屋市立小幡小学校の皆様に多大なるご協力をいただきましたことを改めて深くお礼申しあげます。

2013年2月

公益財団法人 愛知県国際交流協会

教材は、愛知県国際交流協会ウェブサイトから
ダウンロードできます。

http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/kyouzai.html

Contents

本マニュアルについて……1

国際理解教育と参加型学習（ワークショップ）……2

プログラムで使う手法……3

モデルプログラム

	テーマ	プログラム	ページ	対象
A	食	食べ物から世界が見える	6	小学校高学年以上
B	子ども	子どもたちのしあわせのために	20	
C	誇り	世界の観光大使になろう！	32	
D	多様性	多様性は豊かさ	44	
E	環境	地球環境が危ない？！	54	高校生以上
F	貧困	世界の貧しさをなくすためにできること	66	
G	対立	対立から共生へ	76	
H	つながり	つながりに気づき、つながりを築く	88	
I	総合	世界のＳＯＳに耳を傾けよう！	96	小学校高学年以上
J	総合	世界から学ぼう！	106	高校生以上

参考資料

国際理解教育教材『わたしたちの地球と未来』とは……119

『わたしたちの地球と未来』マップ……120

教材一覧……121

キーワード一覧……129

世界地図……131

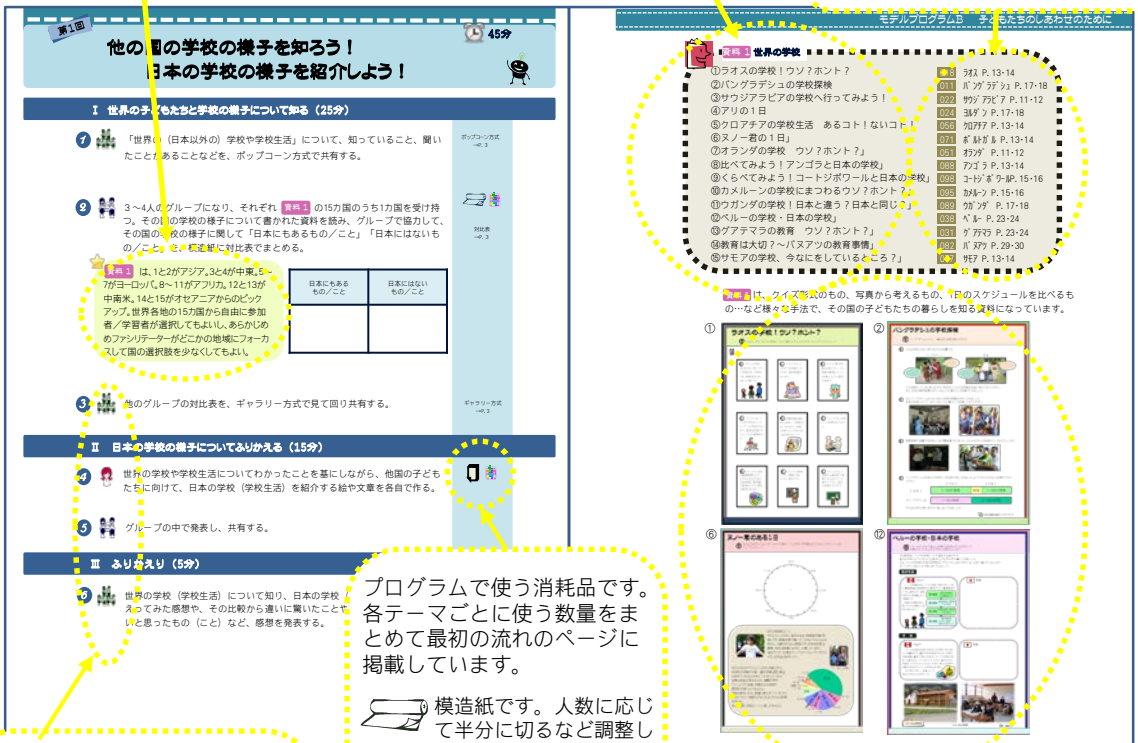
本マニュアルについて

- このマニュアルは、国際理解教育教材『世界の国を知る・世界の国から学ぶ　わたしたちの地球と未来』120カ国版を横断的に使った８つのテーマのモデルプログラムと２つの総合プログラムを掲載しています。
- それぞれのプログラムで使用する資料については、そのまま使えるように修正した上、付属のＣＤに納めてあります。
- モデルプログラムは、それぞれ２～５回の連続したカリキュラムになっています。
  対象は、子ども（小学校高学年以上）と一般（高校生以上）を想定し、それぞれの対象にあわせて現場でそのまま使える内容と時間数になるよう考えました。各プログラムの最初のページに、全体の流れと時間配分の目安、プログラムに関連した用語解説、準備するもの等を記載し、おおまかに全体像をつかむことができるようになっています。
- 見開き２ページで１回分のプログラムを掲載しています。プログラムの最後には、使用する資料の一覧、必要に応じて資料の内容（写真や図、解説など）を併せて掲載しています。
- このマニュアルでは正式な国名ではなく、通称・略称を使っています。
- このマニュアルおよび資料集ＣＤに掲載した文書、写真等すべての著作権は、出典元または（公財）愛知県国際交流協会に帰属します。

プログラムを進めていく上で、ファシリテーターが押さえておきたいポイントです。

使用する資料の一覧です。すべてＣＤに納めています。

資料が掲載されている教材の国名です。この記載がない資料については、今回オリジナルで作成したものです。本マニュアル巻末の教材一覧も参考にしてください。



プログラムで使う消耗品です。各テーマごとに使う数量をまとめて最初の流れのページに掲載しています。

- 模造紙です。人数に応じて半分に切るなど調整してください。
- マジックです。８～12色そろえると楽しく作業できます。裏うつりしない水性のものが便利です。
- 付箋です。７cm×７cmや７cm×12cmが使いやすいサイズです。
- Ａ４サイズの紙です。コピーミスした紙などを再利用しましょう。

- １人で行う作業です。
- ペアで行う作業です。
- グループで行う作業です。
- 全体で行う作業です。

資料の一部を紹介、または、プログラムを行うにあたって役に立つ資料を掲載しています。

国際理解教育と参加型学習（ワークショップ）

国際理解教育とは

国際理解教育は、地球が抱える人類共通の課題（人権・環境・平和・共生など）を知り、課題を解決しながら、よりよい未来を共に築く「力」を育む教育です。

単なる知識伝達ではなく、参加型学習（ワークショップ）を通して、参加者相互の知識や経験、気づきから学び合うことを重視しています。

自ら考え、協力して創り出すことを繰り返し体験する中で、コミュニケーションの力、分析的な思考力、合意形成能力、課題解決への意欲を育みます。

参加型学習（ワークショップ）とは

「ワークショップ」は、もともとは「作業場」という意味の英語です。ここでは、対等な立場で集まった参加者／学習者が、共通のテーマについて考え、一人ひとりがもつ豊かな経験と知識からお互いに学び合い、共に何かを創り出す場をいいます。

ファシリテーターのプログラム進行のもと、参加者／学習者が主体的に作業を進めていきます。ファシリテーターが一方的に何かを伝えるのではなく、双方向で、お互いの考えを共有します。

プログラムは、ねらいを達成するためにいくつかのアクティビティ（活動・作業）を組み合わせてつくられています。本マニュアルのプログラムのねらいは、各テーマの最初のページに記載しています。プログラムは基本的に、アクティビティを通して「体験する」「ふりかえる」「共有する」を繰り返します。

「体験」→「ふりかえり」→「共有」を繰り返してゴールに近づこう！

人数と会場配置

参加者／学習者同士が学びやすい人数として30人前後が適当です。人数が多い場合は、複数のファシリテーターで進行することも必要でしょう。アクティビティは、個人で行うもの、グループで行うもの、全体で行うものと様々ですが、グループワークが含まれる場合は、島状の会場配置にしておくとよいでしょう。グループワークは、４～６人がやりやすいでしょう。

アイスブレーキング

学校のクラスで行う場合は特に必要ないかもしれませんが、参加者／学習者がお互い初対面であったり、ワークショップに慣れていない場合は、緊張をほぐし、安心して参加できる雰囲気をつくるために、プログラムを始める前に、ゲーム感覚でできる簡単なアクティビティを行います。本マニュアルには特に記載していませんが、国際理解教育教材のクイズなどを活用するといいでしょう。

アクティビティ（活動・作業）

プログラムのねらいを達成するために行う１つ１つの作業をいいます。様々な手法を組み合わせ、メリハリをつけながら、参加者／学習者が楽しく参加でき、自分をふりかえったり、情報を得たり、分析したり、新しいアイデアを出し合ったりできるよう工夫します。本マニュアルで使われている手法については、P.3～５に説明しています。

ふりかえり

アクティビティを体験した後には、必ずふりかえりの時間をとるようにしましょう。ふりかえることによって、自分自身の気づきにつながります。

共有

自分自身の考えや気づき、ふりかえったことなどを、他の参加者／学習者に伝えたり、他の参加者／学習者から聴いたりすることです。共有することで、さらに考えが深まり、新たな気づきが生まれます。共有の方法についてはＰ．５を参照してください。

ファシリテーターの役割

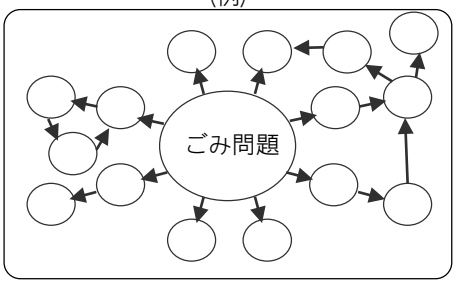
ワークショップにおいてファシリテーターの役割は、参加者／学習者の「参加」と「対話」を引き出し、学びの共有を進めることです。時間管理をすることも重要な役割です。参加者／学習者の考えを尊重し、発言しやすい雰囲気をつくりましょう。参加者／学習者を誘導したり、意見を否定したりするのは避けましょう。

派生図

派生図は、模造紙の中央にテーマとなることがらを書き、**「そこから考えられるもの」**を書き出していく手法。

書き出したものからさらに考えられるものを書き出していくことで、ものごとのつながりや帰結をイメージしやすくなる。

(例)

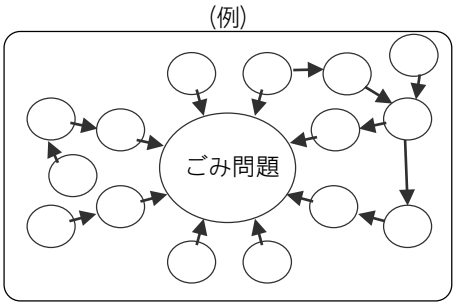


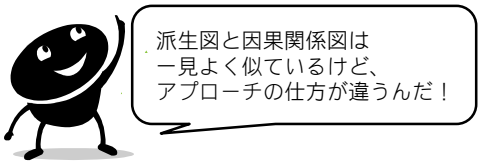
因果関係図

因果関係図は、模造紙の中央にテーマとなることがらを書き、**「その原因となるもの」**を書き出していく手法。

書き出した原因のさらに原因を書き出していくことで、ものごとの根本原因や解決策をイメージしやすくなる。

(例)





ブレインストーミング（ブレスト）

あるテーマがイメージするもの、思い浮かべるものをどんどんリストアップしていく手法。
一つの紙にみんなで寄せ書き風に書いていったり、みんなの意見を書記係が書きだしたりする方法がある。

全体像をつかんだり、人の意見から派生した新しいアイデアを生み出したりしやすくなる。

どんな意見でも否定せず量を増やすことがポイント。

対比表

あるテーマを２つの面からとらえ、考えられることをリストアップしていく手法。

比較・対比して考えることで、ものごとの特徴をつかみやすくなる。

できるだけ多くの考えを書きだすことがポイント。

(例)

○○のいいところ	○○のよくないところ
・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・

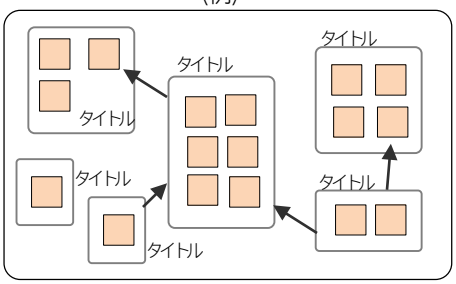
KJ法（カード式分類法）

あるテーマに対する多様な意見を整理・分類し、共通のものを作り出す手法。

模造紙に、個人の意見を書いた付箋を貼っていき（類似の意見が書かれた付箋はそばに固めて貼る）、大きくとらえたその固まりを線で囲みタイトルを付けることで、分類・整理していく。その際、囲みごとの関係があれば、矢印で結ぶ。

全員が意見を発表できるよう、一人１枚ずつ順番に付箋を貼っていくのがポイント。付箋は模造紙の好きな場所に貼っていってよいが、貼るスペースが狭くなったら適宜貼り直していく。

（例）



ロールプレイ

あるテーマ（状況）において、そこに関わる人々になりきり、会話や態度で表現する手法。
あらかじめ用意されたシナリオを演ずる方法や、シナリオづくりから参加者が行う方法がある。

異なる立場に立つことで、様々な立場の人々の気持ちを理解し、新たな気づきを引き出しやすくなる。

コラージュ

あるテーマについて紹介するのに、紙にペンで書くだけでなく、写真やイラスト、雑誌の切り抜きなどを自由に貼りつけて表現する手法。

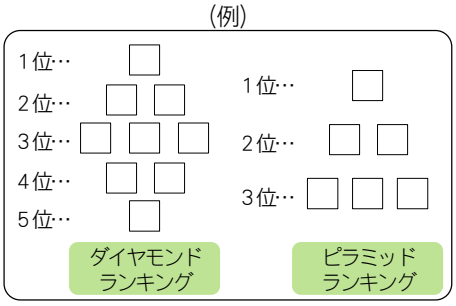
多面的なイメージを伝えることができるとともに、視覚的なインパクトが大きくなる。

ランキング

多様なテーマの優先順位をつける手法。
「ダイヤモンドランキング」「ピラミッドランキング」などの方法がある。

自分の価値観をふりかえるとともに、他者の傾向を知ることができ、合意形成がしやすくなる。

（例）



ポップコーン方式

意見を発表・共有するときの手法。
ポップコーンがはじけるように、参加者がランダムに発表していく。

ギャラリー方式

意見を発表・共有するときの手法。
各グループで作成した成果物（模造紙のまとめなど）を、各自、自由に見て回る。

チョっと
した

★ワークショップを楽しくわかりやすく進めるためのコツ★

★ 付箋や模造紙などの紙に書き出すときは、鉛筆や細いペンではなく、「マジック」を使いましょう。紙に書き出す目的は、視覚的に共有するためです。その際、細い文字・薄い文字ではあまり目立たず、共有がうまく図れません。また、白い紙に黄色のマジックで書いたり、あまりに小さな文字を書いたりしては、目立ちません。

目立つ色・派手な色のマジックで大きく書く

イラストなども描いてみたくなったりして…これだけで楽しい作業になりますよ！

★ 派生図・因果関係図を作るときなど、みんなで紙に書き出す作業をするときのルールが、ひとつあります。それは

黙って書かないこと

自分の意見を口にしながら書くことで共有が図れますし、人の意見を聞くことで新しいアイデアが浮かぶかもしれません。
同じように、KJ法の場合も、付箋に書いた意見を発表しながら、紙に貼っていきましょう。
他の人のアイデアを聞いたら、拍手をしたり、「それいいネ」と声をかけたりすると、なお盛りあがりますね！

★ 各グループの模造紙をギャラリー方式や回し読みで共有するとき、何となく見るのではなく、自分たちの模造紙になかった

新しい意見・アイデア見つけてみましょう

また、どんな意見・アイデアがあったか、グループのメンバーで共有してみましょう。
そこからさらに新しいアイデアが生まれるかもしれませんね！

モデルプログラム A

食べ物から世界が見える

回　数	5回
所要時間	第1・2・4・5回／各45分　第3回／90分
対　象	小学校高学年以上

ねらい

- 世界の料理の多様性を知り、日本とは異なる文化に関心を持つ。
- 食文化に関する地域毎の特徴をみつけ、多様な中にも共通点があることを理解する。
- 他国の食文化を通して日本の食をふりかえり、人間に不可欠な「食」の よりよい未来を考える。

食べ物から世界が見える

各回のねらいと流れ

第1回　日本の中の世界の料理　～なぜその料理を食べているの？～

⇒ P. 9

- 多様な世界の料理と肯定的に出会い、料理と地域の気候や特性とのつながりを知る。
- 日本で食べられている外国起源の料理の多様性に気づき、本場の料理との違いやその理由について考える。

資料 1　資料 2　資料 3

① 日本で食べられる外国料理を出し合う（5分）
② 気候風土と料理の関係を考える（15分）
③ 他国の料理と日本料理とを比較し、共通点や違いを見つける（20分）
④ ふりかえり（5分）

第2回　妄想・グルメ・ツアー！

⇒ P.11

- 世界の料理の特色について調べ、紹介しあい、食を通して多文化への関心を高める。
- 多様な世界を理解するためには、自分とは異なる文化に関心を持つこと、それを肯定的に受け止め、違いを楽しめることが大切であることに気づく。

資料 4　資料 5

① 第1回の復習（５分）
② 多様な食文化に関心を持つ（25分）
③ 「サプライズ企画」の発表！と次回に向けた準備（15分）

第3回　ほんとにグルメ・ツアー！！（45分×2）

⇒ P.13

- 調理実習を通してその国の食文化への理解を深める。
- 食材の産地を確認して日本と世界とのつながりを考える。

① 第2回の復習（5分）
② グループごとに調理実践！（40分）
③ 試食タイム（20分）＆片づけ（15分）
④ ふりかえり（10分）

第4回　食にShock！　日本って大丈夫！？　世界って大丈夫！？

⇒ P. 15

- 日本の食料自給率と食料輸入の現状について知り、日本は世界の様々な国と食を通してつながり、他国の存在に支えられていることを理解する。
- 食料自給率が低いことの危険性に気づく。
- 現状改善のために必要なことを考える。

資料 6　資料 7-1

① 日本の自給率についての基礎知識（15分）
② 自給率の低い日本が、どこからどれだけの食材を輸入しているのかを確認する（10分）
③ 食料自給率が低いということの危険性を考える（15分）
④ ふりかえり（5分）

第5回　日本も世界も「大丈夫！」な未来のために！

⇒ P. 17

- 世界的食料危機の現状や、食料輸入に関する課題について理解する。
- 食に関する日本と世界の課題解決と、よりよい未来のために自分にできることを考える。

資料 7-1　資料 7-2　資料 8

① 第4回の復習＋食料自給率の低さを改善するための手立てを考える（15分）
② 「フードマイレージ」という概念について知る（10分）
③ 食料輸入にまつわる環境や食の安全性に関わる問題を理解する（10分）
④ よりよい未来のために、役立つこと、自分がしたいことを考える（10分）

用語解説

食料自給率

食料自給率とは、国内の食料消費が、国内の農業生産でどの程度賄えているかを示す指標のことです。食料全体における自給率を示す指標としては、供給熱量（カロリー）ベース、生産額ベースの２とおりの方法で算出されます。日本の食料自給率（カロリーベース）は、39％（2011年度）となっており、アメリカ130％、フランス121％、ドイツ93％、イギリス65％と比べると、先進国の中で最低の水準となっています。

地産地消

地産地消とは、地域で生産されたものをその地域で消費することですが、地域で生産されたものを地域で消費するだけでなく、地域で生産された農産物を地域で消費しようとする活動を通じて、消費者が、生産者と『顔が見え、話ができる』関係で地域の農産物・食品を購入する機会を提供するとともに、地域の農業と関連産業の活性化を図ることと位置づけられています。産地から消費するまでの距離は、輸送コストや鮮度、地場農産物としてアピールする商品力、子どもが農業や農産物に親近感を感じる教育力、さらには地域内の物質循環といった観点から見て近いほど有利なだけでなく、対面コミュニケーション効果もあって、消費者の「地場農産物」への愛着心や安心感が深まります。

フェアトレード

途上国の生産者に正当な商品代金や賃金を支払うことによって、十分暮らしていける価格や賃金を保障し、安心して働ける場を作り出して貧困から抜け出すことができるようにする仕組みが、「フェアトレード」です。先進国と途上国の不公正な貿易システムによる歪みをなくし、安全で安心できる物を継続的に生産することができます。歴史は古く、第二次世界大戦後、西ヨーロッパで生まれたとされています。日本では1986年に「第3世界ショップ」が設立され、開発途上国の人々の暮らしを考える市民や草の根活動を中心に支持されてきました。1990年代には、フェアトレードをより広く普及させるために、フェアトレード・ラベル運動が進み、2002年、世界統一の国際フェアトレード認証ラベルが完成しました。フェアトレード商品として認められるためには、10の条件を満たさなければいけません。その中には「児童労働をしていない」という条件も含まれています。ラベルが貼られたことで、消費者にも広く知られるようになり、アイテムも食品から衣料品まで増え続けています。しかし認証を受けるためには、生産者が煩雑な手続や費用を払う必要があるなど、容易ではない現実もあります。

WFTO（世界フェアトレード機関）がさだめるフェアトレードの10の指針

1. 生産者に仕事の機会を提供する
2. 事業の透明性を保つ
3. 公正な取引を実践する
4. 生産者に公正な対価を支払う
5. 児童労働および強制労働を排除する
6. 差別をせず、男女平等と結社の自由を守る
7. 安全で健康的な労働条件を守る
8. 生産者のキャパシティ・ビルディング（技術や管理能力の向上）を支援する
9. フェアトレードを推進する
10. 環境に配慮する

より深めるための情報サイト

- 農林水産省ウェブサイト自給率の部屋
  http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/index.html
- 農林水産省「いちばん身近な「食べもの」の話
  http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/pdf/tabemono_pamph21.pdf
- フェアトレード・ラベル・ジャパン http://www.fairtrade-jp.org/

1997年に設立されたFLO国際フェアトレードラベル機構によって、認められた商品に貼られる世界統一のラベル。

フェアトレード団体を認証するFTOマーク。WFTO世界フェアトレード機関に加盟し、生産者の労働条件、賃金、児童労働、環境などの基準を満たしている団体の証。

使用する教材

ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ	ｵｰｽﾄﾘｱ	ｾﾈｶﾞﾙ	ﾍﾞﾘｰｽﾞ
ｱﾙﾒﾆｱ	ｶｻﾞﾌｽﾀﾝ	ﾀｼﾞｷｽﾀﾝ	ﾍﾞﾙｷﾞｰ
ｱﾝｺﾞﾗ	ｶﾅﾀﾞ(ﾐｻｻｶﾞ)	ﾁｪｺ	ﾎﾞｽﾆｱ
ｲﾀﾘｱ	ｷﾞﾆｱ	中国	ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ
ｲﾝﾄﾞ	ｷｭｰﾊﾞ	ﾄﾙｺ	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ
ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	ｷﾙｷﾞｽ	ﾈﾊﾟｰﾙ	ﾎﾝｼﾞｭﾗｽ
ｳｶﾞﾝﾀﾞ	ｸﾞﾙｼﾞｱ	ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ	ﾐｸﾛﾈｼｱ
ｳｸﾗｲﾅ	ｺﾝｺﾞ(共)	ﾊﾟｷｽﾀﾝ	ﾓﾛｯｺ
ｳｽﾞﾍﾞｷｽﾀﾝ	ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ	ﾌﾗﾝｽ	ﾗｵｽ
ｴﾘﾄﾘｱ	ｽﾘﾗﾝｶ	ﾌﾞﾙｶﾞﾘｱ	ﾘﾄｱﾆｱ
ｴﾙｻﾙﾊﾞﾄﾞﾙ	ｽｲｽ	ﾌﾞﾙﾈｲ	ﾙﾜﾝﾀﾞ
ｵﾗﾝﾀﾞ	ｽｰﾀﾞﾝ	ﾍﾞﾄﾅﾑ	ﾛｼｱ

準備するもの

- グループ数×５枚
- 参加者数×２枚
- 参加者数×10枚
- グループ数セット

ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙなど（P.13 紹介ボード用）

第1回

45分

日本の中の世界の料理
～なぜその料理を食べているの？～

Ⅰ　日本で食べられる外国料理を出し合う（5分）

1 日本にある世界の料理をポップコーン方式であげる。あがった料理がどの国の料理なのかを全員で考え、確認する。

ポップコーン方式
→P. 3

発表された料理の名前と国名は、ファシリテーターが板書しておく。
　例…ラーメン、餃子、ピザ、パスタ、カレー、キムチ　など
中国や韓国といった近くの国だけではなく、ヨーロッパの料理なども日本で食べられるようになってきていることを確認する。

Ⅱ　気候風土と料理の関係を考える（15分）

2 資料１ をグループに１枚配布し、クイズ１をクラス全員で考える。

クイズの解答は、　※(　)はイタリア語

A：種（セーミ）　B：指輪（アネッリ）
C：天使の髪（カベッリ タンジェロ）　D：蝶（ファルファッレ）
E：カタツムリ／丸まった貝の形（ルマーケ）　F：ペン先（ペンネ）

状況によっては、ペンネを例に示すと、考えやすい。
身近な食材であるパスタの多様性を知る。日本の麺類の多様性にも触れられるとよい。

3 資料２ をグループに１枚配布する。それを参考にしながら、 資料１ のクイズ２をグループで考える。

4 全体で答え合わせをする。

クイズの解答は、

ﾋﾟｴﾓﾝﾃ州	：E リゾット	ﾛﾝﾊﾞﾙﾃﾞｨｱ州	：D コトレッタ
ﾘｸﾞｰﾘｱ州	：B ファリナータ	ｴﾐﾘｱ・ﾛﾏｰﾆｬ州	：H ボロニェーゼ
ﾄｽｶｰﾅ州	：C 白いんげん豆の煮物	ﾗﾂｨｵ州	：F カルボナーラ
ｶﾝﾊﾟﾆｱ州	：G アクア・パッツァ	ｼﾁﾘｱ州	：A カポナータ

5 クイズ２を通して気づいたことをもとに、「どうしてその地域ではその料理が食べられているのか？」を考え、グループごとにその理由だと思うことを模造紙に箇条書きで書き出し、それを全体で共有して１つにまとめる。

郷土料理は、その地域の気候（特産物）・地形・歴史（近隣の国との関係）・宗教などと深く関わりがあることを確認する。各グループから出て来た項目を板書してまとめる。

Ⅲ　他国の料理と日本料理とを比較し、共通点や違いを見つける（20分）

6 各グループ、７カ国の 資料３ のうち1カ国を受け持ち、資料を協力して読み、

1）その国の料理と日本の料理の共通点
2）その国の料理と日本の料理の違い

について考え、模造紙に対比表でまとめる。

対比表 →P.3

共通点	違い

❼ 他グループが作成した対比表を、ギャラリー方式で共有する。

ギャラリー方式
→P. 5

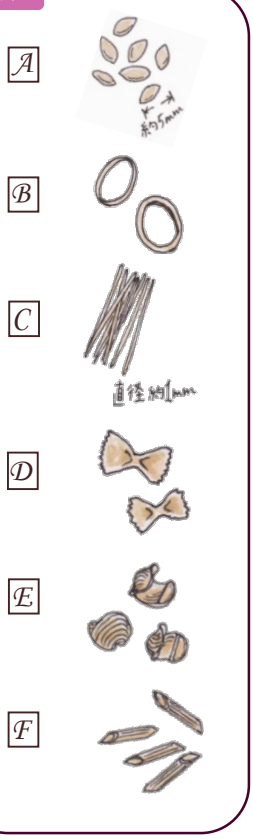
Ⅳ　ふりかえり（5分）

❽ 日本の料理と本場の料理の共通点や違いをまとめてみて、❺で考えた「どうしてその地域ではその料理が食べられるのか？」の理由として追加できることがあれば全体で共有する。

資　料

資料 1	イタリアを食べよう！	046	ｲﾀﾘｱ P.9
資料 2	イタリアを旅しよう！	046	ｲﾀﾘｱ P.11･12
資料 3	① どちらがベトナム？	015	ﾍﾞﾄﾅﾑ P.17･18
	② ラオスも日本もお米を食べます	018	ﾗｵｽ P.23･24
	③ 主食はお米です！？	106	ｾﾈｶﾞﾙ P.15･16
	④ スリランカのカレー　日本のカレー	005	ｽﾘﾗﾝｶ P.17～19
	⑤ 食べ物いろいろ、比べてみよう	002	ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ P.17･18
	⑥ 中国と日本！どこが一緒？どこが違う？	008	中国 P.19･20
	⑦ 食にまつわるエトセトラ	001	ｲﾝﾄﾞ P.11･12

資料 1



資料 2

45分

妄想・グルメ・ツアー！

Ⅰ　第1回の復習（5分）

1 第１回の❺や❻で作成した模造紙を見ながら、「食」は、気候・地形・近隣諸国との関係・歴史・宗教などと深く関わり合っていることを再度確認する。

Ⅱ　多様な食文化に関心を持つ（25分）

2 ４人グループになり、16カ国の食に関する 資料４ から各グループ1カ国を受け持ち、クイズに答え、解答と解説を読み、その国の料理の特徴をつかむ。

ファシリテーターがあらかじめ、グループ分選んでおくとよい。

3 クイズの解答・解説を参考にして、その国の料理の味付けや使う食材の特徴、独自の食文化、是非紹介したい料理など、５つほどポイントをまとめ、その国の人になりきり、「自分の国の食や料理」について、他グループに1分で紹介する。（発表時間は、１分×グループ数となる）

クイズと解答・解説の情報をうまく使い、「なりきり自国の自慢料理!」の要領で紹介しアピールする。1分で発表できるよう、その国の基礎情報や文化的背景、地理的背景、宗教的背景などを含め、食や料理の特徴をあらかじめ5つくらい箇条書きにして、発表の準備をする。

Ⅲ「サプライズ企画」の発表！と次回に向けた準備（15分）

4 食文化は多様であること、その地域の地理的条件や歴史、宗教などと関係があることがわかったので、「次回は実際に作って食べてみよう！」と、ファシリテーターからサプライズ企画発表。

5 ６人グループを作り、 資料５ の中から、くじ引きで作る料理を決める。

世界の料理レシピ集から、地域／国名／料理名／料理の内容を見て、食材の調達可能性や調理時間や調理の難易度などを考慮し、児童・生徒のレベルに合ったものを選択しておく。
食材調達に関しては、クラス全体で一括して購入するのか、グループ毎に購入してくるところから学びとするのか、材料費はどうするのか、などは、現場それぞれの判断で。
学年にもよるが、調理の際には保護者ボランティアなどの大人のサポーターが複数いるとよい。アレルギーの子どもへの配慮など、実情にあったメニューを選択するとよい。

6 グループで作ることになった料理の名前、作り方、必要な食材を確認して終わる。

資料 4　世界の食べ物クイズ

① パキスタンの料理は甘い？からい？	010	ﾊﾟｷｽﾀﾝ P.9･10
② カナダのごちそう	026-2	ｶﾅﾀﾞﾐｻｻｶﾞ P.11･12
③ ウズベキスタン料理を知ろう！	048	ｳｽﾞﾍﾞｷｽﾀﾝ P.13･14
④ おいしそう！アルゼンチン料理	027	ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ P.9･10
⑤ ブルネイ料理あれこれ	014	ﾌﾞﾙﾈｲ P.9･10
⑥ ボスニア料理ってどんな料理？	070	ﾎﾞｽﾆｱ P.13･14
⑦ アジア料理？ヨーロッパ料理？～	060	ﾀｼﾞｷｽﾀﾝ P.9･10
⑧ 食にまつわるエトセトラ♪	120	ﾙﾜﾝﾀﾞ P.9･10
⑨ チェコ料理ってどんなの？	061	ﾁｪｺ P.9･10
⑩ チーズ・フォンデュだけじゃないよ！～	057	ｽｲｽ P.11･12
⑪ 口福のポーランド！？	069	ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ P.13･14
⑫ ポルトガル料理ってどんなの？	071	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ P.9･10
⑬ モロッコ料理の定番は？	118	ﾓﾛｯｺ P.12･13
⑭ マトケが主食！そんなバナナ？～	089	ｳｶﾞﾝﾀﾞ P.13･14
⑮ ホンジュラスの食べ物	040	ﾎﾝｼﾞｭﾗｽ P9.･10
⑯ リトアニア人の食卓	072	ﾘﾄｱﾆｱ P.9･10

資料 5　世界の料理レシピ集

アジア

① ロティ・プラタ（クレープ）	004	ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ P.25
② カヤジャム（ココナッツミルクジャム）	004	ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ P.25
③ ココナッツラドゥー（ココナッツのおだんご）	005	ｽﾘﾗﾝｶ P.12
④ モモ（餃子）	009	ﾈﾊﾟｰﾙ P.11

中近東

⑤ ピーマンのドルマ（肉詰め）	023	ﾄﾙｺ P.17

ヨーロッパ

⑥ ボズバシュ（ラム肉の煮込みスープ）	045	ｱﾙﾒﾆｱ P.12
⑦ ボルシチ（トマトシチュー）	047	ｳｸﾗｲﾅ P.13
⑧ ウィンナーシュニッツェル（仔牛のモモ肉のカツレツ）	050	ｵｰｽﾄﾘｱ P.13
⑨ オリボレン（ドーナツ）	051	ｵﾗﾝﾀﾞ P.17
⑩ スタンポット（ソーセージとじゃがいもペースト）	051	ｵﾗﾝﾀﾞ P.9･17
⑪ チャクチャク（揚げ菓子）	052	ｶｻﾞﾌｽﾀﾝ P.13
⑫ ラグマン（トマトソース味のうどん）	054	ｷﾙｷﾞｽ P.25
⑬ ヨーグルトスープ	055	ｸﾞﾙｼﾞｱ P.11
⑭ トマケリソース（プラムのソース）	055	ｸﾞﾙｼﾞｱ P.17
⑮ チーズ･フォンデュ	057	ｽｲｽ P.13
⑯ クネドリーキ（ゆでぱん）	061	ﾁｪｺ P.10
⑰ スネジャンカ（ヨーグルトディップ）	067	ﾌﾞﾙｶﾞﾘｱ P.29
⑱ ムサカ（ひき肉とヨーグルトのグラタン）	067	ﾌﾞﾙｶﾞﾘｱ P.29
⑲ ムール・オ・ヴァン・フラン（ムール貝のワイン蒸し）	068	ﾍﾞﾙｷﾞｰ P.31
⑳ リエージュワッフル	068	ﾍﾞﾙｷﾞｰP.17
㉑ ピェロギ（水餃子）	069	ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ P.14
㉒ パスティス・デ・バカリャウ（ポテトとタラのコロッケ）	071	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ P.15
㉓ フェジョアーダ（豆と豚肉のスープ）	071	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ P.15
㉔ ボルシチ（トマトシチュー）	074	ﾛｼｱ P.11

アフリカ

㉕ ムアンバ（鶏とオクラのスープ）	088	ｱﾝｺﾞﾗ P.11
㉖ ジィルジィル（牛肉トマト煮）	092	ｴﾘﾄﾘｱ P.23
㉗ マーガイン（魚の干物トマト丼）	096	ｷﾞﾆｱ P.13
㉘ ムアンバ（オクラスープ）	099	ｺﾝｺﾞ(共) P.13
㉙ ムラーバミヤ（オクラとマトンのスープ）	105	ｽｰﾀﾞﾝ P.15
㉚ フール・メダマス（そら豆のディップ）	105	ｽｰﾀﾞﾝ P.16
㉛ マフェ（ピーナツバター風味のチキントマト煮）	106	ｾﾈｶﾞﾙ P.30
㉜ ハリーラ（豆とマトンのスパイス煮込み）	118	ﾓﾛｯｺ P.18

北米・中南米

㉝ メープル風味ふわとろプリン	026-2	ｶﾅﾀﾞﾐｻｻｶﾞ P.12
㉞ ミラネッサ（牛肉のカツレツ）	027	ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ P.10
㉟ ドゥルセ・デ・レチェ（ミルクジャム）	027	ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ P.10
㊱ ププサ（トウモロコシ粉のおやき）	029	ｴﾙｻﾙﾊﾞﾄﾞﾙ P.9･10
㊲ アロス・コングリ（肉入りお赤飯）	030	ｷｭｰﾊﾞ P.19
㊳ ライス＆ビーンズ（赤飯）	037	ﾍﾞﾘｰｽﾞ P.19

オセアニア

㊴ コスラエスープ（チキンとココナッツミルクのライススープ）	087	ﾐｸﾛﾈｼｱP.15

第3回

90分

ほんとにグルメ・ツアー！！

Ⅰ 第2回の復習（5分）

1 前回確認した「世界の料理を調べたり、食べたりするとどんなよいことがあるか」で共有した意見を確認する。

Ⅱ グループごとに調理実践!（40分）

2 調理にあたっての注意事項を確認する。

3 レシピに従い、自分たちの料理を調理する。

4 同時進行で料理の紹介ボード（大きめの段ボール板と模造紙などを活用）を作成する。

【紹介ボードに書くこと】　※わかる範囲でよい
- ○　どこの国の料理か
- ○　その国はどこにあるか
- ○　実際の料理名
- ○　その料理は、どういうときにどのように食べられているのか
- ○　その料理は、日本の料理で例えるならば○○
- ○　料理に使った材料
- ○　材料名の横に、今回購入した食材の「原産国」を（　　）で書く

Ⅲ 試食タイム（20分）＆ 片付け(15分)

5 それぞれのグループの「料理紹介ボード」を読みながら、少しずつ食べて回る。

Ⅳ ふりかえり（10分）

6 以下を各自Ａ４の紙に書く。
1) 初めて食べる味だったもの
2) もう一度食べたいと思ったもの
3) 日本の料理と似ていると思ったもの
4) 「紹介ボード」に書かれていることで、印象に残ったもの
5) 世界の料理を作ってみて、食べてみて、感じたこと・わかったこと

7 全体で共有する。

全員の感想を共有できなかった場合は、ふりかえりシートを教室に貼り出すなどして、後から共有する形でもいい。

① ロティ・プラタ（クレープ）

④ モモ（餃子）

⑦ ボルシチ（トマトシチュー）

⑧ ウィンナーシュニッツェル
（仔牛のモモ肉のカツレツ）

⑨ オリボレン（ドーナツ）

⑪ チャクチャク（揚げ菓子）

⑫ラグマン
（トマトソース味のうどん）

⑱ ムサカ（ひき肉と
ヨーグルトのグラタン）

㉑ピェロギ（水餃子）

㉕ ムアンバ（鶏とオクラのスープ）

㉛ マフェ（ピーナッツバター
風味のチキントマト煮）

㉝ メープル風味ふわとろプリン

㉞ ミラネッサ
（牛肉のカツレツ）

㊱ ププサ
（トウモロコシ粉のおやき）

㊴ コスラエスープ（チキンとココ
ナッツミルクのライススープ）

第4回

食にShock！ 日本って大丈夫！？　世界って大丈夫！？

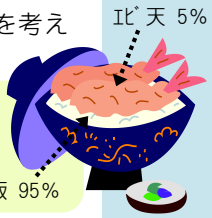
45分

Ⅰ　日本の自給率についての基礎知識（15分）

1. ４人グループになる。

2. グループに１枚配布された 資料６ の上段、食料自給率「日本の場合」を見て、半分のグループは和食（円形に並ぶメニューの上半分）の自給率を考え、残り半分のグループは洋食（円形に並ぶメニューの下半分）の自給率を考える。

   その間にファシリテーターは、資料６ の「日本の場合のエビ天丼のイラスト」を参考に、自給率に合わせた「エビ天丼のイラスト（ご飯は95%。エビ天は5%）」を大きく板書しておく。



3. ファシリテーターから答え（→P. 16）を聞き、グループごとに答え合わせをする。

   正解数で挙手をするとゲーム性がでる。

4. 先ほど黒板に描いておいた「エビ天丼」のイラストを見せ、もし外国からの輸入がなければ、エビ天丼はこんな状態になるという例で、日本の食料自給率についての説明を聞く。

   米の自給率は高いこと、海に囲まれた国にもかかわらず、エビの自給率は極めて低いこと、醤油・味噌・豆腐・納豆など日本の食卓には欠かせない食材の原料である大豆や、そば、小麦などの自給率も低いことを確認する。

5. 資料６ の裏面解説のページで、「フランスの場合」の答えをグループごとに確認し、「日本の場合」と「フランスの場合」を比較して、気づいたこと、感じたことをグループで共有する。

食料自給率 →P. 8

Ⅱ　自給率の低い日本が、どこからどれだけの食材を輸入しているのかを確認する（10分）

6. 配布された 資料 7-1 を見て、空欄に入る「食品」を全員で考え、答える。

7. 第３回で使った「料理紹介ボード」を見ながら、私たちが日常で食べる様々な食材がいろいろな国から輸入されていることを確認し、感想を共有する。

料理紹介ボード →P. 13

Ⅲ　食料自給率が低いということの危険性を考える（15分）

8. 「もしも外国から食料の輸入がされなくなったら」どんなことが起こりうるのか、グループごとに派生図で考え、その中でも最も困ると思うこと３つに大きく★印をつける。

   「食べられない料理が増える」「外国の珍しい食べ物が食べられなくなる」…など

9. 他のグループの派生図をギャラリー方式で共有する。

派生図 →P. 3

ギャラリー方式 →P. 5

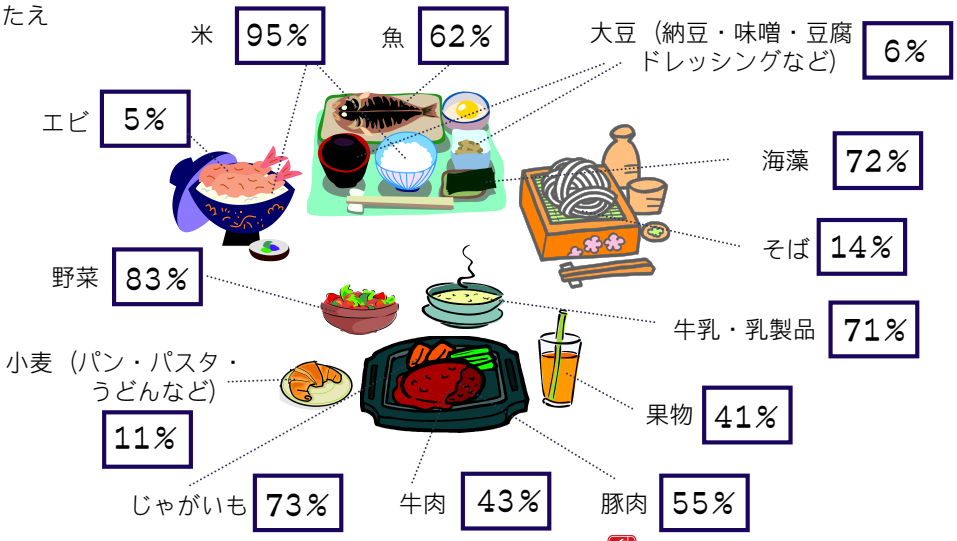
Ⅳ　ふりかえり（5分）

10. 第４回を通して感じたこと、わかったことなどの感想を全体で共有して終わる。

資料 6　「食べ物だって無限じゃない！」　066 フランス P. 27・28

資料 7-1　ワークシート
「輸入食品トップ10！と
どこから輸入しているかトップ３！」　081 ニュージーランド P. 18

資料 6 こたえ



『いちばん身近な「食べもの」の話』農林水産省

品目別自給率（2009）

%	食用穀物	(うち小麦)	いも類	豆類	野菜類	果実類	肉類	卵類	牛乳・乳製品	魚介類
フランス	191	194	124	80	72	62	100	93	116	35
日本	59	11	78	8	83	42	57	96	71	53

『諸外国の品目別自給率』農林水産省

資料 7-1　※　配布資料は、第3位・第5位・第7位以外は空欄

第1位	とうもろこし	アメリカ、中国、アルゼンチン
第2位	豚肉	アメリカ、カナダ、デンマーク
第3位	牛肉	オーストラリア、アメリカ、NZ
第4位	生鮮・乾燥果実	アメリカ、フィリピン、NZ
第5位	アルコール飲料	フランス、イギリス、イタリア
第6位	えび	ベトナム、インドネシア、インド
第7位	カツオ・マグロ類	台湾、韓国、オーストラリア
第8位	大豆	アメリカ、カナダ、ブラジル
第9位	小麦	アメリカ、カナダ、オーストラリア
第10位	さけ・ます	チリ、ノルウエー、ロシア

日本が世界一の食料輸入大国になった理由！？

●食生活の変化…米、野菜、魚中心だった食が、欧米型（小麦製品、肉類、油脂など）に。
●食品輸入の壁が低くなり、海外の多様な食材が国産より安価に手に入るようになった。
●日本の農業の衰退…農業をする人が少なくなった。
●日本国内の開発が進み、農地だったところが駐車場やビルになった。　などなど

● 日本の食料自給率はカロリーベースで40%（2009年）です。つまり、60%は外国からの輸入に頼っているのです。（2011年の食料自給率は39%です。）2009年の穀物自給率は26%で、世界176の国・地域の中で127番目という低さです。また、日本国内の農地面積は461万ヘクタールですが、日本が輸入している食料を生産するために使われている外国の農地面積は約1,245万ヘクタールです。日本人が食べるために、国内の2.7倍の外国の農地が使われているのです。ちなみに、1963年の食料自給率は72%でした。

● フランスの食料自給率は121%（2009年）です。穀物自給率は174%で、世界176の国・地域の中では11番目です。農地面積は2,927万ヘクタールです。ちなみに、1963年の食料自給率は98%でした。

● 世界で自給率が高いのは、カナダ223%、オーストラリア187%、アメリカ合衆国130%、ドイツ93%、スウェーデン79%となっています。

45分

日本も世界も「大丈夫！」な未来のために！

Ⅰ 第4回の復習＋食料自給率の低さを改善するための手立てを考える（15分）

1 資料 7-1 の「日本が世界一の食料輸入大国になった理由」と 資料 7-2 の「食料輸入大国日本」を読む。

Ⅱ 「フードマイレージ」という概念について知る（10分）

2 「フード・マイレージ」という概念について、ファシリテーターから説明を聞く。 (→P. 18)

時間に余裕があれば、第3回の調理実習で使った料理紹介ボードから食材とその産地をリストアップしておき、産地と現在位置までの距離を出してみるのもよい。フード・マイレージ計算サイト（→P. 18）を活用し、距離をグループごとに試算してみる。

Ⅲ 食料輸入にまつわる環境や食の安全性に関わる問題を理解する（10分）

3 ４人グループになり、資料 8 のシナリオを基に、４人それぞれが１役を受け持ち、グループの中で実際に自分のセリフを言いあってみる。

外国から食料を輸入することや、国内でも遠い場所から輸送してくることは、エネルギー（輸送エネルギー、保存エネルギーなど）がたくさん必要となる。また、外国と日本では、食品の安全や管理の基準が異なっていたりして、「環境」や「安全性」の視点からも問題があることを、資料を通して確認できるといい。それぞれの立場になりきって「自分の意見（セリフ）」を音読することがポイント!

Ⅳ よりよい未来のために、役立つこと、自分がしたいことを考える（10分）

4 日本に暮らす人々のいのちにまで関わる問題である「食料自給率の低さ」は、どうしたら改善することができるのか、❶❷❸を踏まえ、「食料自給率を少しでもあげるために役立つこと」を考え、各自付箋にアイデアを書き出す。

5 グループで、KJ法で共有する。

KJ法 →P. 4

6 世界の食べ物を日本で食べられる今の状況は良い面も悪い面もあること、自分が何を食べるかということも環境や外国の状況に関わっていることを理解し、日本にとっても、他の国にとっても、よりよい未来になるために自分がしようと思うことを考える。

7 考えたことを発表する。

例えば、食べ残しをしない、無駄な買い物をして食品を捨てることをしない、「地産地消」やフェアトレード商品を購入する…など。参加者からそうした意見が出ない場合は、フォローするとよい。

地産地消 →P. 8

フェアトレード →P. 8

資料 7-1　輸入食品トップ１０！と どこから輸入しているかトップ３！　081 ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ P.18
資料 7-2　日本の自給率 世界の自給率　081 ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ P.19
食料の６割を輸入に頼る食料輸入大国日本！
資料 8　食料輸入をとりまくいろいろな立場と問題（ロールプレイ）

フード・マイレージとは！？

1. かんたんに言うと？

フード・マイレージとは、食べ物が運ばれてきた距離のこと。輸入食料について、総合的にとらえるめやす。日本では、食料の輸入量（重さ）×輸送距離（t・kトン・キロ）や輸送時にかかる二酸化炭素排出量（100g＝１ポコ）で表される。
ここでは、身近な食生活が地球環境と関わっていることに気づくためのツールとして考えたい。食料の生産地から食卓までの距離が長いほど、輸送にかかる燃料や二酸化炭素の排出量が多くなるため、フード・マイレージが高ければ高いほど、その食料の消費が環境に対して大きな負荷をかけていることになる。「地産地消」に近い考えを基本にしており、地球温暖化対策の一環としてだけでなく、食料自給率の向上や、食育の推進などの面でも注目されている。

2. ことばの成り立ちとフード・マイレージの今

フード・マイレージの考え方は、1994年にイギリスの消費者運動家であるティム・ラング氏が提唱した「フード・マイルズ」（Food Miles）に基づいている。日本では2003年の環境白書でフード・マイレージが紹介されており、2007年の「農林水産省地球温暖化対策総合戦略」では日本と諸外国のフード・マイレージの比較結果も紹介されている。それによると、日本の人口１人あたりのフード・マイレージは、イギリスの約２倍、ドイツ、フランスの３～４倍、アメリカの約７倍で、日本の食料供給構造が、長距離輸送を経た大量の輸入食料に依存していることがわかる。民間でも、環境省のモデル事業に選ばれた「大地を守る会」のフードマイレージ・キャンペーンをはじめとし、様々な取り組みがある。「大地を守る会」のフード・マイレージは輸送にかかる二酸化炭素排出量100ｇ＝１ポコ（poco）とし、ウェブ上でフード・マイレージが計算できるようになっている。また、フードマイレージ・プロジェクトではウェブ上で動く地球のイラストを見ながらいろいろな食料が日本に届くようすのシミュレーションもできる。

● フード・マイレージ学習からグリーン・コンシューマーの育成へ

グリーン・コンシューマーとは、価格や性能だけではなく環境への影響も考える消費者のことをいう。ゴミのリサイクルのように「出口」の部分だけで環境問題を考えるのではなく、買い物「入口」から環境に対する行動を考え、結果として生産や流通なども視野に入れた変化を促すものである。下記のグリーン・コンシューマー10原則の④と⑨はフード・マイレージの考え方と近い。フード・マイレージ学習を通して消費者としてよりよい選択をしていけるように励ましていきたい。

【グリーン・コンシューマー10原則】

①必要なものを必要なだけ買う
②長く使えるものを選ぶ
③包装の少ないものを選ぶ
④エネルギーの消費の少ないものを選ぶ
⑤自然は健康を悪くしないものを選ぶ
⑥作った人に、公平にお金が分配されているものを選ぶ
⑦化学物質の使用が少ないものを選ぶ
⑧リサイクル原料から作られたものを選ぶ
⑨近くでつくられたものを選ぶ
⑩環境問題への取り組みに熱心なお店で買う

フード・マイレージ計算サイト

「フードマイレージキャンペーン　大地を守る会」http://www.food-mileage.com/calculator/

日本の自給率　世界の自給率
～食料の6割を輸入に頼る食料輸入大国日本！～

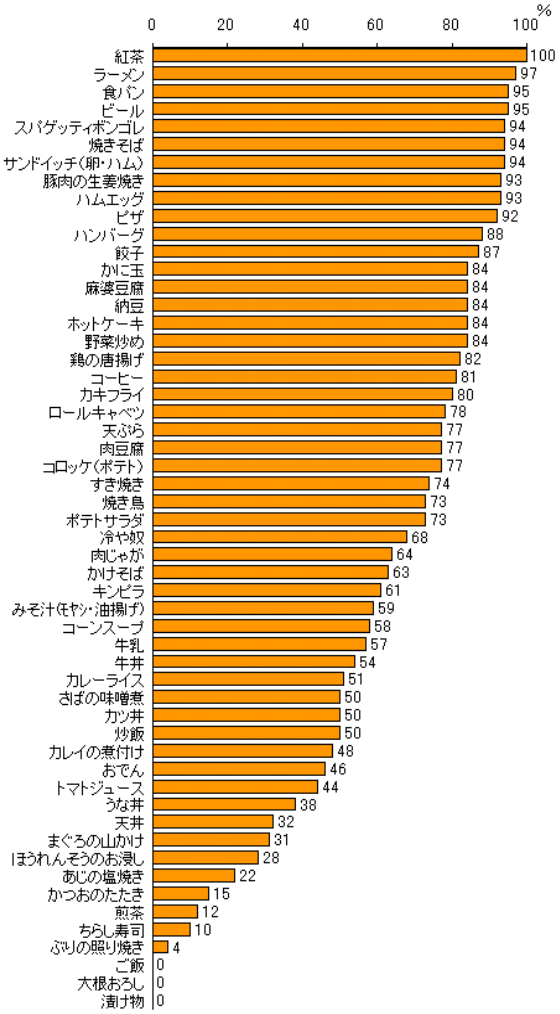
◆ どんな食品を輸入しているのでしょう？

小麦、大豆、とうもろこしなどはもとより、牛肉、豚肉、鶏肉、玉ねぎ、かぼちゃ、キャベツ、オレンジ、レモン、バナナ、サクランボ、エビ、マグロ、カツオ、ハム、チーズ、砂糖、チョコレート、コーヒー、缶詰、冷凍食品、お菓子、焼き鳥、アジフライなど生鮮・冷凍・加工を問わず、様々な食べ物を輸入しています。

野菜は生鮮ばかりではなく、冷凍、カット、加工された野菜がぞくぞくと日本に入っています。ニンジンをレストランでそのまま使えるように様々な形にカットしたもの、ロールキャベツのような総菜、ナスを炒めてから冷凍したものまで様々。

えっ、これも!?というものも少なくありません。そば粉、わらび、たけのこ、きのこ、ひじき、わかめ、ウニ、イカ、タコ、梅干し、らっきょうなど、日本の伝統食といわれる物までが輸入されています。

料理メニュー別の輸入依存度（2002年）

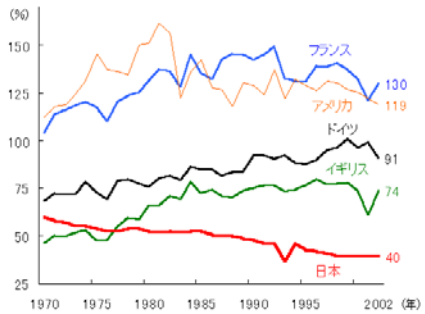


（注）カロリー自給率を100から引いて求めた。畜産物の食材は飼料自給率を考慮しているので例えば牛乳は国産であるが輸入依存度は57%となっている。使っている食材の平均自給率から求めているので現実値そのものではない。
（資料）農水省「食料自給率早見ソフト（平成14年度版）」

◆ どこから輸入しているのでしょう？

アメリカ、カナダ、ブラジル、チリ、中国、台湾、韓国、タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、オーストラリア、ニュージーランド、イタリア、フランス、ノルウェー、ロシア、南アフリカ、その他

しかし日本は、昔から食料自給率がこのように低かったわけではありません。（農林水産省データより）



◆ 日本の食料自給率は、70年代には60%でした。
この40年で30%下がったことになります。

◆ それに比べて欧米先進国は、
イギリス 46% → 74%
ドイツ 68% → 90%
アメリカ 102% → 119%
フランス 104% → 130%
と、自給率を上げています。

こども

モデルプログラム B

子どもたちのしあわせのために

回　数	4 回
所要時間	各回45分
対　象	小学校高学年以上

ねらい

- 世界の子どもたちの多様な暮らしぶりや学校の様子を知り、世界に関心を持つ。
- 世界の子どもたちの状況を知ることを通して、自分たちの当たり前をふりかえる。
- 自分たちを含めて、世界中のすべての子どもたちが、幸せに十分に生きるために大切なことを考える。

子どもたちのしあわせのために

各回のねらいと流れ

第1回　他の国の学校の様子を知ろう！日本の学校の様子を紹介しよ ⇒ P. 23

資料 1

- 他国の学校（学校生活）について知り、世界の多様性や日本との共通性に気づく。
- 日本の学校（学校生活）についてふりかえり、その特徴を紹介できるようになる。

① 世界の子どもたちと学校の様子について知る（25分）
② 日本の学校の様子についてふりかえる（15分）
③ ふりかえり（5分）

第2回　他の国の子どもたちはどんなふうに暮らしているのかな！？ ⇒ P. 25

資料 2
資料 3
資料 4
資料 5

- 自分の1日の生活をふりかえり、何にどのくらいの時間を使って暮らしているのか確認する。
- 世界には、日本とは異なる多様な文化や習慣や子どもの暮らしがあることを知り関心を持つ。

① 自分の1日の生活をふりかえり、友達の1日と比べてみる（15分）
② 他の国の子どもの多様な暮らしについて知る（25分）
③ ふりかえり（5分）

第3回　子どもが「遊ぶ」「学ぶ」「お手伝いする」のは何のため！？ ⇒ P. 27

資料 6

- 調理実習を通してその国の食文化への理解を深める。
- 食材の産地を確認して日本と世界とのつながりを考える。

①「子ども」と「遊ぶこと」「学ぶこと」「お手伝いすること」について考える（25分）
②「お手伝い」と「児童労働」の違いについて知る（15分）
③ ふりかえり（5分）

第4回　すべての子どものしあわせのために大切なこと・必要なもの ⇒ P. 29

資料 7-1
資料 7-2
資料 8
資料 9

- 戦争や貧困など困難に直面している子どもたちがいることを知り、私たちの当たり前は世界の当たり前ではないことに気づく。
- すべての子どものしあわせのために、大切なこと、必要なもの、できることを考える。

① 戦争や貧困など困難な状況で生きる世界の子どもについて知る（15分）
②「子どもの権利」について知り、権利を奪われた子どもたちに共感的になる（10分）
③ すべての子どものしあわせのために大切なこと、必要なこと、自分にできることを考える（20分）

用語解説

「子ども」の定義

「子どもの権利条約」では、国籍、性別、障がいのあるなしを問わず、０歳から18歳のすべての人と定義しています。

児童労働

「児童労働」とは、子どもの成長にとって害のある労働のことをさします。子どもの労働すべてをさすわけではなく、国際条約にしたがった定義としては、15歳未満（＝義務教育を受けるべき年齢、途上国では当面14歳とすることができます）の子どもの労働、13歳未満（途上国では当面12歳）の子どもの軽易な労働、18歳未満の危険で有害な労働のことをさし、児童労働でないものは、「子どもの仕事」として区別されています。（→Ｐ.28）

児童労働の現状

世界の５～17歳の児童労働者数は２億1,800万人（７人に１人：2004年）。
現在、経済活動に従事する子どもたちの割合が世界で最も高い地域は、サハラ以南地域アフリカで26％、5,000万人近い児童労働者が存在しています。アジア・太平洋地域では、１億2,200万人の子どもたちが経済活動に従事しています。
働く子どものうち、およそ10人に7人が農業、22％がサービス業、９％が工業・建設・製造業などに従事しています。

児童労働の原因

- 貧困
- 子どもの教育へのアクセスがない
- 親の教育の欠如
- 子どもの地位が低い価値観や社会慣行
- 地域社会の労働
- 地方から都市への移住
- 家庭の問題
- 不適切な法律の施行　　など

子どもの権利条約

「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。（→Ｐ.31）

国連では、現行の「子どもの権利条約」を見直して2000年5月に次のふたつの選択議定書（条約を実施する中で、もっと強めたり、おぎなったりした方がよいと思われた部分を定めた文書。）が採択されています。

1. **「武力紛争への子どもの関与に関する選択議定書」**
   第38条では、15歳にならない子どもを兵士にしてはならない、と定めていますが、この選択議定書では兵士としてよい年齢を15歳から18歳に引き上げています。
2. **「子どもの売買、子どもの買春および子どものポルノグラフィーに関する選択議定書」**
   第11条、第21条、第32条、第33条、第34条、第35条、第36条で定められている子どもの権利を守るために、特に子どもの売り買いや子どもを性的に搾取する買春やポルノグラフィーを禁止し、違反した人への取りしまりを各国内で強化すること、とされています。

より深めるための参考サイト

- 国際労働機関（ＩＬＯ)駐日事務所　「児童労働」
  http://www.ilo.org/public/japanese/region/asro/tokyo/ipec/index.htm
- ユニセフ　「子どもの権利条約」　http://www.unicef.or.jp/kodomo/kenri/index.htm

使用する教材

ｱﾝｺﾞﾗ	ｸﾛｱﾁｱ	ﾊﾟｷｽﾀﾝ	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ
ｳｶﾞﾝﾀﾞ	ｺｰﾄｼﾞﾎﾞｱｰﾙ	ﾊﾞﾇｱﾂ	ﾎﾝｼﾞｭﾗｽ
ｵﾗﾝﾀﾞ	ｻｳｼﾞｱﾗﾋﾞｱ	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	ﾓﾝｺﾞﾙ
ｶﾞｰﾅ	ｻﾓｱ	ﾍﾟﾙｰ	ﾖﾙﾀﾞﾝ
ｶﾒﾙｰﾝ	ﾆｶﾗｸﾞｱ	ﾎﾞﾘﾋﾞｱ	ﾗｵｽ
ｸﾞｱﾃﾏﾗ	ﾉﾙｳｪｰ		

準備するもの

- グループ数×2枚
- 参加者数×3枚
- グループ数セット

第1回

他の国の学校の様子を知ろう！
日本の学校の様子を紹介しよう！

45分

Ⅰ　世界の子どもたちと学校の様子について知る（25分）

1 「世界の（日本以外の）学校や学校生活」について、知っていること、聞いたことがあることなどを、ポップコーン方式で共有する。

ポップコーン方式 →P. 5

2 ３～4人のグループになり、それぞれ 資料１ の15カ国のうち1カ国を受け持つ。その国の学校の様子について書かれた資料を読み、グループで協力して、その国の学校の様子に関して「日本にもあるもの／こと」「日本にはないもの／こと」を、模造紙に対比表でまとめる。

対比表 →P. 3

資料１ は、1と2がアジア。3と4が中東。5～7がヨーロッパ。8～11がアフリカ。12と13が中南米。14と15がオセアニアからのピックアップ。世界各地の15カ国から自由に参加者／学習者が選択してもよいし、あらかじめファシリテーターがどこかの地域にフォーカスして国の選択肢を少なくしてもよい。

日本にもあるもの／こと	日本にはないもの／こと

3 他のグループの対比表を、ギャラリー方式で見て回り共有する。

ギャラリー方式 →P. 5

Ⅱ　日本の学校の様子についてふりかえる（15分）

4 世界の学校や学校生活についてわかったことを基にしながら、他国の子どもたちに向けて、日本の学校（学校生活）を紹介する絵や文章を各自で作る。

5 グループの中で発表し、共有する。

Ⅲ　ふりかえり（5分）

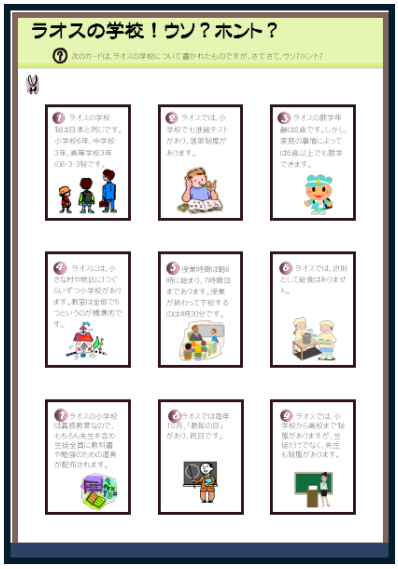
6 世界の学校（学校生活）について知り、日本の学校（学校生活）をふりかえってみた感想や、その比較から違いに驚いたことや、日本にもあるといいと思ったもの（こと）など、感想を発表する。

資料１ 世界の学校

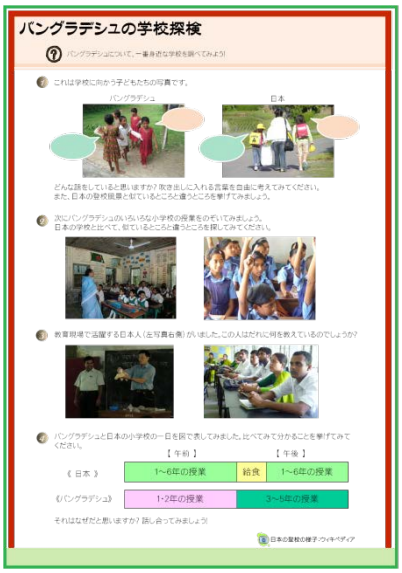
① ラオスの学校！ウソ？ホント？	018	ﾗｵｽ P.13･14
② バングラデシュの学校探検	011	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ P.17･18
③ サウジアラビアの学校へ行ってみよう！	022	ｻｳｼﾞｱﾗﾋﾞｱ P.11･12
④ アリの１日	024	ﾖﾙﾀﾞﾝ P.17･18
⑤ クロアチアの学校生活　あるコト！？ないコト！？	056	ｸﾛｱﾁｱ P.13･14
⑥ ヌノー君のある１日	071	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ P.13･14
⑦ オランダの学校　ウソ？ホント？	051	ｵﾗﾝﾀﾞ P.11･12
⑧ 比べてみよう！アンゴラと日本の学校	088	ｱﾝｺﾞﾗ P.13･14
⑨ くらべてみよう！コートジボワールと日本の学校	098	ｺｰﾄｼﾞﾎﾞﾜｰﾙP.15･16
⑩ カメルーンの学校にまつわるウソ？ホント？	095	ｶﾒﾙｰﾝ P.15･16
⑪ ウガンダの学校！日本と違う？日本と同じ？	089	ｳｶﾞﾝﾀﾞ P.17･18
⑫ ペルーの学校・日本の学校	038	ﾍﾟﾙｰ P.23･24
⑬ グアテマラの教育　ウソ？ホント？	031	ｸﾞｱﾃﾏﾗ P.23･24
⑭ 教育は大切？バヌアツの教育事情	082	ﾊﾞﾇｱﾂ P.29･30
⑮ サモアの学校、今なにをしているところ？	077	ｻﾓｱ P.13･14

資料１ は、クイズ形式のもの、写真から考えるもの、1日のスケジュールを比べるもの…など様々な手法で、その国の子どもたちの暮らしや学校生活を知る資料になっています。

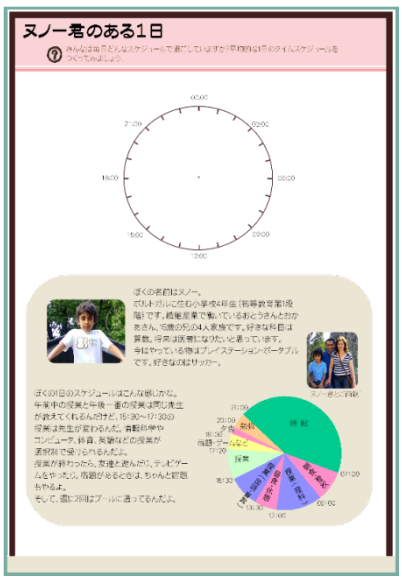
①



②



⑥



⑫

第2回

他の国の子どもたちはどんなふうに暮らしているのかな！？

45分

Ⅰ　自分の1日の生活をふりかえり、友達の1日と比べてみる（15分）

1. ４～５人の８グループになり、まずは各自、配布された 資料２ の左欄に、自分の１日（平日）の生活を書き入れる。

ワークシートの左欄には、朝起きてから夜寝るまで、何時頃に何をしているか、何にどれくらいの時間を使っているかを書き入れる（起床、朝食、学校へ行く準備、通学時間、学校の授業、部活動、塾、帰宅後の宿題や復習、遊び、家族との時間、お手伝い、夕食、寝るまでの時間、就寝などなど）。
時間に余裕があれば、休日バージョンも作成すると個人差がより出る。

2. 各自、自分の１日の生活の流れを書き入れてみて、気づいたこと、わかったことなどの感想をグループで共有する。

Ⅱ　他の国の子どもの多様な暮らしについて知る（25分）

3. グループごとに配布された 資料３ の写真を見て、その国の子どもの生活を想像してみる。どんな風に暮らしていると思うか、１日の生活の様子はどんなふうか想像して、Ａ４用紙に書く。

4. グループで話したことを全体で共有する。

5. ニカラグアの子どもノーリンの１日について書かれた 資料４ を各自読み、資料２ の真ん中の欄に、ノーリンの１日の生活の流れを書き入れる。

6. ８グループがそれぞれ、資料５ の４カ国のうちの１カ国を受け持ち（同じ国を担当するグループが２チームできる）、資料を読んで、その国の子どもの暮らしについてわかったこと（日本と同じところ、日本と違うところ、驚いたことなど）を 資料２ の右欄に書き入れる。

7. 自分たちのグループが受け持った国の子どもの暮らしについて、わかったことを他のグループに発表し、共有する。

同じ国を受け持つチームが２つずつあるので、どちらか一方が先に発表し、もう片方は、前のグループが言わなかったことを付け加える形で追加発表をする。

Ⅲ　ふりかえり（5分）

8. 資料２ に記入した、自分の１日、ニカラグアのノーリンの１日、他の４カ国の子どもたちの暮らしを比較してみて、感じたこと、気づいたことなど、一番下の枠内に各自書く。

9. 各自書いたことをグループで共有する。

資料 2	ワークシート「世界の国々の友達の１日を知ろう！」		
資料 3	暮らしぶりを比べてみよう	034	ﾆｶﾗｸﾞｱ P.13･14･16･17
資料 4	ノーリンの１日／お母さんの話／協力隊員の話	034	ﾆｶﾗｸﾞｱ P.15
資料 5	① 教えて！マルコ君PART 2	056	ｸﾛｱﾁｱ P.20
	② 小学生の１日は？	064	ﾉﾙｳｪｰ P.18
	③ プーさんのある１日	018	ﾗｵｽ P.29･30
	④ サモアの１日、わたしの１日	077	ｻﾓｱ P.16

資料 2

年　　組　　名前：

ワークシート　「世界の国々の友達の１日の生活を知ろう！」

時間	自分の1日	ノーリンの1日	「　　」の子どもの1日

資料 4　**ノーリンの1日**

時　間	行　動
6:00	起床 シャワー（水浴び）ごはんがあれば食べる
7:00～12:00	学校
13:00～16:00	パンを売りに市場へ もしくは弟たちの面倒
17:00～18:00	別の場所へパンを売りに
18:00～19:00	宿題
19:00～21:00	夕食、TVを見る
21:00	就寝

ニカラグアのノーリン（10歳）

ノーリンは、今はニカラグアのヌエバギネアに住んでいますが、生まれたところはカリブ海にあるコーンアイランドです。お父さんの実家であるヌエバギネアに引っ越してきました。カリブ海側には、アフリカ系の人も多く住んでいて、スペイン語の他に英語や現地語も使われています。

ノーリンは６人兄弟の４人目ですが、女の子は彼女だけです。お母さんは今妊娠４ヶ月です。

お父さんはタクシーを洗う仕事をしています。お母さんは週に２回パンを作っています。

お母さんが作ったパンを子どもたちが売っています。

学校から帰ると、パンを売ったり、兄弟の面倒をみたりと家の手伝いをします。クリスマス休みなど、長い間休みが続く時は、それに加えて朝からそうじ、食事の準備など家のことを手伝っています。

第3回

子どもが「遊ぶ」「学ぶ」「お手伝いする」のは何のため！？

45分

Ⅰ 「子ども」と「遊ぶこと」「学ぶこと」「お手伝いすること」について考える（25分）

1. 6チームに分かれ、3つのテーマ「遊びチーム」「学びチーム」「お手伝い（子どもの仕事）チーム」各2チームずつになる。

2. それぞれのチームは自分たちのテーマについて、「わたしたちはどこでどんな遊び／勉強・習いごと／お手伝いや係活動をしているか？」を話し合い、模造紙の左半分にリストアップする。

3. それぞれのチームのテーマごとに、「わたしたちはなぜ遊ぶのか？／学ぶのか？／お手伝いや係活動をするのか？」その理由や目的や目標を右半分にブレインストーミングで箇条書きにする。

ブレインストーミング →P. 3

4. まずは同じテーマで考えた2チーム間で模造紙を回し読みして共有し、その後、違うテーマで考えた3チーム間で模造紙を回し読みして共有する。

私たちは、子ども時代に遊んだり、学んだり、何か役割を担って家庭や誰か他の人の手伝いをすることを通して、多くのものに出会い、その経験を通して自分のよさや力を知り、自分の可能性を伸ばすことができる。
「遊ぶ」「学ぶ」「手伝う／参加する」機会が守られていることは、人として豊かに育つ大切なプロセスを守られていることであると、気づけるといい。今当たり前にあるものの大切さもふりかえることができるといい。

Ⅱ 「お手伝い」と「児童労働」の違いについて知る（15分）

5. 児童労働の実態を書いた 資料6 を、グループで分担して声に出して順番に読む。

児童労働 →P.22

6. 資料6 に象徴される「児童労働」と言われるものと、「お手伝い（子どもの仕事）」とのちがいは何かの説明を聞く。

7. 「児童労働」と「お手伝い（子どもの仕事）」とのちがいについて、ファシリテーターから解説を聞き、世界の児童労働の実態等についての理解を深める。

- 児童労働 →P. 22
- 児童労働とお手伝い（子どもの仕事）との区別 →P. 28
- 児童労働の現状 →P. 22

Ⅲ ふりかえり（5分）

8. 子どもにとって「遊ぶこと」「学ぶこと」「手伝いをすること」の意味を考えたり、「児童労働」の現状について学んで、感じたことや気づいたことなどを共有する。

資料 6
①「カカオ農業の現場で起きていること③」　093 ｶﾞｰﾅ P. 27
②「事例１：「鉱山で働くラウル君１１歳」　039 ﾎﾞﾘﾋﾞｱ P. 21
③「ホンジュラスの児童労働　事例１　事例２」　040 ﾎﾝｼﾞｭﾗｽ P. 22
④「サッカーなんかしたことないよ」　010 ﾊﾟｷｽﾀﾝ P. 29

2 3 例えば、こんな模造紙ができあがることが考えられます。

わたしたちはどこでどんな遊びをしているか？	なぜ遊ぶのか？
グラウンドでサッカー 校庭で野球 お店でカードゲーム 教室でおしゃべり 自分の部屋でマンガを読む プレイパークで冒険ごっこ 家でDS 友達の家でトランプ 家でテレビを見る	楽しいから ドキドキしたいから 友達と一緒にいたいから 珍しいカードが欲しいから 身体を動かしたいから 気持ちいいから 友達と仲良くしたいから 自由な時間だから 息抜き ひまつぶし なんとなく

わたしたちはどこでどんな勉強をしているか？	なぜ学ぶのか？
塾で英会話 学校で算数 家で宿題 学校の授業 サイエンスクラブで工作 水泳 少年チームでサッカー 習字 そろばん バレエ ダンス 	みんなが行ってるから 将来役立つから 先生に言われたから お母さんに叱られるから テストでいい点をとるため いい学校に入るため 将来お金をかせぐため 将来やりたい仕事をやるため

わたしたちはどこでどんなお手伝いをしているか？	なぜお手伝いするのか？
家でそうじ 食事のあとかたづけ 弟たちの面倒 留守番 ゴミ捨て 学校で先生の本を運ぶ 学校で資料を配る 犬の散歩 お年寄りの荷物を運ぶ 	お母さんに言われるから お母さんの機嫌がよくなるから 人が喜んでくれるから お小遣いがもらえるから 犬がかわいいから 気持ちいいから

6 「児童労働」と「子どもの仕事」との区別　(→P. 22)

児童労働＝Child Labour	子どもの仕事＝Child Work
○ 教育を妨げる…学校に通えない ○ 健康的な発達を妨げる…長時間同じ姿勢 ○ 有害危険なもの…農薬や危険な機械を使う ○ 搾取的である…買春・ポルノ、子ども兵士 ※ 1つでもあてはまれば児童労働	○ 教育を受けることができる ○ 子どもの年齢や成長に見合っている ○ 健康的な成長を助け、責任感や技能を身につけることができる

第4回

すべての子どものしあわせのために 大切なこと・必要なもの

45分

Ⅰ 戦争や貧困など困難な状況で生きる世界の子どもについて知る（15分）

1. 4人グループになり、グループに配布された 資料 7-1 と 資料 7-2 を２人ずつ分担して読み、わかったことを後からグループの他のメンバーに話し共有する。

Ⅱ「子どもの権利」について知り、権利を奪われた子どもたちに共感的になる（10分）

2. 資料 8 を読み、 資料 5 や 資料 6 の子どもたちについて、「守られていない」と思う権利をチェックする。
3. 自分の権利（または日本の子どもの権利）についてもチェックする。
4. ❷と❸を通して感じたこと、わかったことなど感想を各自、 資料 9 のワークシートに記入する。
5. ワークシートに記入したことについて、グループで共有する。

Ⅲ すべての子どものしあわせのために大切なこと、必要なこと、自分にできることを考える（20分）

6. すべての子どもたちがしあわせに自分らしく生きるために、必要なもの、大切だと思うことをグループで考えリストにする。
7. グループで考えたリストについて、全体で発表する。

> 最初に発表したグループのリストに追加していく形でファシリテーターが板書し、全体で共有する。

8. 世界のすべての子どものしあわせのために自分ができること、また、このクラスのみんなが元気で楽しく過ごすために自分にできることを考え、 資料 9 のワークシートの中段に各自書く。
9. 各自ワークシートに書いたことをみんなに宣言する。

> 世界の子どもを取り巻く困難な状況は、自分たちに無関係ではなく、日本や自分たちとも間接的にではあるが、つながっていることに気づくことができれば、世界の子どものためにできることの幅が広がる。
>
> ○ 問題のある国の大統領や代表に、子どもを助けてくれるように手紙を出す
> ○ 児童労働で作られているものは何かを調べ、それを材料として使っている商品は買わない
> ○ 戦争にはどんな理由であれ、ぜったいに反対であることを表明する
> ○ まずは自分のクラスが居心地のよいクラスになるよう、自分ができることを考える
> ○ クラスみんなでできる世界の子どものための国際協力を考え、実行するなど

10. 時間に余裕があれば、第１～４回で学んできた「世界の子どもたち」について、全体を通しての感想を 資料 9 のワークシートの下段に各自書き、ふりかえる。

資料 7-1 ストリートチルドレンを知っていますか？
／モンゴルの路上で暮らす女の子の話　017 ﾓﾝｺﾞﾙ P.21･22

資料 7-2 子ども兵士―子どもの未来を奪わないで　089 ｳｶﾞﾝﾀﾞ P.21･22

資料 8 子どもの権利条約
子どもの権利条約チェック　039 ﾎﾞﾘﾋﾞｱ P.23･24

資料 9 ワークシート「子どもの権利は守られている！？」

資料 8

「子どもの権利条約」チェック！！

守られていると思うものには○を、守られていないと思うものには×をつけましょう。

条（抜粋）	内　容	わたしや日本	
(2) 差別の禁止	子どもは、国のちがいや、男か女か、どのようなことばを使うか、どんな宗教を信じているか、どんな意見をもっているか、心やからだに障害があるかないか、お金持ちであるかないか、などによって差別されません。		
(6) 生きる権利・育つ権利	すべての子どもは、生きる権利をもっています。国はその権利を守るために、できるかぎりのことをしなければなりません。		
(9) 親と引き離されない権利	子どもは、親といっしょにくらす権利をもっています。ただし、それが子どもにとってよくない場合は、はなれてくらすことも認められます。はなれてくらすときにも、会ったり連絡したりすることができます。		
(12) 意見を表す権利	子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっています。その意見は、子どもの発達に応じて、十分考慮されなければなりません。		
(16) プライバシー・名誉は守られる	子どもは、自分のこと、家族のくらし、住んでいるところ、電話や手紙など、人に知られたくないときは、それを守ることができます。また、他人から誇りを傷つけられない権利があります。		
(26) 社会保障を受ける権利	子どもやその家族が生活していくのに十分なお金がないときには国がお金を払うなどして、暮らしを手助けしなければなりません。		
(27) 生活水準の確保	子どもは、心やからだのすこやかな成長に必要な生活を送る権利をもっています。親（保護者）はそのための第一の責任者ですが、親の力だけで子どものくらしが守れないときは、国も協力します。		
(28) 教育を受ける権利	子どもには教育を受ける権利があります。国はすべての子どもが小学校に行けるようにしなければなりません。さらに上の学校に進みたいときには、みんなにそのチャンスが与えられなければなりません。学校のきまりは、人はだれでも人間として大切にされるという考え方からはずれるものであってはなりません。		
(32) 経済的さく取・有害な労働からの保護	子どもは、むりやり働かされたり、そのために教育を受けられなくなったり、心やからだによくない仕事をさせられたりしないように守られる権利があります。		
(35) 誘拐・売買からの保護	国は、子どもが誘拐されたり、売り買いされたりすることのないように守らなければなりません。		

資料 9

ワークシート　「子どもの権利は守られている！？」

◆いろいろな国の子どもたちの状況を知り、「子どもの権利」について学び、わかったこと・気づいたことは？

◆すべての子どもたちがしあわせに自分らしく生きるために、必要なもの、大切だと思うことは何？

◆このクラスのみんなが元気に楽しく過ごすために、自分ができること・したいこと！

◆「世界の子どもたち」を４時間学んで、全部を通しての自分の感想を書いておこう！

6 「すべての子どもたちがしあわせに自分らしく生きるために必要なもの、大切だと思うこと」
例えば…

○ 家族と一緒に暮らせること
○ 安心して住める家があること
○ ちゃんと食事ができること
○ 学校に行けること
○ 自由に遊べること
○ やりたいことができること
○ 周りに認められること
○ 自分で決められること
○ 危険な目にあわないこと

など

子どもの権利条約　（日本ユニセフ協会、外務省 HPより）

「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。 18歳未満を「児童（子ども）」と定義し、国際人権規約（第21回国連総会で採択・1976年発効）が定める基本的人権を、その生存、成長、発達の過程で特別な保護と援助を必要とする子どもの視点から詳説。前文と本文54条からなり、子どもの生存、発達、保護、参加という包括的な権利を実現・確保するために必要となる具体的な事項を規定しています。1989年の第44回国連総会において採択され、1990年に発効しました。日本は1994年に批准しました。

◇子どもの権利条約が定める4つの大切な権利

この条約は大きくわけて次の4つの子どもの権利を守るように定めています。そして、子どもにとっていちばんいいことを実現しようとうたっています。

●生きる権利

防げる病気などで命をうばわれないこと。
病気やけがをしたら治療を受けられることなど。

●育つ権利

教育を受け、休んだり遊んだりできること。
考えや信じることの自由が守られ、自分らしく育つことができることなど。

●守られる権利

あらゆる種類の虐待（ぎゃくたい）や搾取（さくしゅ）などから守られること。
障害のある子どもや少数民族の子どもなどは特に守られることなど。

●参加する権利

自由に意見をあらわしたり、集まってグループをつくったり、自由な活動をおこなったりできることなど。

◇締約国・地域は・・・

１９３の国、地域がこの子どもの権利条約を批准、加入、継承しています。
これらの国が負う義務は、条約を批准してから2年以内、その後は5年ごとに、各国は国連の「子どもの権利委員会」で国内の子どもの権利を守る取り組みについて報告を出すことです。

誇り

モデルプログラム C

世界の観光大使になろう！

回　数	4回
所要時間	各回45分
対　象	小学校高学年以上

ねらい

- 世界には、いろいろな地域・国があり、文化も価値観も環境も多様であることを知る。
- 文化・生活・風土などの視点からその国について多角的に知り、国の「観光大使」になりきり、自国の良さをPRすることを通して、多文化を肯定的に受け止め楽しむ力を育てる。
- 異なる国の多様な文化や良さを知ったと同じように、日本や自分たちが暮らす地域についてふりかえり、日本（地域）の観光大使となり、紹介する。

世界の観光大使になろう！

各回のねらいと流れ

第1回　世界の国々について知ろう！～一つひとつ特別なOnly one! ～

⇒ P. 35

資料 1

- 日本語以外の言語について知り、世界ではたくさんの言語が話されていることを確認する。
- 他者（他国）を知り、自分（自国）をふりかえり、自分の「常識」だけが「常識」ではないことに気づく。

① 「世界の多様性」といつもとは異なるものに出会った時の気持ちの動きを体感する（25分）
② 言語以外の世界の多様性について知る（20分）

第2回　多様な世界を伝える「観光大使」になろう！　～知り・なりきる編～

⇒ P. 37

資料2
資料 3

- 世界各国の文化・自然・生活などについて知り、世界の多様性を実感する。
- ある国の観光大使になりきることを通して、その国の良さや特徴についての理解を深める。

① 世界各国の文化・自然・生活などについて知り、世界の多様性を実感する（40分）
② 自国をアピールする「観光大使」になりきるための準備をする（5分）

第3回　多様な世界を伝える「観光大使」になろう！　～伝え・気づく編～

⇒ P. 39

資料3
資料4

- 多様な世界を知らせる「観光大使」として、どうしたら自国の良さが理解されるかを考える。
- 各国の「観光大使」の発表を共有し、世界の多様性と多様な世界のおもしろさを実感する。

① なりきり「観光大使」の発表を共有し、それぞれの国の特徴や良さを知る（35分）
② 発表を聞いてわかったこと、感じたことを共有する（10分）

第4回　多様な国々の良さを知り、自国の良さをふりかえり、発信しよう！

⇒ P. 41

資料 3
資料 5

- 他国を知ることを通して、自国をふりかえり、どの国もその国なりの良さと誇りを持っている世界の素晴らしさを確認する。
- 日本や自分たちが暮らす地域の「観光大使」として、日本の文化、地域の特性や愛着のある事柄について、まとめ、発信する。

① 第3回までの復習（5分）
② 日本や自分たちが暮らす地域についてふりかえる（20分）
③ 観光大使となり、自国や地域についてのプレゼンをし、共有する（15分）
④ ふりかえり（5分）

用語解説

国籍

特定の国の構成員（国民）である身分・資格です。取得には出生・届出・帰化の３つの方法があり、出生による取得の場合、自国民から生まれた子に自国の国籍取得を認める「血統主義」と、自国で生まれた子に自国の国籍取得を認める「出生地主義」の２つの考えがあり、日本は血統主義を原則としています。なお、アメリカ合衆国など、世界には多重国籍を認めている国もありますが、日本は国籍単一の原則を採用しています。

アイデンティティー

「自己同一性」などと訳され、「個性」「国・民族・組織などある特定集団への帰属意識」「特定のある人・ものであること」の意味で使われます。自分が何者であるかの意識、自分が他の誰でもない自分であるという意識と言い換えられます。

世界遺産

ユネスコ（UNESCO、国連教育科学文化機関）世界遺産センターが、世界遺産条約（世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約）に基づき登録した遺跡、景観、自然など、人類全体が共有すべき顕著な普遍的価値を有し、次代に引き継いでいくべき貴重な財産のことです。「文化遺産」「自然遺産」「複合遺産」の３種類に分類され、2012年７月現在、全世界で962件が登録されており、日本では、文化遺産が12件、自然遺産が４件登録されています。

「日本は尊厳と誇りの国」

東日本大震災時、国連、IMF、世界銀行などの間で話題になったチェーンメールがありました。
そこには「日本人から学ぶ10の事」が書かれ、多くの外国人からコメントが寄せられたそうです。

1：冷静さ
騒ぎ喚く、あるいは悲嘆にくれる人はなく、そこには静寂だけがある

2：尊厳
水と食料の配給を整然と待つ人々。そこには声を荒げる人、粗野な行動を取る人間はいない

3：建築技術
素晴らしい建築家たち。建物は揺れたが、崩壊することはなかった

4：他者への思いやり・品格
全員の手に渡るよう、それぞれが必要な物だけを買う

5：秩序
略奪や、クラクションの音・無謀な追い越しはなく、ただ相互理解がある

6：自己犠牲の精神
原子炉に海水を注入するべく、50人の作業員が原発に留まった。彼らにこの恩を、どう返せばいいのだろうか？

7：優しさ
レストランは値下げをし、警備されていないATMに手を出す者もいない。強い立場の者は、弱い立場の者を気遣っていた

8：災害訓練
老人や子供を含め、すべての人間が何をすべきなのかを把握している。そして彼らは、淡々とそれを行った

9：メディアの報道姿勢
ニュース速報時、メディアは見事な自制を見せた。愚かなレポーターはおらず、冷静なルポが続いた

10：道義心
店が停電に陥った際、客は商品を棚に戻し、静かに店から立ち去った

使用する教材

ｱｾﾞﾙﾊﾞｲｼﾞｬﾝ	ｶﾀｰﾙ	ｽﾍﾟｲﾝ	ﾌﾞｰﾀﾝ
ｱﾒﾘｶ	ｶﾅﾀﾞ	ﾀｲ	ﾌﾞﾙｷﾅﾌｧｿ
ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ	韓国	ﾀｼﾞｷｽﾀﾝ	ﾍﾞﾈｽﾞｴﾗ
ｱﾙﾒﾆｱ	ｷﾘﾊﾞｽ	ﾀﾝｻﾞﾆｱ	ﾍﾞﾙｷﾞｰ
ｲｴﾒﾝ	ｸﾞｱﾃﾏﾗ	ﾁｭﾆｼﾞｱ	ﾐｸﾛﾈｼｱ
ｲﾝﾄﾞ	ｻｳｼﾞｱﾗﾋﾞｱ	ﾄﾞﾐﾆｶ(共)	南ｱﾌﾘｶ
英国	ｻﾞﾝﾋﾞｱ	ﾈﾊﾟｰﾙ	ﾖﾙﾀﾞﾝ
ｴｼﾞﾌﾟﾄ	ｼﾞﾌﾞﾁ	ﾊﾟﾗｵ	ﾘﾄｱﾆｱ
ｵｰｽﾄﾗﾘｱ	ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ	ﾌｨｼﾞｰ	ﾛｼｱ
ｵﾗﾝﾀﾞ	ｼﾞﾝﾊﾞﾌﾞｴ		

準備するもの

- グループ数×2枚
- 参加者数×2枚
- グループ数セット

第1回

世界の国々について知ろう！
～一つひとつ特別なOnly one！～

45分

Ⅰ 「世界の多様性」といつもとは異なるものに出会った時の気持ちの動きを体感する （25分）

1 全員が動きやすいスペースを作り、円形に立って並ぶ。

2 １人１枚ずつ配布された 資料１ の内容を各自確認する。

3 資料１ に従い、各国の言語であいさつを交わしあい、同じあいさつの人と出会ったら、仲間としてグループになりまとまって動く。

- １人しかいない場合もある。
- 資料１ は、世界で最も多く話されている母語のトップ10の言語を使用している。(参考データ「世界の母語人口表」*)
- 世界人口に占める、その母語の使用者数は、
  1位：中国語(885)、2位：英語(400)、3位：スペイン語(332)、4位：ヒンディー語(236)、5位：アラビア語(200)、6位：ポルトガル語(175)、7位：ロシア語(170)、8位：ベンガル語(168)、9位：日本語(125)、10位：ドイツ語(100)
  ＊( )内の単位：百万人 出典：文部科学省「世界の言語別使用人口」
- 「もしも世界（70億人）が40人のクラスなら?」という設定にした場合の人数は、
  中国語：14人、英語：6人、スペイン語：5人、ヒンディー語：4人、
  アラビア語：3人、ポルトガル語：2人、ロシア語：2人、ベンガル語：2人、
  日本語：1人、ドイツ語：1人

これを参考に、それぞれのクラスの人数に合わせて、どの言語を何枚配布するかを計算し、あらかじめ 資料１「世界のあいさつカード」を必要数印刷して切り離し、カードの準備をしておく。

4 同じ言語であいさつをする仲間同志のグループができたら、グループごとに着席する。

１人の場合は、1人で1つのグループになる。

5 グループができたら、自分たちの持っているカードが何語なのか、どのあたりで話されているか予想してみる。1人同士でグループになった場合は、お互いのあいさつは、どこの国のあいさつかを予想しあう。

参加者が実際にあいさつをしている間に、ファシリテーターは、黒板に答え合わせ用の世界地図を用意する。

世界地図 →P.131

6 黒板に貼られた地図を見ながら、「その言語は世界のこのあたりで話されている」というファシリテーターによる答え合わせと、今日クラスの人数に合わせて配ったカードの数そのものが、世界の母語の比率であることを聞く。

7 グループごとにここまでをふり返り、以下のことについて考える。
- ○ いつもとは異なる言葉であいさつすることや、知らない言葉であいさつされることは、どんな気持ちがしたか。
- ○ 同じあいさつの人どうしグループに分かれた時に感じたことは何か。
- ○ 人数の少ないグループを見て、どう思ったか。
- ○ 世界で話されている言語のトップ１０とその割合を知ってどうだったか。

などなど

8 グループで話し合ったことを、全体で共有する。

Ⅱ　言語以外の世界の多様性について知る（20分）

9 ファシリテーターが出題する「世界のウソ？ホント？クイズ（→P. 43）」について、ウソだと思うか、ホントだと思うかを自分で考え、教室に設けられた「ウソ」コーナー、「ホント」コーナーに移動することで、意思表示する。

- 教室をウソ、ホントに分けて、正解と思うところへ移動できるようにする。
- テストではないので、不正解でも問題はないことと、ゲーム感覚で、予測しながら「知る」楽しさを感じられるように配慮する。
- クイズは17問あるが、時間や参加者の状況により、7カ国～10か国くらいを取捨選択するといい。解答は一問終わるごとに伝える。

10 以下の視点で、この授業のふりかえりをして、全体で共有する。

○ この授業の中で知ったことについて、驚いたこと、おもしろいと思ったこと、印象に残ったことは何か

○ 世界には多様な言語、文化や習慣があるが、日本と比較して気づいたこと、わかったことはあるか

資　料

資料 1　世界のあいさつカード

資料 1　世界のあいさつカード

中国語

ポルトガル語

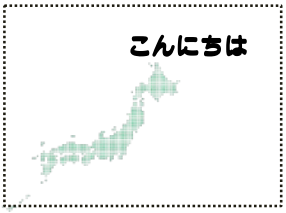
英語

ロシア語

スペイン語

ベンガル語　※

ヒンディー語



日本語

アラビア語　※

ドイツ語

※ 今回はベンガル語とアラビア語にしましたが、どちらも共通に使われ、下のように区別されます。
「アッサラーム　アライクム」
（イスラム教の人向け）
「ノモシカール」
（イスラム教徒以外）

第2回

多様な世界を伝える「観光大使」になろう！
～知り・なりきる編～

45分

Ⅰ　世界各国の文化・自然・生活などについて知り、世界の多様性を実感する（40分）

1 ７チームに分かれる（各チームは４～５人程度）。

● 世界には現在約200の国と地域があるが、その地理的要素によって、大きく7つの地域（「アジア」「北米」「中南米」「中東」「アフリカ」「欧州」「太平洋（オセアニア）」）分けられることを大まかな世界地図と地域を板書しながら（または世界地図を黒板に貼り）説明する（中東をアジアに含む場合は、6つの地域となる）。
● これから7つのチームはそれぞれ、地域を1つ担当すること、さらにその地域にある国についてじっくりと知るための「情報シート」を用意したこと、また、その「情報シート」をチームで協力して読み解き、その国の「観光大使」になりきって、自国の特徴やよいところを、他チームにアピールするための「お国自慢マップ」（絵や写真やイラストや説明文などを加えたカラフルなポスター調のもの）を模造紙に作り、発表しあうことを伝える。

2 各チームの代表がジャンケンをして、「アジア」「北米」「中南米」「中東」「アフリカ」「欧州」「太平洋」の中から、自分のチームが担当する地域を決める。

3 担当地域について書かれた 資料２ 情報シート「〇〇ってどんな国？お国自慢マップをつくろう！」をチーム全員で協力して読み、理解する。

資料２ は7つの地域それぞれ2～4カ国分、合計19カ国分あるが、すべての資料から参加者が選んでもいいし、ファシリテーターがあらかじめ選定しておいてもいい。自分たちで選べば、協力しながら1つのことを選び決める力のトレーニングになるし、こちらで選定しておけば、時間短縮になり資料印刷の無駄がなくてすむ。

4 各チームに１枚配布された世界地図の中から、自分たちの担当国はどこにあるか見つけ、色を塗る。

世界地図
→P.131

5 模造紙の真ん中に❹の地図を貼り、 資料２ からわかったこと（国のよさや特徴、見所など）を箇条書きにしたり、写真を切り貼りしたり、イラストを描いたり、キャッチコピーを作ったりして、コラージュをつくる。

コラージュ
→P.4

コラージュのどこかに「〇〇国お国自慢マップ」または、その国のキャッチコピーを考え、タイトルを入れる。

Ⅱ　自国をアピールする「観光大使」になりきるための準備をする（5分）

6 次の時間に担当国の観光大使としてみんなに自国をアピールできるよう、チームに１枚配布された 資料３「ワークシート」の①～③の空欄をグループで協力して記入する。

①ここは伝えたい！ということ
②とっておきのトピックス（おもしろ情報）
③わたしたちが知っていたこと
（またはわたしたちがイメージしていたことと同じだったこと）

7 資料 3 の④と⑤を記入するために、担当国について、それぞれ何を調べてくるといいか、チームで役割分担をして宿題にする。

④ わたしたちが新たに調べたこと

⑤ その他伝えておきたいこと

資　料

資料 2　〇〇ってどんな国? お国自慢マップをつくろう!

資料 3　ワークシート「〇〇をアピールする『観光大使』になりきる！

資料 2　〇〇ってどんな国? お国自慢マップをつくろう!

【アジア】	①ソウルだけじゃない さまざまな韓国	007	韓国 P.11～14
	②「これも?それも?みーんなタイ!!」	006	ﾀｲ P.5～8
	「もっと知りタイ?! タイ王国 ～三択クイズ～」		
	③「これもブータン!それもブータン!」	012	ﾌﾞｰﾀﾝ P.9･10
	「ブータンの学校と子どもたち! ウソ?ホント?」	012	ﾌﾞｰﾀﾝ P.15･16
【北米】	④「フォトで旅するアメリカ」	025	ｱﾒﾘｶ P.9･10･41
	「探検! アメリカの学校」	025	ｱﾒﾘｶ P.17･18
	⑤「ここもカナダ。そこもカナダ。」	026	ｶﾅﾀﾞ P.7～10
	「カナダのウソ?ホント?」		
【中南米】	⑥「ベネズエラってどんな国?」	036	ﾍﾞﾈｽﾞｴﾗ P.5～8
	⑦「フォトギャラリー～旅はチキンバスに乗って～」	031	ｸﾞｱﾃﾏﾗ P.15･16
	「意外と似てる?グアテマラと日本」	031	ｸﾞｱﾃﾏﾗ P.19･20
【中東】	⑧「ヨルダン縦断 フォトギャラリー」	024	ﾖﾙﾀﾞﾝ P.9～13
	「えっ!びっくり～!ウソ ホント クイズ」		
	⑨「イエメンってどんな国? パート2」	019	ｲｴﾒﾝ P.7～10
	「アラビアンナイトの世界へようこそ」		
【アフリカ】	⑩「ジンバブエ ウソ?ホント? クイズ」	104	ｼﾞﾝﾊﾞﾌﾞｴ P.7～10
	「ツーリスト・パラダイス・ジンバブエ」		
	⑪「ブルキナファソ入門クイズ」	111	ﾌﾞﾙｷﾅﾌｧｿ P.5～8
	「ブルキナファソを旅しよう!」		
	⑫「写真で見るチュニジアの見所」	109	ﾁｭﾆｼﾞｱ P.5～8
	「チュニジアのウソ?ホント?」		
【欧州】	⑬「リトアニアにまつわるウソ?ホント?」	072	ﾘﾄｱﾆｱ P.5･6
	「リトアニアを旅しよう!」	072	ﾘﾄｱﾆｱ P.11･12
	⑭「英国ってすごい!～多くの「世界初」を生み出した国～」	049	英国 P.9～12
	「英国を旅しよう!」		
	⑮「スペインってどんな国?スペインマップをつくろう!」	059	ｽﾍﾟｲﾝ P.5～8
	「スペインのあれこれウソ?ホント? クイズ」	059	ｽﾍﾟｲﾝ P.9･10
	⑯「アゼルバイジャンってどんな国?」	044	ｱｾﾞﾙﾊﾞｲｼﾞｬﾝ P.5～10
	「アゼルバイジャンにまつわるウソ?ホント?」		
【太平洋】	⑰「フォトで旅するオーストラリア」	075	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ P.7～10
	「知っているようで知らないオーストラリアのウソ?ホント?」		
	⑱「パラオ巡りの旅♪」	084	ﾊﾟﾗｵ P.7～10
	「パラオの暮らし ～三択クイズ～」		
	⑲「ミクロネシアを知る!クイズ ミクロネシア♪」	087	ﾐｸﾛﾈｼｱ P.5～10
	「今日から君は、ミクロネシア観光大使!!」		

第3回

多様な世界を伝える「観光大使」になろう！
～伝え・気づく編～

45分

Ⅰ なりきり「観光大使」の発表を共有し、それぞれの国の特徴や良さを知る（35分）

1. 第2回の担当国別のチームに分かれ、宿題を共有し、資料３「ワークシート」の④・⑤に書き入れる。

2. 資料３をもとにして、第２回で作成したコラージュを完成させ、持ち時間３分でどのように発表するかをグループで相談して決める。

   できるだけチームの全員が参加して発表できるように工夫する。

3. 発表。（3分×7グループ）

4. 各チームの発表が終わるごとに、1人１枚配布された資料４「ワークシート」に気づいたことを記入する。

   - その国の特徴としてわかったこと・印象に残ったこと・意外に思ったこと　など
   - その国について良いと思ったこと・すばらしいと感じたこと　など

Ⅱ 発表を聞いてわかったこと、感じたことを共有する（10分）

5. みんなからの説明を聞いて、世界についてわかったことや気づいたことを、チームで３つほどにまとめ、紙に書く。

6. 回し読みで他のチームの気づきを共有する。各国について気づいたことをまとめる。

資料 3　ワークシート「〇〇をアピールする『観光大使』になりきる!」
資料 4　ワークシート「観光大使」の発表から気づいたこと

資料 3

ワークシート
〇〇をアピールする『観光大使』になりきる！

担当した国		
①	ここは伝えたい!というところ	
②	とっておきのトピックス(おもしろ情報)	
③	わたしたちが知っていたこと	
④	わたしたちが新たに調べたこと	
⑤	その他伝えておきたいこと	

資料 4

ワークシート　「観光大使」の発表から気づいたこと

地域と国名	特徴的・印象的・意外な点	良い点
アジア（　　）		
北米（　　）		
中南米（　　）		
中東（　　）		
アフリカ（　　）		
ヨーロッパ（　　）		
オセアニア（　　）		

★　自分たちが住む地域を描いたコラージュです。★

第4回

45分

多様な国々の良さを知り、自国の良さをふりかえり、発信しよう！

Ⅰ 第3回までの復習（5分）

1 第１回の「あいさつゲーム」と「各国ウソ・ホントクイズ」、第２回の「７つの地域・７カ国のコラージュ作り」、第３回の「なりきり観光大使」に取り組んできた感想を、クラス全体で自由に発表し共有する。

Ⅱ 日本や自分たちが暮らす地域についてふりかえる（20分）

2 4～5人のグループになり、日本全体について考えるグループ４つと自分たちが暮らす地域について考えるグループ４つに分かれる。

3 グループに１枚配布された 資料５ を項目ごとに分担して読む。

4 資料３ を参考にしながら、日本や地域に関して、「特徴」「誇りに思うこと」「よいところ・好きなところ」「おもしろいところ・トリビア」「ぜひ伝えたいこと」などをグループで協力してブレインストーミングする。

ブレインストーミング →P. 3

5 ❹を基に、観光大使として、自国や地域について紹介し、アピールするための模造紙（イラストやコメント入り）を作成する。

Ⅱ 観光大使となり、自国や地域についてのプレゼンをし、共有する（15分）

6 日本についてまとめたグループ、地域についてまとめたグループごとに集まる。

7 集まったグループ同士で、それぞれ作成した模造紙を回し読みする。

8 日本チーム、地域チームそれぞれ回し読みをした中で、最もアピール性の高い模造紙を、日本チームから１グループ、地域チームから１グループ、挙手投票で決める。

9 選ばれたグループ（日本１、地域1、合計2グループ）は、日本チーム、地域チームを代表してプレゼンを行い、全体で共有する。プレゼンのポイントとして、自分のグループの模造紙のことだけではなく、❼の回し読みで共有した他の３グループの模造紙の情報も追加しながら発表する。

参加者／学習者の状況に応じて、全グループ日本をテーマにまとめてもいいし、都道府県や学区などをテーマにしてもよい。

Ⅲ ふりかえり（5分）

10 第1～４回をふりかえり、わかったこと、感じたことなどの感想を自由に全体で共有する。

資料 3 ワークシート「〇〇をアピールする『観光大使』になりきる!」

資料 5 「キリバスを知り、自分（日本）を物語ろう！」　076 ｷﾘﾊﾞｽ P. 11・12

資料 5 エレアタさんが紹介するキリバス

※ 配布資料とはレイアウトが異なります。

毎日の食事

主食は、最近はオーストラリアから輸入される米が主で、ほかに、パンの実やタロイモ、ココナッツの果肉は昔から食べられてきた主食だよ。副食は、お父さんが捕ってきたお魚を食べることが多いよ。炊事の燃料はヤシの実の皮。水は村にある井戸の地下水を汲んでいるよ。家族一緒に、大きな台に食べ物を囲んで取り分けて楽しく食べるよ。

1 パンの実：果肉はでん粉質で濃いバナナのような味

2 ごはんも魚も大皿に盛って

3 炊事場の様子

4 食事の風景

普段着ている服

男性は、ショートパンツと木綿のシャツがほとんで、中には上半身裸の人もいるよ。女性は、膝下まであるゆったりとしたスカートにポロシャツが多いよ。そしてみんな裸足！　伝統的には、男女ともにラバラバと呼ぶ腰巻きのようなスカートを着ることもあるよ。

5 上半身裸で椰子ジュース

6 女性の一般的な服装

7 街中の子どもも裸足

住んでいる家

私は、長方形の壁のない高床式の家に住んでいるよ。家の材料は、島に生えているパンダナスという木をとことん使っていて、幹を柱に、葉っぱを屋根や寝具のマットなどにしているよ。床もヤシの葉の芯を並べたもの。街中では、ブロック壁にトタン屋根の家が多くなってきているみたい。

8 伝統的な北タラワの家

9 部屋の様子

学 校

義務教育は、６歳から入る小学校で、７年生までだよ。７年生の時に、国の入学試験を受けて、セカンダリー・スクール（中高等学校）へ進むんだ。ここで不合格になった子は、もう２年間小学校に通んだけど、９年生の時にもう一度試験があって、先に入った子と同じ学年に編入できるから大丈夫。でも、セカンダリー・スクールに進むのは小学生の約20％程度なんだ。最後には全国で30名前後まで絞られて、修了すると奨学金を受けて、海外の大学に進学していくよ。

10 小学校

11 セカンダリー・スクール

気 候

私が住んでいるタラワ島では、気温はいつも27～28℃ぐらいで、雨は年間2,000㎜ぐらい降るらしい。いわゆる「熱帯性気候」ってやつで、昼夜の気温の変化も小さいんだ。

12 集会所に集まって踊る

キリバス人の性格や国民性

みんな陽気で、歌と踊りが大好き。調子に乗ると、何時間でも歌って踊っているよ。自給自足ができるので、食べ物の心配がないし、性格はとてもおおらか。お金に関しても執着がなく、「持てる者から、持たざる者へ」という風習が続いていて、村の仲間としっかり助け合って生活しているよ。

①「アルゼンチン」という名前は「金」を意味するラテン語から生まれた。

× アルゼンチンという名前は「銀」を意味するラテン語、Argentumから来ています。

② カリブを代表するお酒としてラム酒があるが、カリブの海賊たちはこのラム酒のことを「グロッグ」と呼んでいた。

○ サトウキビを原料とするこのお酒はとても強く、グロッグは「グロッキー（英語ではgroggy：疲れてふらふらな様子）」の語源となっています。

③ オランダの大晦日には年越しドーナツを食べる。

○ 日本では年越しそばを食べますが、オランダではオリボレン（→オランダ教材P.17）と呼ばれる丸いドーナツを食べる習慣があります。

④ アルメニア語でアルメニア人のことを「ハイ」と言う。

○ アルメニア語ではアルメニア人を「**ハイ**」、アルメニアの国を「**ハヤスタン**（アルメニア人の国）」、アルメニア語を「**ハイェレン**」と言います。ちなみに、アルメニアの住民の約９６％がアルメニア人です。他にクルド人やロシア人、アゼルバイジャン人もいます。

⑤ ロシアの領土は　アメリカの領土の約２倍あります。

○ ロシアの領土は、約1,710万ｋ㎡であり世界で最も面積が広い国です。アメリカの領土は約940万k㎡で、ロシアはアメリカのおよそ２倍の領土です。世界の陸地面積の8分の1であり、ヨーロッパからアジアにまたがる東西の距離は約8,900ｋｍにおよびます。日本と比べると45倍の広さがあります。

⑥ 日本ではほとんどの街にあるコンビニ。ベルギーにはコンビニはなく、スーパーも夜８時には閉まる。

○ スーパーによっては曜日で営業時間が異なるので、要注意です。

⑦ フィジーでは舟で登校することもある。

○ フィジーでは舟で集団登校しますが、住んでいる島がみんなバラバラなので、学校の始まる時間は遅いです。また、高学年生が低学年生に付き添うため、終業の時刻も学年に関係なく同時刻です。

⑧ ネパールの国旗の形は、長方形ではない。

○ ネパールの国旗は、長方形ではありません。この特徴的な形はネパール王国のシャア王家と宰相家のラナ家が使っていた2つの三角旗を組み合わせて簡略化したことが由来とされているとか、古代ヒンドゥーの神々によって使われた三角形を模したもの…だと言われています。最も目を引く真紅はネパールの国花であるシャクナゲの色を表わしていて、縁取りの青は平和（海と空）を表わしています。白で描かれているものは月と太陽で、ネパールが月（平和）や太陽（光）と同じように持続し、発展するようにという願いがこめられています。

⑨ シンガポールは、果物の王様ドリアンが有名。ドリアンの形をした建物がある！？

○ エスプラネードというドリアン型のホールが2002年にオープンしました。他にも、ビルとビルの最上階をつなぎ空に浮かぶ船をデザインしたビルなどが新しく建設されました。

⑩ タジキスタンの学校は日本と同じく４月から始まります。

× ９月から始まります。

⑪ インドでは、各地で様々な言語が話されていて、紙幣も言語ごとに異なったものを使用しています。

× 言語ごとに異なった紙幣を使用してはいませんが、多言語、多民族国家を象徴して、インドの紙幣には17の異なった言語が記されています。

⑫ カタールの緯度は沖縄の緯度と同じである。

○ カタールの緯度は日本では沖縄に相当します。アラビア半島沿岸部の典型的な砂漠気候で、高温多湿な夏季（特に7～8月）には最高気温が45度を超えることがありますが、11月～4月の気候は比較的温和です。降雨量は非常に少ないですが、10月～3月にかけては雨が降ることがあります。

⑬ タンザニアで歯を磨くときは木の枝を使う。

○ モトンガという木の枝を、日本の歯ブラシよりやや長いくらいに切り、その端を指で揉み柔らかくして、その部分を歯にあててみがきます。

⑭ ジブチでは、雨がほとんど降りません。たまに雨が降ると…『いい天気だね！』と言う。

○ 晴れているのが当たり前で、雨の降ることが少ないジブチ。雨が降ると、いい天気だ！と喜びます。

⑮ ザンビアの世界遺産「ビクトリアの滝」のすぐ上には、人が泳ぐプールがある。

○ ザンビアには、世界遺産「ビクトリアの滝（ザンビア名「モシ・オ・トゥニャ」）」がありますが、この滝の上の川に、自然のプールが設けられています。誤って落ちると100メートルほど下へ転落してしまうため、「世界一危ないプール＝デビルズプール（悪魔のプール）と呼ばれています。水量が少ない時期にだけ入ることができるそうです。

⑯ 南アフリカの国旗は世界で一番多くの色が使われている。

○ 世界でもっとも色数の多い国旗がこの南アフリカの国旗です。あらゆる文化と民族の共栄を願って、「レインボーフラッグ（虹の旗）と呼ばれています。（→詳細は南アフリカ教材P.30参照）

⑰ エジプトの夏休みは４ヶ月もあります。

○ エジプトの小学校は2学期制です。1学期は9月中旬～1月中旬、2学期は2月上旬～5月下旬でテストが終わったら約4か月の夏休みになります。

モデルプログラム D

多様性は豊かさ

～世界は多様！同じじゃないから面白い！違っているから世界は豊か～

回　数	3回
所要時間	第1回／90分　第2・3回／各45分
対　象	小学校高学年以上

ねらい

- 人も世界も多様であることを実感し、自分（自国）との違いを楽しむ。
- 自分（自国）の当たり前は、他者（他国）の当たり前とは限らないこと、自分の価値観は知らず知らずのうちに自分の中に固定化されていることに気づく。
- 「違い」を排除や対立の対象とするのではなく、「多様であること」を肯定的に受けとめ、多様性を生かしあう社会こそが豊かな社会であることを確認する。

多様性は豊かさ

～世界は多様！同じじゃないから面白い！違っているから世界は豊か～

各回のねらいと流れ

第1回　多様な世界と肯定的に出会おう！　違いを楽しもう！（45分×2） ⇒ P. 47

資料 1
資料 2
資料 3

- 世界や人の多様性に触れ、違いを楽しみ、他者・他国に関心を持つ。
- 他者や他国を知ることを通して、自分（自国）をふりかえり、自己（自国）理解を深める。

① 世界の国々の名前や世界地図に親しむ（35分）
② 世界の地域の分け方を理解する（10分）
③ 世界の多様性を知る（30分）
④ 多様な世界を知り、日本についてふりかえる（10分）
⑤ ふりかえり（5分）

第2回　わたしの当たり前＝世界の当たり前！？「自分とは異なるもの」＝「間違い」？ ⇒ P. 49

資料 2
資料 3
資料 4

- 自分の当たり前をふりかえり、自分の中にもある固定観念に気づく。
- 世界の文化も人々の価値観も多様であり、自分とは異なるものであっても、間違いではないことを理解する。

① 自分の当たり前と他の人の当たり前を比べてみる（25分）
② わたしにとっての当たり前は、世界の当たり前ではないことを確認する（15分）
③ ふりかえり（5分）

第3回「違い」は「豊かさ」～多様だから豊かな世界！～ ⇒ P.51

資料 5

- 「他の人と違っている」ことで否定・排除されたり、「同じであること」を強いられる社会の生きにくさや危険性をふりかえる。
- 多様性を生かしあう社会は、自立と共生を支える「豊かな社会」であることを確認する。

① 「違うものを受け入れなかった人たち」の苦い歴史について知る（20分）
② 「多様性」を認める社会のよさや豊かさについて考える（20分）
③ ふりかえり（5分）

用語解説

国家

国際法では、次の３つの要素をもつものを「国家」と言います。
○ 領域（領土・領水・領空）が一定に区画されている
○ 人民（国民・住民）が恒久的に属し、一時の好悪で脱したり復したりしない
○ 権力ないし主権（正当な物理的実力）が対外的・対内的・排他的に行使できる。つまり主権的である。
このほか、「他国からの承認」を第4の要素に挙げる場合もあります。
2012年1月現在、日本が承認している国の数は日本以外に194カ国、国連加盟国は193カ国です。

多文化共生社会

愛知県の多文化共生推進プランでは、「国籍や民族などの違いにかかわらず、ともに安心して暮らせる社会」と定義づけています。1990年の入管法改正により、日本政府は日系三世とその家族の定住者としての在留資格を認め、南米からの移住者が急増しました。生活者としての外国人が増えたことにより、近所や学校、職場に外国籍の方がいるのがあたりまえの状況の中でことばの問題、文化・生活習慣の違いからくるトラブル、子どもたちの教育問題など様々な課題が生じています。そうした状況を踏まえ、2006年（平成18年）には、総務省から各自治体に向けて「地域における多文化共生推進プラン」が出されました。その中で「多文化共生」は、人権尊重に合致するとともに、住民の異文化理解力の向上やユニバーサルデザインのまちづくりを推進することになり、地域の活性化につながり、地域にとって大きな意義があるとされています。

難民

1951年の「難民の地位に関する条約」では、「人種、宗教、国籍、政治的意見やまたは特定の社会集団に属するなどの理由で、自国にいると迫害を受けるかあるいは迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた」人々と定義されています。政治的な迫害のほか、武力紛争や人権侵害などを逃れるために国境を越えて他国に庇護を求めた人々を指します。また、紛争などによって住み慣れた家を追われたけれども、国内にとどまっているかあるいは国境を越えずに避難生活を送っている「国内避難民」も近年増加しています。このような人々も、難民と同様に外部からの援助なしには生活できません。適切な援助が実施できなかった場合、これらの人々は国境を越えて難民となり、結局、受け入れ国の政府や国際社会は、より重い負担を強いられることになってしまいます。難民が生まれてしまう原因としては、戦争・民族紛争、人種差別、宗教的迫害、思想的弾圧、経済的困窮、自然災害、飢餓、伝染病などが挙げられます。そうしたことをきっかけに、貧困、資源、政治、環境などの要因も複雑に絡み合って、難民となってしまうのです。

アパルトヘイト

「分離」「隔離」を意味するアフリカーンス語からきている言葉で、1948年に南アフリカ共和国において、白人と非白人（黒人、インド人、アジア系住民、カラード）を土地利用、賃金、居住、教育、参政権、結婚などで差別的に取り扱った人種隔離政策を指します。レストランやホテルなどの公共施設や公園、電車・バスなど白人用と非白人用に分け、白人用の施設を使用した黒人は逮捕されました。異なる人種間の結婚だけでなく恋愛も禁止する法律も制定されました。黒人労働者は白人の10分の1の賃金で働かされたといいます。国際社会から大きな非難を浴び、1991年に全廃が宣言され、1994年には全人種が参加した総選挙において史上初の黒人大統領ネルソン・マンデラ氏が選出されました。

より深めるための参考サイト

総務省「世界の統計」http://www.stat.go.jp/data/sekai/index.htm

使用する教材

120カ国すべての教材

準備するもの

- グループ数×３枚
- 参加者数×３枚
- グループ数セット

第1回

多様な世界と肯定的に出会おう！
違いを楽しもう！

90分

Ⅰ 世界の国々の名前や世界地図に親しむ（35分）

1 ６人グループになり、グループのメンバー全員で協力して知っている国名を出し合い、書記役となった１人が、「知っている国リスト」として、３分で紙に書き出す。

2 次に、１人１枚配布された世界地図から、グループでリストアップした国を手分けして探し出す。

世界地図
→P.131

❶は、世界の国々の名前に関心を持つと共に、協力を学ぶ活動でもある。3分という短い時間でなるべくたくさんの国名をリストアップするためには、グループ全員が協力する必要があることを伝える。❷の、地図を使った国名探しは5分間を設定する。自分たちが❶でリストアップした国を、5分でいくつ探し出せたかをグループ対抗で競うとゲーム性が出る。

3 ファシリテーターが提示する国（６カ国～10カ国程度）を、世界地図から各自探す。

世界の国名と地図に親しむ作業であるので、ファシリテーターは馴染みのある国（アメリカ・イギリス・ブラジル・中国・オーストラリア・エジプト・イランなど）、馴染みのない国(ベリーズ・グルジア・ボリビア・ブルネイ・バヌアツ・サントメプリンシペ・ヨルダンなど）を取り混ぜて提示する 。また、ある地域に偏らず、7地域から満遍なく提示する。なかなか見つからない様子なら、「アフリカの国」とか、「地図の北にある国」といったヒントを出す。

4 世界地図を見ながら、各自、世界地図のアウトラインをＡ４紙に書く。

Ⅱ 世界の地域の分け方を理解する（10分）

5 １人１枚配布された 資料１ を読む。

6 ❶の作業でグループで一番最初にリストアップした国々と、❸の作業でファシリテーターが提示した国々とは、世界のどの地域に属するかを、資料 1 を見ながらグループで確認する。

Ⅲ 世界の多様性を知る（30分）

7 ６人のグループになり、アジア担当、中東担当、アフリカ担当、ヨーロッパ担当、アメリカ担当、オセアニア担当を決める。

8 担当ごとに配布された 資料２ の中から、好きな国を５カ国選び、資料１ で、選んだ国の位置を確認し、10問のクイズに各自で答える。

9 配布された 資料３ を見て、各自答え合わせをする。

10 自分が担当した地域のクイズの中で、印象に残ったクイズやおもしろいと思ったことを３つ選び、グループの他のメンバーに１人２分で伝え、グループ全員で共有する。

11 グループ全員の発表が終わったら、他のグループにも教えてあげたい「世界おもしろ情報」を各グループ１つ選び、全体に向けて発表する。

12 世界の多様な国々について、クイズを通して気づいたことやわかったことなどの感想を、各自ひとつずつグループの中で発表し共有する。

Ⅳ　多様な世界を知り、日本についてふりかえる（10分）

13 日本についてあまりよく知らない外国の人に、「日本ってこんな国！」だと知ってもらうためのクイズをグループで３つ考え、模造紙に書く。

14 各グループのまとめた模造紙は回し読み方式で共有し、「日本を多角的・肯定的に知ってもらうためのいいクイズだ！」と思ったものには花丸をつける。

Ⅴ　ふりかえり（5分）

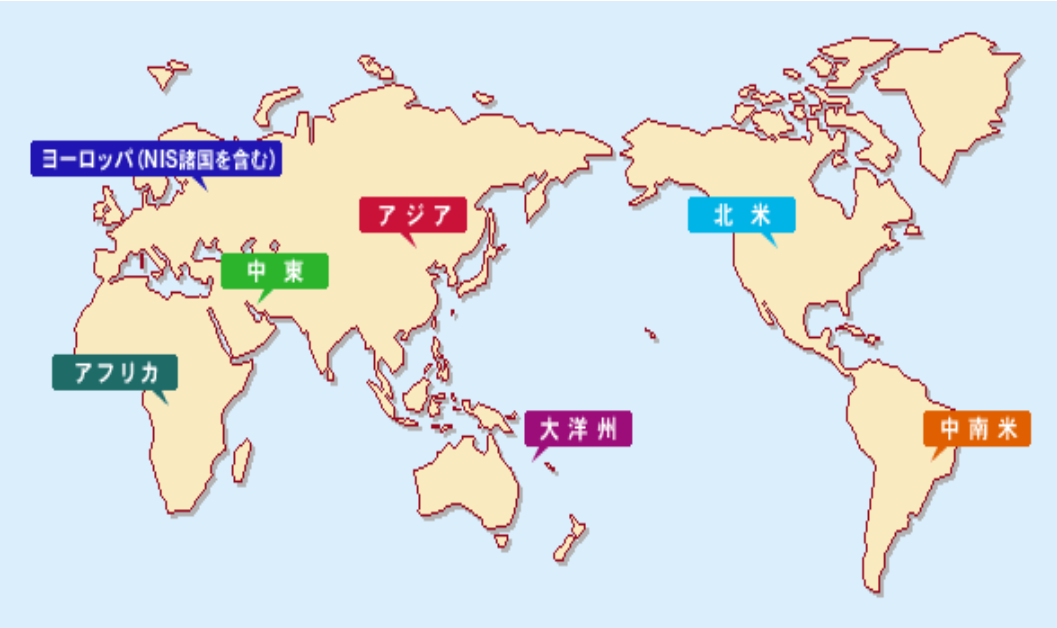
15 第１回を通してわかったこと、気づいたこと、感じたことなどを自由に発表し全体で共有する。

資　料

資料１　世界の地域の分け方

資料２　MEETS THE WORLD クイズ

資料３　MEETS THE WORLD クイズ解答



第2回

45分

わたしの当たり前＝世界の当たり前！？
「自分とは異なるもの」＝「間違い」？

Ⅰ　自分の当たり前と他の人の当たり前を比べてみる（25分）

1. ４人グループになり、それぞれ「自分のこだわり／これだけは譲れないと思っていること」でグループ内自己紹介をする。

2. 第１回で使った 資料２ と 資料３ を再度見ながら、「自分（または日本）とは違う考え方や方法で驚いたこと！」をグループで共有する。

3. 資料４ を読み、各自答える。

4. グループでそれぞれの答えを伝え合い共有する。

5. グループの他のメンバーの意見を共有してみて、わかったこと、気づいたことなどを全体に向けて自由に発表する。

Ⅱ　わたしにとっての当たり前は、世界の当たり前ではないことを確認する（15分）

6. 次のような状況に直面した時、どんな気持ちになるのか想像し、グループごとに派生図を作る。

派生図 →P.3

○ 自分が大切にしていること／もの／やり方／などをバカにされたり否定されたら？

○ もしも自分の家（国）のやり方や習慣をバカにされたり、ひどい悪口を言われたとしたら？

○ 他の人とは違ってるからという理由で、または少数意見だからという理由で、「それは間違っている」と言われたり、差別されたとしたら？

7. 他のグループの派生図をギャラリー方式で見て回り、自分のグループでは出なかった意見を持ち帰り、グループで伝え合う。

ｷﾞｬﾗﾘｰ方式 →P.5

1人ひとり顔が違うように、人の価値観も習慣も好みも文化も、人それぞれ違っていて多様であることを、❶～❼で確認したい。
世界の国が多様であるように、人も一人ひとり多様であることを実感できるといい。多様な価値観があるわけだから、自分の意見も、自分とは異なる他の人の意見も、どちらもたくさんある考えの中の一つであり、自分とは違う他の人の意見も、間違いではない。また、多数派の意見が常に正しく、少数派の意見は間違っているというわけでもない。「他と異なる」という理由で、否定されたり、排除されたり、不都合を被ることがあれば、それは差別（人権侵害）である。子どもたちが、自分と他者の人権をしっかりと意識し、守れるようになるためにも、自分とは異なるものを肯定的に受け止め、違いを楽しむことができる機会を多く作り出せるといい。

Ⅲ　ふりかえり（5分）

8. 第２回を通して気づいたこと、わかったこと、感じたことなどをグループで自由に伝えあう。

資料 4

わたしの当たり前＝あなたの当たり前？

日本に暮らすわたしたちにとっては「当たり前」のことでも、広い世界を見渡してみると、どうも世界の当たり前とは限らないようです。　日本のやり方を知ってびっくりしている人々の声を聞いてみましょう。

○人が亡くなった時、日本では火葬にすると聞きました…
　死んだ人を燃やしてしまうなんて、考えただけでも恐ろしい～っ！
＊亡くなった人を弔う方法は、火葬以外に、土葬（土に埋める）、水葬・海葬（海や川に流す）、鳥葬（鳥が食べる）など、その国や地域の文化や宗教や歴史によって多様です。

○日本では、魚を生で食べると聞きました…
　魚を生のままで食べるなんて、考えたこともないので、びっくり！
＊世界的に見ても魚介類の生食は、沿岸部などの新鮮な魚介類が手に入る限られた地域でしか見られない食文化です。

○日本人は、鼻をかむ時にはティッシュを使い、使う度に捨ててしまうと聞きました…
　鼻をかむためだけにティッシュを使って捨ててしまうなんて、そんなもったいない！
＊そもそもティッシュペーパーがない国は手で鼻をかみますし、ティッシュはあっても持ち歩くためのポケットティッシュという商品がないとか、紙の無駄遣いを嫌いハンカチを使う国など、様々です。

○日本では冬には長袖、夏は半袖の服を着ると聞きました…
　暑い夏に半袖で外に出るなんて、そんな危険なこと私たちには考えられない！
＊赤道直下で日差しが強く、気温が４０度を超えるような国では、素肌を出すことは強い紫外線に晒されることとなり逆に危険。暑い夏こそ、長袖で皮膚を防御する必要がある国があります。

○日本の大人は、子どもを誉める時、子どもの頭をなでることがあると聞きました…
　人の頭を平気でさわるなんて、なんて恐れ多い…
＊「頭は聖霊が宿る神聖な場所」という宗教的な考えから、むやみに人の頭を触ることは失礼に当たる文化もあります。

この声を聞くと、どうも日本の当たり前は世界の当たり前とは限らないようですね！
同じ日本人同士ではどうでしょう？
わたしの当たり前は、みんなにとっても当たり前でしょうか？
各自、次の質問に答えてみましょう。そして、他の人と比べてみましょう。

①目玉焼きには何をかける？　塩？醤油？	⑥犬と猫とどちらが好き？
②家の味噌汁は何味噌？　赤？白？合せ？	⑦お正月のお雑煮の形は四角？丸？
③寝る時は北枕だと落ち着かない？	⑧隣近所の人の名前を知っている？
④家でお風呂に入る順番は決まっている？	⑨「自分の家ルール」ってある？
⑤朝食はパン派？ご飯派？	⑩名古屋弁を話せる？

第3回

45分

「違い」は「豊かさ」 ～多様だから豊かな世界！～

Ⅰ 「違うものを受け入れなかった人たち」の苦い歴史について知る（20分）

1 ５～６人のグループになり、配布された６種類の 資料５ を各自１種類ずつ受け持ち、読み解く。

2 誰が何を受け入れなかったために問題が起きたのか、各自資料を読んでわかったことをグループで共有する。

3 「自分とは違っているものを認めない」「自分の方が正しく、自分とは違うものは間違いだと思い込む」とどんなことが起きるか、第2回❻で作成した派生図をもう一度確認する。

わたしたちは多様な属性（性別、国籍、年齢、障がいのあるなしなど）に属し、1人ひとり異なる価値観や好みや能力を持っている。1人ひとりはみな異なる違う人間にも関わらず、その違いを認め合わないことは、対立を招いたり、少数派である側の生きにくさにつながる危険性がある。異なる人間ではあるが、人間や文化に優劣はないこと、差別されてもいい人（いじめられてもいい人）、殺されてもいい人はひとりもいないことを確認したい。
「違いを認めあわない社会」がどれほど生きにくい社会かを想像し、違いを排除するのではなく、「違っていても間違いではない」ことを意識できるようになるといい。

Ⅱ 「多様性」を認める社会のよさや豊かさについて考える（20分）

4 「自分とは違うものや、違う考え、違う方法があることを認めあう」「それぞれに異なる1人ひとりを大切にする」と、どんなことが起きるかをグループで派生図で考え、多様性を認め合い活かし合うことの「よい影響または結果」だと思うベスト３を選び、他のグループと共有する。

派生図 →P.3

5 「お年寄りも子どもも、女性も男性も、肌の色がなんでも、背が低くても高くても、生まれた国がどこでも、障がいがあってもなくても、勉強が得意でも苦手でも…どんな人もその人が持っている良さと力を認められて、その人らしく気持ちよくみんなと仲良く暮らせる社会」にするために、

1）自分にできること
2）仲間とできること
3）大人に提案したいこと

をそれぞれ３つずつ個人で考え、グループで共有する。

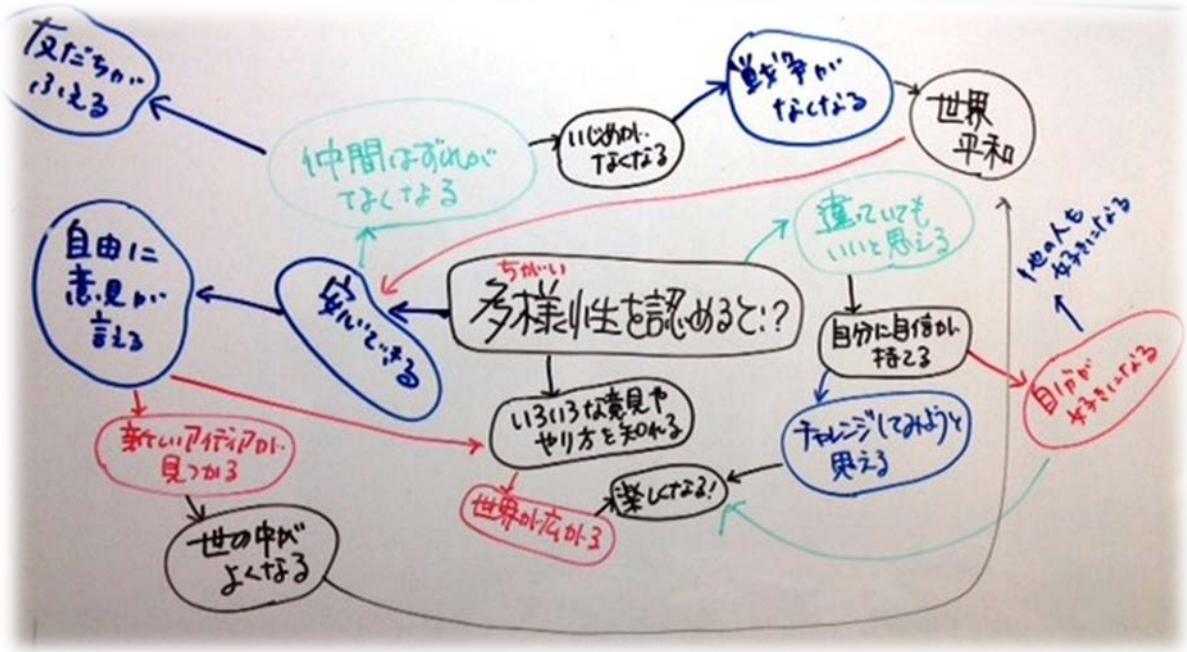
Ⅲ ふりかえり（5分）

6 １回～３回までを通して、自分が学んだこと・わかったことをふりかえり、共有する。

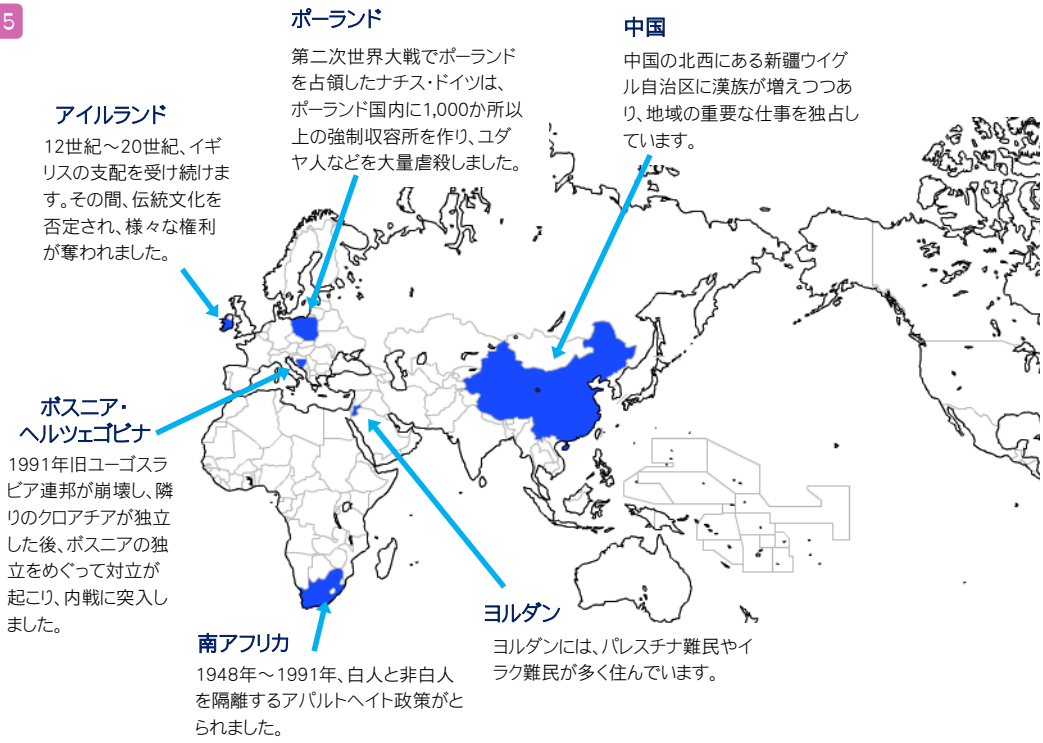
資料 5　違うものを受け入れなかった人たち

① アウシュビッツ収容所　情報シート　069 ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ P.28
② ボスニア紛争　どうして起こってしまったのだろう？　070 ﾎﾞｽﾆｱ･ﾍﾙﾂｪｺﾞﾋﾞﾅ P.23
③ もし〇〇が禁止されたら？　043 ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ P.22
④ 少数民族それぞれの思い　ウイグル問題　008 中国 P.26
⑤ アパルトヘイト　116 南ｱﾌﾘｶ P.29
⑥ 難民はどこから？解説　024 ﾖﾙﾀﾞﾝ P.22

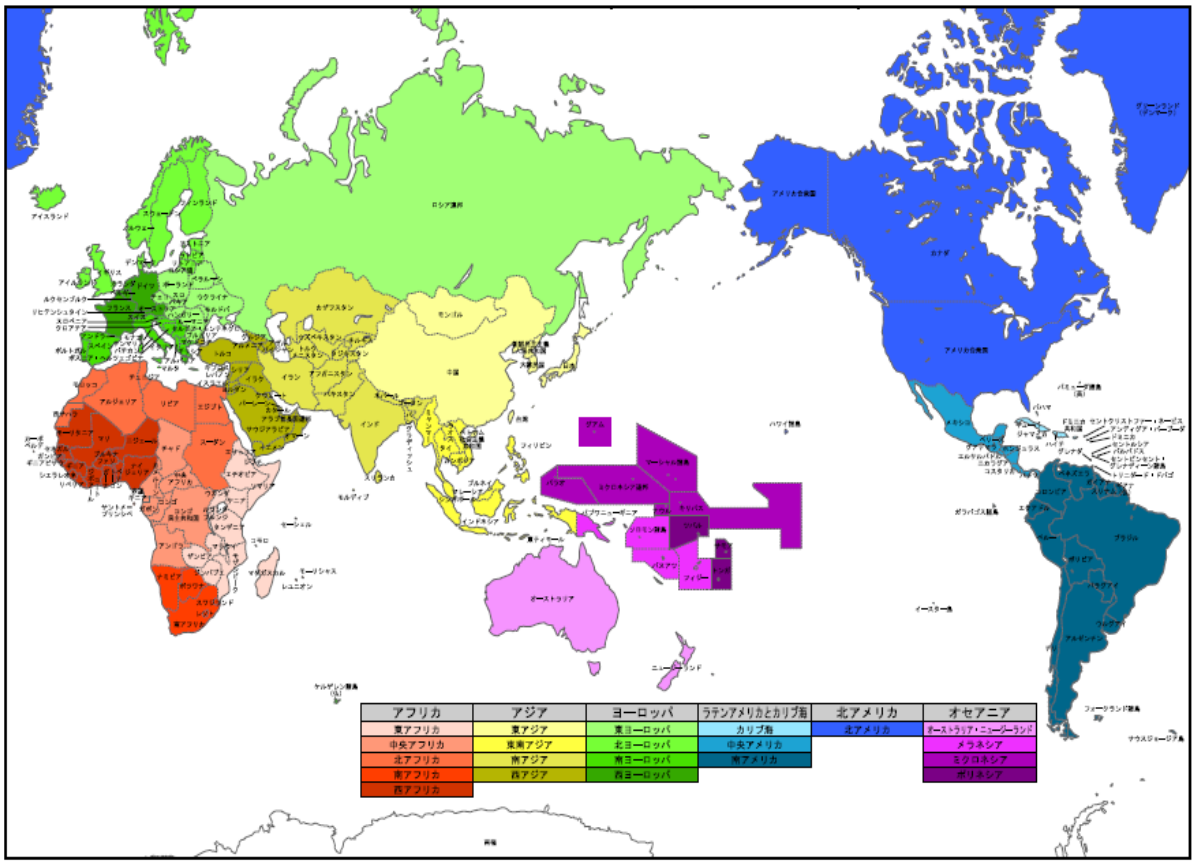
「多様性」を認めるとどうなる？？



資料 5



資料 1



出典 United Nations, World Population Prospects The 2004 Revision

世界の陸地は，大きく６つの大陸に分かれています。この６つの大陸のうち、南極大陸を除く５つの大陸と付近の島々は、６つの州に分けることができます。一般的に、州は省略されて呼ばれています。
大陸のなかでも，ユーラシア大陸は，アジア州とヨーロッパ州に分けられます。ロシアやトルコは，この二つの州にまたがった国です。また、州をさらにいくつかの地域に分けることもできます。

アフリカ州

アフリカ大陸およびその周辺のマダガスカル島などの島嶼・海域を含む地域がアフリカ州になります。アフリカはさらに、東アフリカ・中央アフリカ・北アフリカ・南アフリカ・西アフリカに分けられます。

アジア州

一般的にヨーロッパを除くユーラシア大陸全般を指しますが、政治的・経済的な立場の違いにより、異なった様々な定義がなされる場合があります。ロシアは除外されることも多いです。アジアはさらに、東アジア・東南アジア・南アジア・西アジアに分けられます。

ヨーロッパ州

ユーラシア大陸のウラル山脈より西側およびその周辺の島嶼・海域を含む地域がヨーロッパ州になります。
ヨーロッパは、東ヨーロッパ・北ヨーロッパ・南ヨーロッパ・西ヨーロッパに分けられます。

南アメリカ州

南アメリカ大陸とその周辺の島嶼・海域を含む地域が南アメリカ州になります。カリブ海・中央アメリカ・南アメリカに分けられます。

北アメリカ州

北アメリカ大陸とその周辺の、カリブ海諸島、グリーンランドやクイーンエリザベス諸島、バミューダ諸島といった島嶼からなる地域が北アメリカ州になります。

オセアニア州

ニュージーランドを含むポリネシア、ニューギニアを含むメラネシア、そしてミクロネシア全体を指します。オーストラリアと広義にはオーストラリア領のインド洋上の島も含みます。オセアニア州は、オーストラリア・ニュージーランド・メラネシア・ミクロネシア・ポリネシアに分けられます。太平洋州とも呼ばれます。

モデルプログラム E

地球環境が危ない？！

～何が危ない？なぜ危ない？どうすればいい？～

回　数	4回
所要時間	各回90分
対　象	高校生以上

ねらい

- 環境問題とはどのような問題なのか、多様な視点から包括的に理解する。
- 水、エネルギー、森林、生物という視点から、環境問題の現状を知り、自分との関わりに気づく。
- 「環境問題」の原因をさぐり、持続可能な未来を創るために役立つこと、できることを考える。

地球環境が危ない？！
～何が危ない？なぜ危ない？どうすればいい？～

各回のねらいと流れ

第1回　環境問題！？　どんな問題？ 何が問題？ ⇒ P.57

- 「環境問題」と言われるものにはどのような問題があるのか、全体像を把握する。
- 「環境」に関わる問題の影響及び原因と、私たちとのつながりを考える。

① 環境問題とはどのような問題か確認する（30分）
② 環境問題は、なぜ問題なのか？影響を考える（30分）
③ 問題を作りだしている原因を考える（30分）

第2回　私たちの暮らしと環境 ①　～「地球」の資源を消費して 成り立つ私たちの毎日 ⇒ P.59

資料 1　資料 2　資料 3

- 私たちの暮らしが、いかに多くの天然資源に依存しているかについて確認する。
- 資源の枯渇と私たちとのつながりをさぐり、問題は何かを考える。

① 私たちが日々消費している天然資源についてふりかえる（15分）
② 生活における「水資源」「森林資源」「エネルギー資源」について具体的にふりかえる（60分）
③ ふりかえり（15分）

第3回　私たちの暮らしと環境 ②　～生物の絶滅と私とのつながり～ ⇒ P.61

資料 4

- 生物の絶滅の背景と自分たちとのつながりに気づく。
- 生物絶滅の裏には、それぞれの利害を主張する多様な立場の人々がいることを理解する。

① 生物の絶滅には、多くの人々の利害が関わっていることを理解する（30分）
② オランウータンの絶滅の危機を救うために、必要なこと、自分たちにできることを考える（60分）

第4回　利害や対立を超えて、持続可能なよりよい未来を創ろう！ ⇒ P.63

資料 5-1　資料 5-2　資料 6

- 様々な環境問題を作り出している「原因」を整理する。
- 課題を解決して、対立を超え、持続可能な未来を創るための手立てを共に考える。

① 一国で複数の環境問題を抱える世界の現状を理解する（25分）
② 環境問題を作り出している原因を多角的に整理する（30分）
③ 環境問題の発生や連鎖を防ぎ、持続可能な未来を創るために役立つことを考える（30分）
④ ふりかえり（5分）

より深めるための参考サイト

- 環境省ウェブサイト　http://www.env.go.jp/
- WWFジャパン　http://www.wwf.or.jp/activities/wildlife/cat1016/

使用する教材

ｲﾗﾝ	ｷﾘﾊﾞｽ	ﾄﾞｲﾂ	ﾏﾚｰｼｱ
ｶｻﾞﾌｽﾀﾝ	ｹﾆｱ	ﾄﾙｺ	ﾓﾝｺﾞﾙ
ｶﾞﾎﾞﾝ	ﾃﾞﾝﾏｰｸ		

準備するもの

- グループ数×６枚
- 参加者数×６枚
- 参加者数×２５枚
- グループ数セット

用語解説

自然破壊

「自然破壊」という場合、森林伐採や港湾開発など、山や川、海などの空間やそこに生きる草や木、動物など、人間と人間の手の加わっていないもの（＝自然）に対する直接的な破壊を指す場合が多い。近現代を通じて、かつてないほどの都市化と工業化、開発が進んだ結果、世界各地で自然破壊が深刻化した。

地球温暖化

大気中の二酸化炭素（CO_2）など、熱を吸収する性質がある「温室効果ガス」が、人間の経済活動などに伴って増加する一方、森林の破壊などによってCO_2の吸収が減少することにより、地球全体の気温が上昇する現象のこと。異常気象や自然生態系、農業への影響などが心配されている。

森林破壊

世界の森林は、商業伐採、農地や牧草地への転換、開発などによって急速に減少している。このため、生態系に大きな影響が出ているほか、大気中の二酸化炭素（CO_2）の増大などが懸念されている。

砂漠化

乾燥地域や半乾燥地域などで、気候変動や人為的な原因で、土地が劣化し、植物が育たなくなり砂漠の面積が拡大していくこと。砂漠化による生産力の低下で食料不足が起こり、民族間の対立の原因にもなっている。干ばつや放牧地の再生能力を超えた家畜の放牧、過度な耕作、薪炭材の過剰な採取、潅漑による農地の塩分濃度の上昇などにより、地球規模で砂漠化が進行している。

海洋汚染

工場排水、産業廃棄物、廃プラスチック、タンカー事故による油の流出、生活排水などによる海洋汚染は、自然環境や野生生物の生態に大きな影響を与えるものとして、国内外で深刻な問題となっている。このため、各国は廃棄物の海洋投棄、海上焼却に関する規制を定めた「ロンドン条約」などの国際条約に参加し、海洋汚染防止に取り組んでいる。

オゾン層破壊

オゾン層は成層圏の中にあり、太陽光線に含まれる生物に有害な紫外線を始めとする日射をカットする作用がある。このオゾン層が、エアコンや冷蔵庫などの冷媒、電子回路の洗浄剤などとして使われていたフロンガスなどによって破壊され、有害な紫外線が地上に届くようになった。

ごみ問題

高度経済成長以後の日本は、大量生産・大量消費・大量廃棄型社会になり、ゴミの排出量が増大した。政府は、循環型社会形成推進基本法や、各種リサイクル法などを制定し、ゴミの排出を抑制し、資源を再利用する循環型社会の形成を目指している。しかし、事業所から排出される産業廃棄物や、家庭などから排出される一般廃棄物は依然多く、３Ｒの推進、分別の徹底、企業のリサイクル設計導入などの取り組みが急務である。

野生生物の絶滅

自然に生育する動植物は、推計存在種300万～１億1,100種、そのうち約175万種が確認されている。しかし、近年、環境の悪化や生息域の減少、乱獲などにより種の絶滅が急速な勢いで進んでいる。絶滅の恐れがある野生動植物の輸出入を規制する国際的な取り決めであるワシントン条約や、生物多様性条約などの多国間条約が締結され、世界各国が協力して野生生物の保護に取り組んでいる。絶滅の恐れのある種は、国際自然保護連合（ＩＵＣＮ International Union for Conservation of Nature and Natural Resources）の「レッドデータブック」にまとめられている。2006年には、調査対象４万168種のうち、１万6,118種が絶滅危機種とされている。

京都議定書

～地球の未来を左右する温室効果ガスの削減～

京都議定書とは、1997年12月に京都で開催された「気候変動枠組条約第３回締結国会議（COP３）」で採択された、二酸化炭素（CO_2）など6種類の温室効果ガスについての排出削減義務などを定めた議定書のこと。2005年２月16日に発効した。1990年を基準年として温室効果ガスを先進国全体で5.2％削減することを義務づけた。日本は６％の削減が義務づけられ、国内法も整備されたが、達成は危ぶまれている。

90分

環境問題！？　どんな問題？　何が問題？

Ⅰ　環境問題とはどのような問題か確認する（30分）

❶ ５人グループになり、各自知っている環境問題を付箋に書き出し、模造紙にKJ法で整理する。

KJ法→P. 4

❷ 整理したカテゴリー毎のつながりや因果関係をグループで考え、わかることを箇条書きにする。

環境問題は、すべてがつながっていること、それぞれが原因にもなれば、結果にもなること、そして原因を深めていくと、自分たちの身近な生活に関係していること、などに気づけるとよい。

❸ 他グループのKJ法成果物と、つながりから「わかること」の箇条書きを回し読みで共有する。

Ⅱ　環境問題は、なぜ問題なのか？影響を考える（30分）

❹ ❶で整理した複数の環境問題の中から、各グループどれか１つを受け持ち、その問題の未来への影響（その問題が解決しない、または問題を放置するとどうなるか）を、派生図にして予測する。

派生図 →P. 3

❺ 他グループの派生図成果物を回し読みで共有し、付け足しがあれば派生図に書き込む。同時に、派生図の中で「自分にも影響がある」と思う部分に自分のイニシャルを書く。

環境は人間を取り巻く全てのものであり、生物はその生存を環境に依存して存在する。環境問題を放置すれば、いずれは私たち人間の暮らしや命に影響を与えることになる。

Ⅲ　問題を作りだしている原因を考える（30分）

❻ ❹で受け持った環境問題に関して、その問題を作りだしている原因だと思われるものを多角的に因果関係図でさぐる。

因果関係図
→P.3

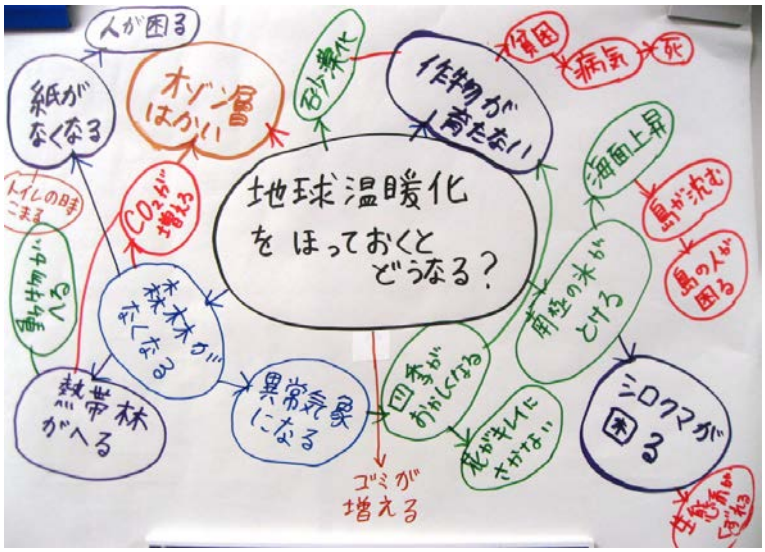
❼ 他グループの因果関係図成果物を回し読みで共有し、付け足しがあれば因果関係図に書きこむ。同時に因果関係図の中で「自分も原因の一部になっている」と思う部分に自分のイニシャルを書く。

❽ 第１回の作業を通して、気づいたこと、わかったことなどの感想を全体で共有する。

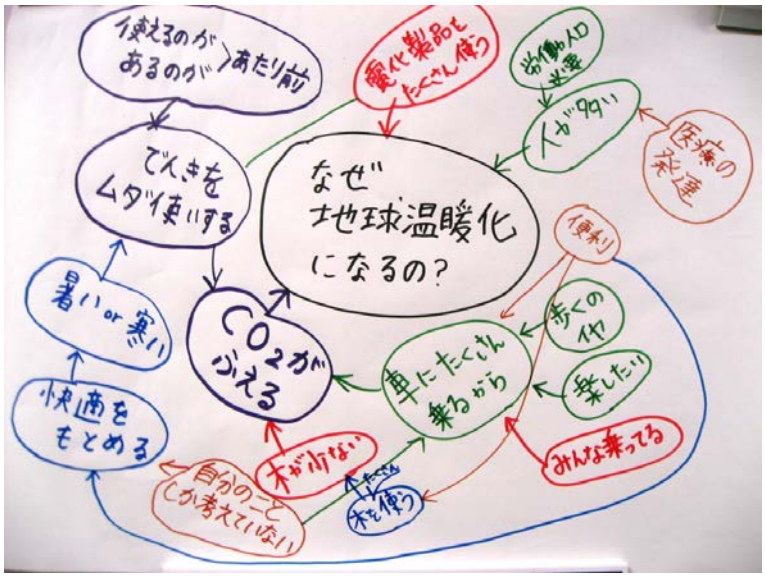
人間が作りだした環境問題によって、人間は自分たちの首をしめている。
しかし、人間が作り出したものであれば、必ず人間が解決することができるはず。
知恵を出し合おう。

KJ法

派生図



因果関係図



第2回

90分

私たちの暮らしと環境　①
～「地球」の資源を消費して　成り立つ私たちの毎日～

Ⅰ　私たちが日々消費している天然資源についてふりかえる（15分）

❶ ６人グループになり、グループで話し合い、「消費している天然資源リスト」を作成する。

「天然資源」とは、天然に存在して、人間の生活や生産活動に利用しうる物質・エネルギーの総称。水、植物・森林、動物・水産生物、金属・鉱物、化石燃料、温泉など…。

❷ グループ毎にリストアップできた数を数え、一番多く書きだしたグループに発表してもらう。発表されたもの以外をリストアップしたグループには追加で発表してもらい全体で共有する。

Ⅱ　生活における「水資源」「森林資源」「エネルギー資源」について具体的にふりかえる　（60分）

❸ ６人グループの中で、それぞれ「水資源」ペア、「森林資源」ペア、「エネルギー資源」ペアに分かれる。

「エネルギー資源」とは、私たちが活用している様々なエネルギーを作りだすもので、原子力のためのウランや化石燃料（石油、石炭、天然ガス）といった再生不可能なものと、太陽光、地熱、水力、風力、バイオマスといった再生可能なものとがある。

❹ それぞれのペアで、次のことを書き出す。

- ○ 水資源ペア　　自分たちは毎日どんなことに「水」を使っているか？
- ○ 森林資源ペア　　自分たちが使うもの、または身の回りのもので「木」で出来ているものは何があるか？
- ○ ｴﾈﾙｷﾞｰ資源ペア　　私たちが毎日生活の中で使うエネルギーにはどんなものがあるか？

❺ それぞれの天然資源が減少もしくは枯渇した場合、私たちの暮らしはどう変わるのか、困ることは何か、ペアで話し合いまとめる。

❻ 水資源ペアは 資料１ を、森林資源ペアは 資料２ を、エネルギー資源ペアは 資料３ を読み、それぞれどのような問題があるのか、問題の原因となっていることは何かを資料から読み解き、紙にまとめる。

❼ ペアでここまでまとめた❹❺❻を、グループ内で他の２ペアに向けて３分でプレゼンし、共有する。

Ⅲ　ふりかえり　（15分）

❽ ペアでの作業と他ペアとの共有を通して、気づいたこと・わかったことをグループ内で発表し、共有する。

資料１　「トルコと周辺国の水資源事情」　023 トルコ P.30
「水資源豆知識！」　023 トルコ P.31

資料２　「ゴリラを救おうプロジェクト　解説」　094 ガボン P.26
「ふわふわカシミアと大草原　解説」　017 モンゴル P.20

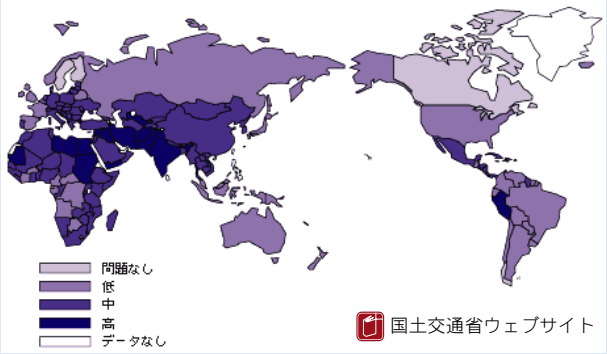
資料３　「世界のエネルギーを考えよう！」　020 イラン P.25
「世界のエネルギーを考えよう！　解説」　020 イラン P.26

世界の水資源問題

人口の急激な増加と社会の発展に伴い、多くの国で水不足が発生しています。ＷＨＯ（世界保健機関）によると世界人口の6分の１は安全な水が飲めないといわれています。水の不足は、生活用水の不足だけではなく、深刻な食料不足や生態系への影響をもたらします。また、汚水処理施設の未整備による水の汚染、危険な氾濫地域への居住人口の増加による洪水被害の増大等、様々な問題が発生しており、今後の世界人口の増加によって、水不足をはじめとしたこれらの問題が一層深刻化することが懸念されています。

国際的には、安全な飲料水と衛生施設の確保、食料生産のための水確保、水系生態系の保全、洪水などのリスク管理、水資源の効率的な利用と効果的な配分などが水問題での大きな課題と認識されており、議論が進められています。

日本は食料をはじめ、多くの物品を輸入に依存していますが、日本が輸入する食料の生産に必要な水の量は年間数百億m³に相当するといわれており、世界の水問題の深刻化は、無関係ではありません。日本は社会発展を通じて、水に関する様々な経験や技術を有しており、途上国に対しては、水分野でも多くの技術的資金的支援を行ってきています。このようなことから、私たちも世界の水問題に関心を持ち、積極的な役割を果たしていくことが必要です。



木を使うということ

森は再生可能で貴重な資源。むやみな伐採は環境破壊につながりますが、きちんとした管理のもと木を植え育て活用すれば、森には常に新しい木が育ち、二酸化炭素をたっぷり吸収する「地球の肺」となるのです。木を育てるときに出る間伐材は燃料などに利用でき、持続可能なエネルギーも生み出します。

また、森は働く場でもあります。森を管理する人、材木を運ぶトラックの運転手、木製品を作る人や製紙工場で働く人など、森から受ける仕事はたくさんあり、みんな森から収入を得ていることになります。

私たちが木を使うことは、森を若く健康に保つだけでなく、人が働く場にもつながっているのです。『森の国』日本では、国産材の活用と林業の活性化を促進する「木づかい運動」があります。国産の木を使うことは、日本の森を育て守ること。私たちができる環境保全活動のひとつです。

わたしたちの暮らしを支えるエネルギー

現在の私たちのくらしや社会は、エネルギーの消費によって成り立っています。日常生活に欠かすことのできない電気、ガス、水道はもちろん、運輸、通信などもすべてエネルギーを利用しています。また、農産物、食品、衣服など、あらゆる製品はその生産過程においてエネルギーを利用しており、エネルギーが私たちのくらしを支えています。

エネルギーのもとになるエネルギー資源は、大きく「化石燃料」と、「非化石エネルギー」に分けられます。

- 「化石燃料」：石炭、石油、天然ガス、LPガスなど古代地質時代の動植物の死骸が化石化し、燃料となったもの。
- 「非化石エネルギー」：原子力エネルギーや、太陽光、風力等の再生可能エネルギーなど

現在、世界全体で使っているエネルギーのうち、約9割は石油や石炭、天然ガス、LPガスといった化石燃料ですが、その埋蔵量には限りがあります。　※可採年数（可採埋蔵量／年産量）

石油の可採年数：45.7年（2009年末時点）
天然ガスの可採年数：63年（2009年末時点）
石炭の可採年数：119年（BP統計2010年版）

また、化石燃料の燃焼時には地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO_2）やそのほかの酸化ガスが排出され、地球環境への影響が指摘されていることから、環境問題に配慮したエネルギーの利用が求められています。

第3回

私たちの暮らしと環境 ②
～生物の絶滅と私とのつながり～

90分

Ⅰ 生物の絶滅には、多くの人々の利害が関わっていることを理解する（30分）

❶ ５人グループになり、「野生動物が絶滅する」と、どんな困ったことが起きるのか、派生図を作り、考える。（第１回❹で既に「生物の絶滅とその影響」派生図ができている場合は、それをふりかえり確認する。）

派生図 →P.3

❷ 資料４ を読み、ボルネオ島のオランウータンの減少と関わりのある5人の話から、オランウータンが減少した原因をグループで話し合い、紙に書きだす。さらに、日本から離れたマレーシアという国で起きている問題と日本に暮らす私たちとの関連を話し合う。

❸ グループ毎に書きだした原因や日本（または自分たち）とのつながりについて全体で共有する。

Ⅱ オランウータンの絶滅の危機を救うために、必要なこと、自分たちにできることを考える（60分）

❹ ５つのグループに分かれ、それぞれ 資料４ の「農園経営者」「旅行会社社員」「消費者」「環境保護団体」「オランウータン代表」になる。

❺ 多様な立場や主張はあるが、オランウータンの絶滅の危機を救うために、各グループそれぞれ、自分たちにできること、必要なことを話し合う。

❻ ５つのグループから１人ずつが入るグループを新たに作り、❺のグループで話し合ってきたことを教えあい、それぞれの立場からの解決策を共有する。

❼ ❻のグループで、5つの立場の人々が協力しあうことでオランウータン絶滅の危機を回避することができるようなプロジェクトを、互いの利害を超えて考える。

❽ ❼で考えたプロジェクトを全体で共有し、最後に各自、日本で暮らす自分にできることを考える。

ここでは、マレーシア教材を活用したが、ガボン共和国教材の「ゴリラを救おう！プロジェクト」を使い、同じプログラムを提供することができる。
その場合は、資料４ を
「ゴリラを救おう！プロジェクト」 094 ｶﾞﾎﾞﾝ P.25
に替える。

資料 4　「ボルネオ・オランウータン・サミット」 016 マレーシア P. 25

オランウータンは、ボルネオ島とスマトラ島の熱帯の森にだけに生息している大型類人猿です。現在、生息地である熱帯の森の急速な消失によって、絶滅の危機に瀕しています。

オランウータンの個体数は、森林の伐採や農地開拓などによる生息地の減少や、ペットにすることを目的とした密猟や密輸などで減少し、国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストでも、絶滅の危機にあると報告されています。

農園経営者の主張

私たちの作っているアブラヤシは、加工されて色々な国に輸出できるんだ、国の重要な産業なんだよ。豊かな生活をするためにも、畑をどんどん広げて、もっともっと作るんだ。そうだ、日本にも、随分たくさん輸出しているって聞いたよ。

旅行会社の社員の主張

島には、自然の見所が一杯あって、観光客に人気なんです。お客様の中には、もっと自然と触れ合いたいという要望も多いんですよ。でも、楽しんでもらうには、道路やホテルの整備も必要ですよね。

消費者の主張

僕たちが食べるお菓子や、いつも使ってるセッケンにヤシの油が使われてるの？ オランウータンの生活も考えなきゃいけないのは分かるけど、それで商品の値段が上がるのは困るなあ～。

環境保護団体の主張

オランウータンは、ボルネオ島とスマトラ島にしか住んでいない世界的にも貴重な動物なんです。畑や道路をつくって、森がなくなれば、洪水や山火事が起きたり、動物もいなくなってしまうんですよ。そうなれば、観光客も来なくなるし、農園だって作物を収穫できなくなりますよ。

オランウータン代表

ぼくたち、これまで暮らしてた所がどんどん無くなって生活できないよ。森が分かれてしまって、食べ物を採るのも、恋人の所に行くのも苦労してるんだ。

ボルネオ島には、オランウータンをはじめ、テングザル、テナガザル等のサルの仲間、アジアゾウやスマトラサイなど70種類以上の哺乳類、250種類以上の野鳥、200種以上の植物、また何種類いるかもわからない程多くの昆虫が生息しています。オランウータンの個体数は、過去100年の間に、およそ90%以上も減少したと見られています。その主な原因は、違法伐採や農地開拓などによる生息地の減少。また、ペットにすることを目的とした、違法な密猟や密輸なども大きな脅威です。

ボルネオ島やスマトラ島だけでなく、多くの野生動物の減少は、森林の伐採や土地の開発による生活の場の減少があげられます。ボルネオ島やスマトラ島では、「アブラヤシ」を生産するプランテーションが一因と言われています。プランテーションは、企業などの大規模な資本で広大な農地を開拓して作物をつくる農法で、特定の作物しか栽培しないため、他の植物はそこでは絶滅してしまいます。プランテーションで栽培されたアブラヤシからは、「パーム油」と呼ばれる植物油が精製されます。パーム油は世界で一番産出されている植物油で、2007年には、マレーシア、インドネシアで、世界の86%を生産しています。パーム油は、価格が安い上に、食用、生活用品、バイオディーゼルなど、利用用途が広いのが特徴です。日本は2010年には55, 379トン輸入しており、94%がマレーシアからの輸入です。マーガリン、アイスクリーム、チョコレート、ホイップクリーム、フライ製品、インスタントラーメンなど主に食用に使われており、遠く離れた私たちの暮らしも、オランウータンの減少につながる要因となっています。

第4回

利害や対立を超えて、持続可能なよりよい未来を創ろう！

90分

Ⅰ　一国で複数の環境問題を抱える世界の現状を理解する（25分）

1. ５人グループになり、グループに１枚配布された 資料 5-1 のＡ～Ｅの写真を見て、「どんな写真か？」を考える。
2. ファシリテーターから答え（→Ｐ.64）を聞く。
3. 資料 5-2 の「カザフスタンの抱える環境問題」を読む。

Ⅱ　環境問題を作り出している原因を多角的に整理する（30分）

4. 第１～３回を踏まえ、環境問題を作り出していると思われる原因を多角的にふりかえり、各自付箋に書き出す。
5. 各自書きだした付箋を、グループで模造紙にKJ法で整理する。

KJ法→P. 4

6. KJ法でまとめた模造紙を回し読みして、他グループと共有する。

環境問題を作りだしている原因は、1つではないことに気づけるとよい。

Ⅲ　環境問題の発生や連鎖を防ぎ、持続可能な未来を創るために役立つことを考える（30分）

7. 環境問題の発生や連鎖を防ぐためにはどうしたらいいのか、カザフスタンの問題や自分たちの身の回りで起こっていることなどを例に考える。
8. グループで考えたことを、全体で共有する。
9. 逼迫する環境問題に対して、世界ではどのような取り組みがされているのかについて書かれた５種類の 資料 6 を分担して読む。
10. 自分が担当した資料からわかったことをグループ内で共有する。
11. グループで、環境問題を解決して持続可能なよりよい未来を作るための10カ条を作る。
12. それぞれのグループが作成した10カ条を全体で共有する。

Ⅳ　ふりかえり（5分）

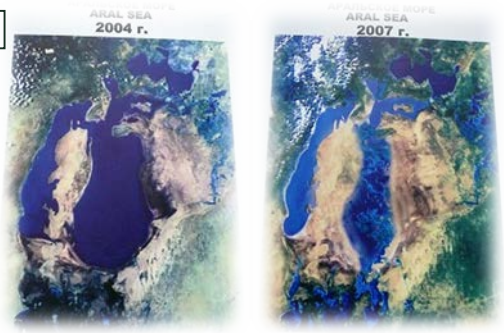
13. 第1～４回全体を通して気づいたこと、大切だと思ったこと、実行しようと思ったことを共有する。

資料 5-1　知ることが大事！～見える環境問題と見えにくい環境問題　052 ｶｻﾞﾌｽﾀﾝ P.21･22
資料 5-2「知ることが大事！～見える環境問題と見えにくい環境問題」の解説

資料 6
① ボルネオ・オランウータン・サミットの解説　016 ﾏﾚｰｼｱ P.26
② みんなで考えみんなで植える／チョウを育てて森を守る　097 ｹﾆｱ P.31
③ 永続的にクリーンなクリスマス島にするために行った様々な活動　076 ｷﾘﾊﾞｽ P.27
④ エネルギー自給率１３０％の国　の解説　062 ﾃﾞﾝﾏｰｸ P.30
⑤ 環境先進国ドイツ！の取り組み　063 ﾄﾞｲﾂ P.26

資料 5-1　※配布資料には、解説は記載していません。

A



2004年と2007年のアラル海。面積が縮小しています。

B

アラル海の水がなくなり、船が座礁しています。

C

草原が枯れ、砂漠化が進行しつつあります。

D

塩害で草原が白くなっています。

E

都市部では渋滞が起こり、大気汚染が問題となっています。

持続可能な開発のための教育とその背景　～地球サミット　環境が世界の一大関心事に～

● 地球サミット＝「環境と開発に関する国連会議」

1992年６月、ブラジルのリオデジャネイロにおいて、180カ国が参加し、約100カ国の首脳が出席して開催されました。12歳のセバン・スズキの伝説のスピーチは有名です（スピーチについては、2010年3月作成の教材第4章に全文掲載しています）。この会議では、同時に、ＮＧＯや地方公共団体が参加する催しも数多く開催され、地球の環境問題はもはや国だけでなく、あらゆる立場のすべての人々が解決に向けて取り組まなければいけないことが確認されたという意味でも、意義深いサミットになりました。この会議は、地球環境の保全と持続可能な開発の実現のための具体的方策について国際的な合意を目指すもので、「環境と開発に関するリオデジャネイロ宣言やそのリオ宣言を各国で実行するための行動計画「アジェンダ２１」が採択され、気候変動枠組条約や生物多様性条約の署名が開始されるなど大きな成果をあげました。

その後、2002年にはヨハネスブルグで「持続可能な開発に関する世界首脳会議（リオ＋10）」、2012年にリオデジャネイロで「国連持続可能な開発会議（リオ＋20）」が開催され、いずれも「地球サミット」と呼ばれます。

● 地球サミット開催の背景

地球の２つの課題

① 世界の人口の２割の先進国の人々が、８割の富を所有し、７割のエネルギーを使用し続ける現在のライフスタイルが生み出した、地球規模の環境問題

② 世界人口の８割が途上国に暮らし、貧困、飢餓、病気に苦しんでいる現実

人類の未来にとって、地球上の諸活動を持続可能なものにし、地域発展と環境保全との両立した社会を構築していくことが緊急の課題であるという共通認識に立ち、地球サミットは開催されました。

■ ESD（Education for Sustainable Development）　～「持続可能な開発のための教育」の10年～

持続可能な開発は、「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすような開発」と定義されます。そしてそれは、現在のような過剰開発や低開発をそのままにしておくことは、地球の未来を危うくする（＝地球の持続可能性を損なう）ことを示しています。

「持続可能性」という概念が国際社会で共有されたのは、前述の「地球サミット」において。

環境問題と貧困問題という大きな２つの課題を抱えた現在の地球だが、よりよい人類の未来を望むのであれば、「貧困を削減すること、地球上の諸活動を持続可能なものにすること」と「地域発展と環境保全の両立した社会を構築していくこと」が緊急の課題であるということが確認され、未来を考えるための共通基盤となりました。

そして、その「持続可能な開発」という共通のビジョンを持ち未来づくりを進めるためには、教育が極めて重要であることが2006年、日本のイニシャティブによって国連より提案されました。１０年取り組まれる「持続可能な開発のための教育」は、人権教育と環境教育であり、知識だけではなく、人権と環境を守るために必要なことがわかり、できるようになることを目指しており、国際理解教育そのものです。

最終年度の2014年には、これまでの取り組みとこれからを提言する国際会議が愛知県で開催されます。

ESD
AICHI-NAGOYA

ESDユネスコ世界会議あいち・なごやのロゴマーク

デザインコンセプトは、「つながり、ひろがり、開花する、ESD Flower」。
ESDをきっかけに、環境・開発・人権などさまざまな社会的課題をめぐる教育や、この地域の一人ひとりの思いや取り組みがつながっていく、というコンセプトを表しています。
4枚の花びらは、「気づく」「知る」「行動する」「広げる」というESDのステップを表すとともに、花びらの中の暖色系のカラーは、ESDにかけるあいち・なごやの熱い思いと、ESDの成果がさまざまな分野で開花していく様子を表現しています。

モデルプログラム F

世界の貧しさをなくすためにできること

～貧困から派生して起きる様々な悪影響と その悪循環を断ち切るアプローチを考える～

回　数	3回
所要時間	各回90分
対　象	高校生以上

ねらい

- 貧困とはどんなことなのか、貧困から起きる様々な悪影響を考え、世界の貧困の実態を知る。
- 貧困の原因を探り、貧困からは簡単に抜け出せない「貧困の悪循環」を理解する。
- 貧困の悪循環を断ちきるために、実際の取り組みを知り、自分にできることを考える。

世界の貧しさをなくすためにできること

～貧困から派生して起きる様々な悪影響とその悪循環を断ち切るアプローチを考える～

各回のねらいと流れ

第1回　貧困とはどんなことかを考えよう

⇒ P. 69

- 「貧困とはどんな状況のことで、貧困は個人や社会にどんな影響があるかを考える。
- データから世界の貧困の実態を知る。

資料 1
資料 2-1
資料 2-2

① 貧困とはどんな状況のこと？（5分）
② 貧困が続くとどうなるの？（40分）
③ 世界で最貧国と言われている国は？（20分）
④ ギニアと日本をデータで比べてみると（20分）
⑤ ふりかえり（5分）

第2回　貧困の原因とその悪循環について考えよう

⇒ P. 71

- 貧困に陥ると簡単には抜け出せない悪循環となることを理解する。
- 貧困の状況やその原因を事例から探り、具体的なイメージを強くする

資料 3
資料 4

① 個人（世帯）レベルで見た貧困の原因のつながり（20分）
② 具体的事例から貧困の原因の掘り下げ（60分）
③ ふりかえり（10分）

第3回　貧困の悪循環を断ち切るためにできることを見つけよう

⇒ P. 73

- 貧困の悪循環を断ち切るために必要なことを考え、実際に行われている事例を学ぶ。
- 世界の貧しさをなくすための「やれる、できる、がんばる」を宣言する。

資料 5
資料 6

① 貧困の悪循環を断ち切るために必要なことを考える（20分）
② 貧困の悪循環を断ち切るための実際の取り組み事例を知る（30分）
③ 世界の貧しさをなくすための「やれる、できる、がんばる」ことを考える（30分）
④ ふりかえり（10分）

用語解説

ジョン・フリードマンによる貧困の定義

「エンパワーメント」の概念の基盤を築いたジョン・フリードマン（1926年オーストリア生）は、力の基盤をなす8つの資源、つまり、①防御可能な生活空間、②余剰時間、③知識と技能、④適正な情報、⑤社会組織、⑥社会ネットワーク、⑦労働と生計を立てるための手段、⑧資金にアクセスできない状態を「貧困」と定義しました。８つの資源は相互に関連しており、それぞれの資源によって他の資源も増やすことができますが、貧困状態においては、ある資源がなくなることによって、他の資源も減ってしまいます。貧困を解決するためには、８つの資源を得る支援をすることが必要です。

人間開発指数（HDI）

Human Development Index。人間開発の３つの基本的な側面「健康で長生きできるかどうか」「知識を得る機会があるかどうか」「人間らしい生活を送れるかどうか」について、長期にわたる進歩の度合いを測定するための総合的な指標。国連開発計画が毎年発表している「人間開発報告書」で報告されますが、その内容は年々修正されています。2009年までは、出生時平均余命、成人識字率および初・中・高等教育の総就学率、そして米ドル建て購買力平価（PPP）に換算された１人当たりの国内総生産（GDP）に基づいて算出していましたが、2010年には新たに「健康状況、教育状況と所得の分配状況に関してどの程度の不平等が存在するか」「女性の健康と教育の水準、政治や職場への参加の度合いなど国の中での男女の格差」「健康、教育、生活水準など複数の側面における世帯レベルの貧困状況」の３項目の指標が追加されました。

絶対的貧困

貧困の定義は様々ありますが、「国・地域の生活レベルとは無関係に、人間が生きるために必要最低限の衣食住を満たすことさえできない貧困」を「絶対的貧困」とよび、「国・地域の平均的な生活レベルより著しく低い層」を「相対的貧困」とよびます。一般に、絶対的貧困のラインは世界銀行が定義する数字を使っており、1993年には1日あたり1ドル未満で生活している人としていましたが、2008年に１日1.25ドル未満に修正しました。世界こども白書2012によると、絶対的貧困にある人々の割合は、世界で25%、サハラ以南のアフリカでは49%です。

平均余命

ある年齢の人が、その時のその国の状態がずっと続いた場合、ここまで生きられるであろうと予測された年月のことです。「出生時の平均余命」は、生まれたばかりの子どもが、何年生きられるかという予測なので、日本のような国の場合は平均寿命と基本的に同じと考えられますが、例えば、紛争などが頻繁に起こる国の場合は、その時の状況で平均寿命とは変わってくることもあります。

適切な衛生施設

トイレのことです。ユニセフの2008年の報告によると、毎日、25億人もの人々が、不十分な衛生施設（トイレ）で苦しんでおり、12億人近くが屋外で用を足しています。不適切な衛生施設は、５歳未満児の最大の死亡原因である下痢性疾患に直結するため、子どもたちの生存を脅かします。

使用する教材

ｱﾝｺﾞﾗ	ｻﾝﾄﾒ･ﾌﾟﾘﾝｼﾍﾟ	ﾀﾝｻﾞﾆｱ	ﾌﾞﾙｷﾅﾌｧｿ
ｳｶﾞﾝﾀﾞ	ｻﾞﾝﾋﾞｱ	ﾊﾟｷｽﾀﾝ	ﾌﾞﾙﾝｼﾞ
ｴﾁｵﾋﾟｱ	ｾﾈｶﾞﾙ	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	ﾏﾘ
ｶﾞｰﾅ	ﾀｲ	ﾌｨﾘﾋﾟﾝ	南ｱﾌﾘｶ
ｷﾞﾆｱ			

準備するもの

- グループ数×２枚
- 参加者数×５枚
- 参加者数×10枚
- グループ数セット
- 赤丸ｼｰﾙ　参加者数×3枚
- 青丸ｼｰﾙ　参加者数×2枚

第1回

90分

貧困とはどんなことかを考えよう

Ⅰ 貧困とはどんな状況のこと？（5分）

❶ 板書した「貧困」の一つの定義**「主に経済的な理由によって生活が苦しくなり、必要最低限の暮らしができない様子」**を確認する。

❷ 「必要最低限の暮らしができない」とは、どんな状況のことか、みんなで思いつくことをポップコーン方式で発表する。

ポップコーン方式 →P.5

ファシリテーターは、定義の下に、発表内容を書き加え、より貧困の状況が全体で共有できるようにする。内容としては「食事ができない、家がない、着るものがない、学校に行けない、医者に行けない、テレビがない」などの意見が考えられる。

Ⅱ 貧困が続くとどうなるの？（40分）

❸ ４～５人のグループになり、「貧困が続くこと」から生まれる、人々の状況や、社会の状況を考え、模造紙に「貧困が続くとどうなるの？」の派生図を書く。

派生図 →P.3

❹ グループの図が完成したら、回し読みで３グループ分程度共有し、自分たちのグループになかったアイデアでなるほど！と思ったものに、☆印を付ける。

貧困から生まれる状況には次のようなことが考えられる。「病気」「飢餓」「短命」「低い教育水準」「字が書けない・読めない」「仕事に就けない」「過酷な労働」「児童労働」「人身売買」「売春」「ストリートチルドレン」「ホームレス」「スラム街の形成」「犯罪」「治安の悪化」「テロの誘発」など。各グループから出た意見が少ない場合は、上からいくつか伝えて補うとよい。

❺ 「貧困とはどういうことか」「貧困は人間や社会をどうするのか」などを話し合い、「貧困の特徴や影響５ヶ条」を紙にまとめる。

「貧困は～」や「貧困とは～」で文章を書き始めるとよいことを伝える。

❻ 文章を読みあげ、全体で共有する。

Ⅲ 世界で最貧国と言われている国は？（20分）

❼ 資料１を読み、人間開発指数（HDI：Human Development Index）の定義を各自確認する。

❽ グループで協力して、配られた世界白地図に「人間開発低位国」をマジックで塗る。

世界地図 →P. 131

9 塗ってみて、気づいたことを、グループで話し合い、いくつかのグループが発表する。

「ほとんどアフリカとアジアの国である」「アフリカでも大陸のサハラ砂漠以南の国である」などに気づくことが考えられる。
　ここで挙げられた「人間開発低位国」は、国全体として低開発の国であり、これ以外の国にも（例えばアメリカや日本）にも、貧困にあえぐ人々がいることは押させえておく必要がある。

Ⅳ　ギニアと日本をデータで比べてみると（20分）

10 資料 2-1 で日本と比べてギニアの貧困などに関する数値はどの程度か、グループで話し合って、10分間でグラフと数値を書き込む。

全部で12問あるので、時間がかかりそうな場合は、縦の列４つずつをグループに担当割をして、答えてもらってもよい。

11 資料 2-2 で答え合わせをする。

Ⅴ　ふりかえり（5分）

12 個人で、第２回の作業を通して、気づいたこと、感じたこと、わかったことを紙に書く。

13 グループでその内容を共有し、何人かが全体で発表する。

資　料

資料 1　人間開発指数ＨＤＩの定義と人間開発低位国

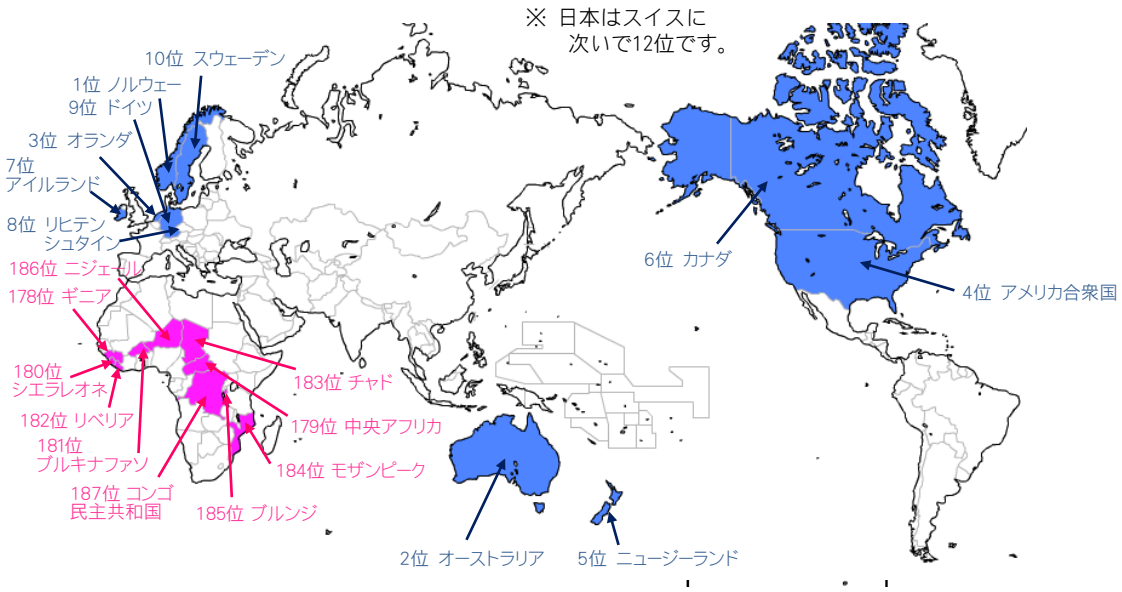
資料 2-1　データで比べるギニアと日本　096 ｷﾞﾆｱ P.17

資料 2-2　データで比べるギニアと日本解説　096 ｷﾞﾆｱ P.18

1	ﾉﾙｳｪｰ	178	ｷﾞﾆｱ
2	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ	179	中央ｱﾌﾘｶ
3	ｵﾗﾝﾀﾞ	180	ｼｴﾗﾚｵﾈ
4	ｱﾒﾘｶ合衆国	181	ﾌﾞﾙｷﾅﾌｧｿ
5	ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ	182	ﾘﾍﾞﾘｱ
6	ｶﾅﾀﾞ	183	ﾁｬﾄﾞ
7	ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ	184	ﾓｻﾞﾝﾋﾟｰｸ
8	ﾘﾋﾃﾝｼｭﾀｲﾝ	185	ﾌﾞﾙﾝｼﾞ
9	ﾄﾞｲﾂ	186	ﾆｼﾞｪｰﾙ
10	ｽｳｪｰﾃﾞﾝ	187	ｺﾝｺﾞ(民)

● 人間開発指数の上位10ヶ国と下位10ヶ国

※ 日本はスイスに次いで12位です。



第2回

90分

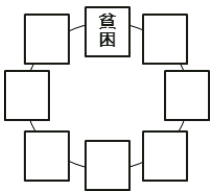
貧困の原因とその悪循環について考えよう

Ⅰ 個人（世帯）レベルで見た貧困の原因のつながり（20分）

❶ ４～５人のグループになり、資料３の「貧困の輪」カードの内容を確認する。

ここで使用するカードは、タイの状況を基につくられたものである。タイは人間開発指数92位で、ちょうど中間に位置する国であることを補足説明する。

❷ ８枚のカードはそれぞれ因果関係があり、どのカードも他のどれかのカードの原因や結果になっている。まず、「貧困」のカードを置き、グループごとに話し合いながら、他の７枚のカードがどのような因果関係でつながっているかを考えて、８枚のカードをＡ４用紙の上に円形に並べる。



様々なパターンが考えられる。よく出るパターンは、「貧困→食べ物が十分にない→栄養が十分でない→健康でない→学校へ行けない→職業技術がない→仕事がない→不十分な収入→貧困」であるが、正解があるわけではない。（→P. 75）

❸ 並べ終わったら、カードをＡ４用紙に貼り、原因から結果へと矢印を書いてカードをつなぐ。

❹ どんな順番になったか、どこか一つのグループが全体で発表し、違う順番（パターン）になったグループが追加で発表し、すべてのパターンを共有する。

Ⅱ 具体的事例から貧困の原因の掘り下げ（60分）

❺ 各自、５組（ＡとＢがセットで１～５まで）の資料４から１人１組を選び、貧困の原因と思われる部分に下線を引きながら、10分間で読む。

❻ 各自、改めて下線部分を見ながら、自分が担当した資料から導き出した貧困の原因を表すキーワードを付箋に、１項目１枚ずつで、３枚以上書き出す（国名も付箋の左上に書いておく）。

❼ ❸で作った「貧困の輪」を貼ったＡ４用紙を、模造紙の中央に貼る。

❽ 「貧困の原因を表すキーワードを書いた付箋」が８つの「貧困の輪」カードのどれに関係しているものか考え、１人1枚ずつ順番にキーワードの内容を30秒程度で説明しながら、「貧困の輪」カードの近くに貼っていく。

因果関係図
→P.3

❾ 全て貼り終わった後、模造紙に出された様々な原因について、さらにその原因を生み出している原因を考え、模造紙に因果関係図を書き出す。

- ３つ以上は自分たちが関わっている原因のところまで深めるようにする。
- 「自分たちが関わっている」には大きく2つのケースが考えられる。1つは間接的に原因を作り出しているというケースで、例えば、「児童労働→作られた商品の輸入（日本）→その商品を購入（自分）」や「水不足→気候変動→二酸化炭素の増加→電気の過剰使用（自分）」といったもの。もう1つは、貧困状態を許し助けようとしないというケースで、例えば、「飢餓→緊急援助が足りない→募金が集まらない→募金をしない（自分）」、「収入がない→自由貿易で搾取される→フェアトレード（公正貿易）が広まらない→フェアトレードの商品を買おうと思わない（自分）」といったもの。各グループから出た意見が少ない場合は、2つのケースを伝えて補なったり、ファシリテーターが各グループの模造紙に直接書き込んで促してもよい。

Ⅲ　ふりかえり　（10分）

⑩ 個人で、第2回の作業を通して、気づいたこと、感じたこと、わかったことを用紙に書く。

⑪ グループでその内容を共有し、何人かが全体で発表する。

資　料

資料３　「貧困の輪」カード８枚　006 タイ P. 21

資料４

①A	ピーナッツバターは調味料!? … モノカルチャー・貿易	106	セネガル P. 27～30
B	奴隷貿易 … 奴隷制度	101	サントメ・プリンシペ. P. 25
②A	ブルンジの悩み、食料不足 … 飢餓	112	ブルンジ P. 19・20
B	撲滅！感染症！～タンザニアの衛生事情～ … 衛生	107	タンザニア P. 28
③A	「水」について考えよう。 … 安全な水	091	エチオピア P. 26・28
B	赤ちゃんとお母さんのいのち … マラリア	088	アンゴラ P. 18
④A	学校に行きたい！ … 児童労働・カースト	010	パキスタン P. 27・28
B	教育の大切さ … 女性	111	ブルキナファソ P. 26
⑤A	子ども兵士～子どもの未来を奪わないで！ … 紛争	089	ウガンダ P. 21
B	アパルトヘイトからわたしと世界を考える … 人種差別	116	南アフリカ P. 29・30

資料３「貧困の輪」のカード

貧困

世界の人口の約20%は貧困の中で暮らしています。タイの最も貧しい地域の1つと言われているメーホンソーン（北部山岳地帯）の貧困率は34%です。
（外務省2009年）

学校へ行けない

貧しい家庭の子どもは働かなければならず、学校に行けなかったり、中途退学することが多いです。タイ山岳部では、距離的な問題から学校に通うことのできない子どももたくさんいます。

食べ物が十分にない

タイ山岳部では、やせた土地での連作を行うといった生産性の低さの問題があります。また、換金作物の栽培が中心であり主食の米すら自給できない村もあります。

職業技術がない

山岳民族はそれぞれ独自のことばを使うため、タイ語の読み書きが十分ではありません。また、計算能力など職業に必要な技能を身につけていないことがあります。

栄養が十分でない

栄養不良は子どもの成長と発育に深刻な影響を与えます。また、病気にもかかりやすくなります。

仕事がない

山岳民族が都市部へ出稼ぎに行っても、差別やことばの問題から、安定した仕事を得ることは難しいです。

健康でない

病気がちだと学校へ行くことも、働くことも難しくなります。山岳民族の村では、収入を得るための身売りによって、娘がHIVに感染して帰郷するといったケースも多くあります。

不十分な収入

収入が十分でないと、基本的な衣食住をまかなうことが難しいです。山岳民族の多くは農業に従事していますが、農業だけでは生活するのに十分な収入を得られません。

第3回

貧困の悪循環を断ちきるためにできることを見つけよう

90分

Ⅰ 貧困の悪循環を断ち切るために必要なことを考える（20分）

❶ 各自、第２回❾で作成した模造紙の「原因を取り除き、貧困の悪循環を断ち切るため」に必要だと思うことを５つ以上考える。

❷ １人３つずつ「必要だと思うこと」を発表する。

その際、赤丸シールを１人３枚ずつ配っておく。どの部分に必要かわかるようにそのシールを模造紙に貼り、マジックでキーワードを書き込む。

赤丸シール

Ⅱ 貧困の悪循環を断ち切るための実際の取り組み事例を知る（30分）

❸ グループに配付された５組の 資料５ から１人１組を選び、各自、貧困の悪循環のどの部分を断ち切る取り組みか考えながら10分間で読む。

❹ 自分が担当した資料の事例が、貧困の悪循環のどの部分を断ち切るものか、模造紙に青丸シールとイニシャルを付ける。

１組の事例の中に、複数の取り組みが含まれている場合もあるので、主なもの最大２つまでに絞る。

❺ 自分たちが作った貧困の悪循環の順番で、青丸シールの取り組みの概要をその担当者が１分以内で説明していく（説明が終わったら拍手で応える）。

青丸シール

Ⅲ 世界の貧しさをなくすための「やれる、できる、がんばる」ことを考える（30分）

❻ 貧困の悪循環を断ち切ることにつながる自分の行動を考え、「簡単にやれること」「少し努力すればできること」「がんばれば実現できること」の３段階で、Ａ４用紙に２つずつ書く。

イメージしづらい場合は、グループに1枚ずつ配られた 資料６ を参考にする。

簡単にやれること	少し努力すればできること	がんばれば実現できること

❼ グループで、「やれる、できる、がんばる」を発表しあう。

❽ 全体で輪になり、「がんばる」のうち１つを１人20秒で発表する（発表が終わったら拍手でエールを送る）。

Ⅳ ふりかえり（10分）

❾ 個人で、第１～３回の全体を通して、気づいたこと、感じたこと、わかったことを用紙に書く。

❿ 何人かが書いたことを発表し、全体で発表する。

資料 5

① 平均寿命46歳 エイズに取り組むザンビア　102 ｻﾞﾝﾋﾞｱ P. 28, 31
② 貧困や児童労働をなくす取り組み　093 ｶﾞｰﾅ P. 28-29
③ 貧困の悪循環を断ち切るための取り組み　011 ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ P. 23-24
④A 飽きないで、あきらめないで、続けているとちゃんとよくなる　115 ﾏﾘ P. 29
④B 経済的自立に向けたJICA青年海外協力隊の活動等　006 ﾀｲ P. 23
⑤A フェアトレードとコーヒー　091 ｴﾁｵﾋﾟｱ P. 21
⑤B フィリピン発の様々なフェアトレード　013 ﾌｨﾘﾋﾟﾝ P. 33

資料 6 「貧困問題を解決する９つの方法ランキング」 013 ﾌｨﾘﾋﾟﾝ P. 30

資料 6 ※このカードは大人用です。子ども対象の場合は、P. 104のカードがわかりやすいかもしれません。

A
書籍やネットなどで、貧困問題について調べ、現実を**知る**。

B
貧困解決に取り組む団体の講座やイベントに**参加**し、人々とつながる。

C
寄付やボランティアなどで貧困解決に取り組む団体を**応援**する。

D
世界や地域で、貧困問題解決に向けた直接的な**活動**を行う。

E
便利さ・効率・利益などを追求する**生活**のあり方を根本的に見直す。

F
安全フェアな食品を**購入**したり、社会貢献活動を企業に働きかける。

G
日本や地方自治体ができることを提案し、**政治**を動かす。

H
家庭、地域、学校で、この問題を**伝達**し、一緒に行動する人を増やす。

I

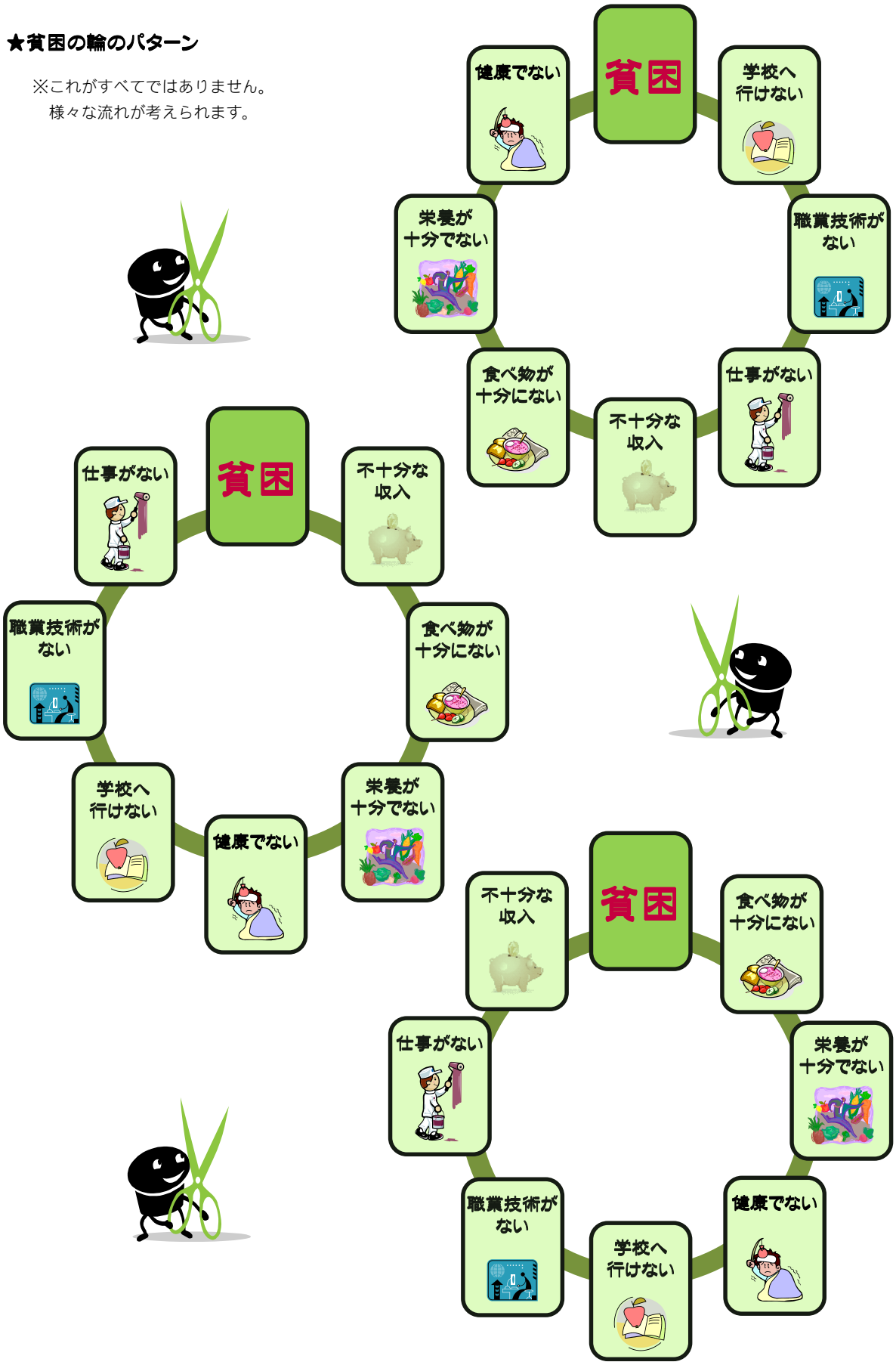
❷ 例えば、ユニセフでは次のような活動を行っています。

- **教育**　学校に行けない子どもを減らすため、学校を建てたり、教材を届けたり、先生を育てたりする。
- **栄養**　野菜やにわとりなどの育て方を伝えたり、栄養指導員を育てたりする。
- **トイレ**　衛生的なトイレをつくったり、トイレを使う生活の大切さを伝えたりする。
- **職業訓練**　安定した収入を得られるよう職業技術や知識を身につける職業訓練の場をつくる。
- **保健**　保健員を育てたり、保健センターをつくり、発育測定や予防接種や薬などを常備する。
- **女性の識字教室**　学校に行く機会のなかった女性が読み書きや、健康や栄養に関する知識を得られるようにする。

※ユニセフ（UNICEF:United Nations Children's Fund）
国際連合児童基金。世界中の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関

★貧困の輪のパターン

※これがすべてではありません。
様々な流れが考えられます。



モデルプログラム G

対立から共生へ

～誰もが安心して暮らせる社会を創るために～

回　数	4回
所要時間	各回90分
対　象	高校生以上

ねらい

- 世界は多様な人々が集まってできていることを認識する。
- 多様な人々が生きている地域で起きている問題を知り、その原因を探る。
- 対立が激化したことによる紛争・戦争について世界の現状を知り、その背景や原因を考える。
- 多様な人々が住むことを「対立」ではなく、「強み」にするために大切なことは何かを考える。

モデルプログラム G

対立から共生へ

～誰もが安心して暮らせる社会を創るために～

各回のねらいと流れ

第1回　世界には多様な人々が暮らしている！　～国って何だろう？～

⇒ P. 79

- 世界には様々な人々が暮らしており、１国の中にも多様な人たちがいることに気づく。
- だれもが生まれ育った土地で、自分たちの生活、文化を守りながら暮らしたいし、「自分の国」がなければ安心して暮らすことができないことを認識する。

資料 1-1
資料 1-2
資料 2
資料 3
資料 4

① 国の成り立ちについて考える（15分）
② それぞれの国には、どのような人々が暮らしているのか考える（15分）
③ 自分の国があること、「〇〇人」と言えることの大切さに気づく（55分）
④ ふりかえり（５分）

第2回　今の社会、住みやすい？　～少数派の人々、それぞれの想い～

⇒ P. 81

- 「多様な人々」とはどのような人々なのか、その人々はどのような状況にあるのかを知る。
- 自分の国に住んでいながら、安心して暮らせない人々がいることを知る。

資料 5
資料 6-1
資料 6-2
資料 7

① 少数派とはどのような人々のことなのだろう？（15分）
② 少数派の人々の想いを体感する その1（20分）
③ 少数派の人々の想いを体感する その２（30分）
④ 多様な人々が住むことのメリット・デメリットを考える（20分）
⑤ ふりかえり（５分）

第3回　対立が激化したら！？　～戦争と平和について考えよう～

⇒ P. 83

- 人々が自分の利益だけを追求してしまうと、対立が生じてしまうことに気づく。
- 対立が激化した時、どのようなことが起こるのか考える。
- 「平和」とはどのような状態のことなのか考える。

資料 8
資料 9
資料10

① 対立がエスカレートしたらどうなってしまうだろう？（15分）
② なくならない戦争と紛争。どうして起こってしまうのだろう？（30分）
③ 「平和」について考えよう（40分）
④ ふりかえり（５分）

第4回　多文化共生社会を築くために大切なこと　～対立を超えて共生するために～

⇒ P. 85

- 多文化共生社会とはどのような社会なのかを考える。
- 多文化共生社会を実現するために大切なこと、自分にできることを考える。

資料11
資料12
資料13-1
資料13-2
資料14
資料15
資料16

① 第1～3回のふりかえり（10分）
② 多文化共生社会を創るためにはどうしたらいいのだろう？海外の事例に学ぶ（45分）
③ 多文化共生社会を実現する7カ条をつくろう（35分）

用語解説

戦争と紛争

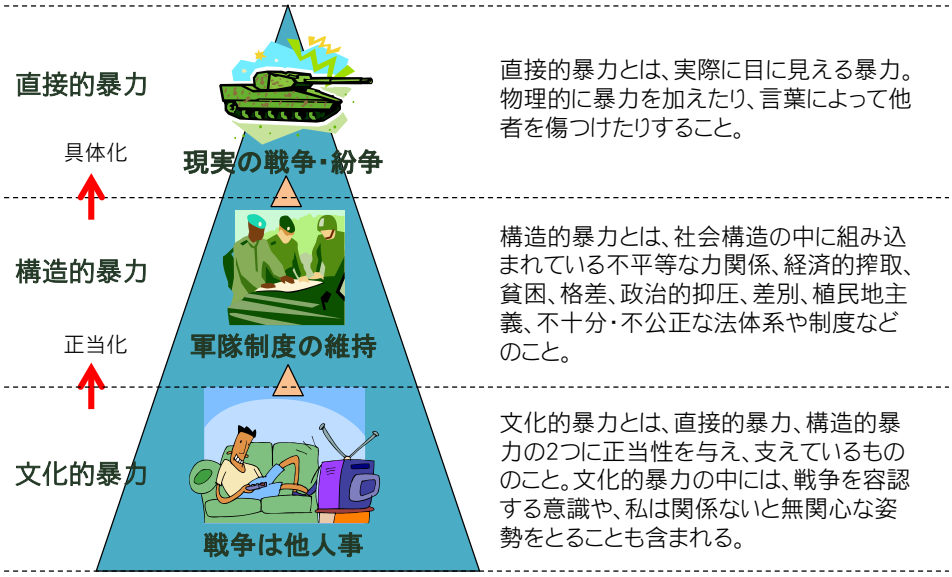
国際法において、「戦争」は一般的に、国家と国家の戦いで、多くの場合、宣戦布告によって始まり講和によって終結するものであると考えられています。しかし、歴史上宣戦布告が行われず「実質戦争状態」に突入した事例も存在します。また国家以外の武装集団間での武力衝突は「紛争」と呼ばれ、たとえば民族間であれば「民族紛争」と呼ばれます。現在地球上の多くの戦いは「紛争」です。

消極的平和と積極的平和

消極的平和とは、戦争のない状態、直接的暴力がないだけの状態。積極的平和とは、構造的暴力のない状態で、経済的・政治的安定、基本的人権の尊重、公正な法の執行、政治的自由と政治プロセスへの参加、快適で安全な環境、社会的な調和と秩序、民主的な人間関係、福祉の充実、個人における幸福の存在などを意味します。1969年、平和学者ヨハン・ガルトゥングが提示しました。

暴力の3つの段階

直接的暴力、構造的暴力、文化的暴力。相互に依存・補完しあっており、その根底にある文化的暴力の中には、戦争を容認する意識や、私は関係ないのと無関心な姿勢が、直接的・構造的暴力を正当化・合法化します。人は言葉を用い、文化を形成しながら、自らの思想や行動の意味を見だします。そこから生まれて支えられる暴力を「文化的暴力」と、1990年、平和学者ヨハン・ガルトゥングが名付けました。→ 資料10



使用する教材

ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ	ｸﾞｱﾃﾏﾗ	中国	ﾌﾞﾙｶﾞﾘｱ
ｱｾﾞﾙﾊﾞｲｼﾞｬﾝ	ｸﾞﾙｼﾞｱ	ﾄﾙｺ	ﾍﾞﾘｰｽﾞ
ｱﾒﾘｶ	ｸﾛｱﾁｱ	ﾆｶﾗｸﾞｱ	ﾍﾟﾙｰ
ｱﾙﾒﾆｱ	ｹﾆｱ	ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ	ﾎﾞｽﾆｱ･ﾍﾙﾂｪｺﾞﾋﾞﾅ
ｲｴﾒﾝ	ｺｽﾀﾘｶ	ﾈﾊﾟｰﾙ	南ｱﾌﾘｶ
ｴﾙｻﾙﾊﾞﾄﾞﾙ	ｽｳｪｰﾃﾞﾝ	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	ﾒｷｼｺ
ｴﾘﾄﾘｱ	ｽﾍﾟｲﾝ	ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ	ﾓﾛｯｺ
ｵﾗﾝﾀﾞ	ｽﾘﾗﾝｶ	ﾌﾗﾝｽ	ﾙﾜﾝﾀﾞ
ｷﾙｷﾞｽ	ﾁｪｺ		

準備するもの

- グループ数×６枚
- 参加者数×２枚
- 参加者数×20枚
- 参加者数×10枚
- グループ数セット

第1回

世界には多様な人々が暮らしている！
～国って何だろう？～

90分

Ⅰ 国の成り立ちについて考える（15分）

1. 資料 1-1 の世界地図を見ながら、国境線はどのように成立したのか考える。
2. アフリカ大陸とヨーロッパに注目する。
   資料 1-2 を見て、国境線について気づいたことをグループで出し合う。
3. 国境線の成り立ちや国の定義などについて説明を聞く。

   国境線は地形や文化・民族などによって自然に決められたものもあるが、戦争、侵略などさまざまな思惑によって、暮らしている人々の意志とは関係なく決められたものもあり、国境線をめぐる争いは世界各地で起こっている。また、国境は永久的なものではなく、時代とともに変わることもある。

Ⅱ それぞれの国には、どのような人々が暮らしているのか考える（15分）

4. 資料 2 の写真をグループで、どこの国の人々か分類する。
5. 答え合わせをして、どんなことを感じたことか、みんなで共有する。

   単一民族だけで構成されている国は世界にはなく、どんな国にも様々な民族、様々な立場の人々が一緒に暮らしていることを認識する。

Ⅲ 自分の国があること、「○○人」と言えることの大切さに気づく（55分）

6. 「あなたはなに人ですか？」と聞かれたら、どう答えるか考える。またそう思う理由をポップコーン方式でできるだけたくさんあげる。

   例えば、「両親がA国人だから私もA国人」など。ファシリテーターは出てきた意見を板書する。

ポップコーン方式 →P.5

国家→P.46

7. ところが、「今日からあなたは、Ａ国人ではなくＢ国人です。」と言われたら？ 資料 3 を読み、もしも、あなたがチョコ国に暮らす「アイス人」だとしたら、どんな気持ちになるか、どんな不便なこと、困ったことが起きるか、各自考えてみる。
8. それぞれ考えたことをグループで話し合う。
9. グループで話し合ったことを全体で共有する。
10. 資料 4 をグループに1組ずつ配り、分担して読む。
11. 自分が読んだ内容を、グループの他のメンバーに紹介する。

    国が無くなる、変わってしまうということは、実際に起こっていること。そうなった時の不安や絶望感を想像し、自分の国に誇りと愛着を持つとともに、他者の国や文化を尊重することの大切さにも気づく。

Ⅳ　ふりかえり（5分）

⑫ 第１回を通して、気づいたこと、感想などを共有する。

だれもが生まれ育った土地で、自分たちの生活、文化を守りながら暮らしたいし、「自分の国」がなければ安心して暮らすことができないということに気づく。「国」はだれかに創ってもらうものではなく、自分たちが創り、守っていかなければいけないことにも参加者自身が気づくことができれば、なおいい。

資　料

資料 1-1　世界地図
資料 1-2　アフリカの国境線 ＆ 地図で見るヨーロッパの歴史
資料 2　クイズ 「どこの国の人？」
資料 3　あなたは何人？　～アイス人の物語～　023 トルコ P.27
資料 4　① トルコのクルド問題　023 トルコ P.28
② 旧ソ連邦崩壊の光と影　044 アゼルバイジャン P.24
③ チェコとスロバキアの歴史　061 チェコ P.25

● 国境

国と国の境目である国境線は地形や民族・文化によって、なかば自然に決まります。また、長い歴史の末に決まることもあります。古代から国境をめぐる争いは世界各地でありましたが、現在のように地球の隅々にわたって明確な国境の線引きがされたことは、人間の長い歴史の中ではごく最近のことです。国境は、陸にあるものもあれば、海の上、川の上、湖の上にあるものもあります。その成り立ちは、大きく分けて2通りあります。

○自然的国境：山や河川、海洋などの自然物によって定めたもの
例：中国と北朝鮮（鴨緑河、豆満江という川）

○人為的国境：条約や民族、経緯線、道路などの人工物によって定めたもの
例：アメリカ合衆国とカナダ（北緯４９度の緯線を国境としている）

しかし、１8世紀ごろ、アフリカのように侵略の対象となり植民地とされた場所では、勝手な縄張り争いの結果で領地が決められました。そのときに、「経度〇℃を境界線とする」などの条件で決められたため、直線の境界線が生まれたのです。また、当時のアフリカは未知の部分が多く、大まかな地図しかなかったり、目印となる川などがなかったため、無理やり決めてしまった経緯もあるようです。
20世紀のアフリカ諸国の独立時も、さまざまな思惑があり、その直線は解消されることなく現在もそのまま使用されています。

資料 2

A:ベリーズ：インディオと白人の混血（メスチソ）の女性です。ベリーズは49％がメスチソ、25％がクレオール（黒人とヨーロッパ人の混血）、11％がマヤ系です。
B・D:南アフリカ：黒人が79％、白人が9.6％、カラード（混血）が8.9％、アジア系が2.5％です。
C・H・I:バングラデシュ：ベンガル人が大部分を占めます。
E・J・M:キルギス：キルギス系が75％、ウズベク系が14.3％、ロシア系が7.2％、ドウンガン系が1.1％、ウクライナ系が0.3％です。
F:メキシコ：欧州系（スペイン系等）と先住民の混血が60％, 先住民が30％, 欧州系（スペイン系等）が9％です。
G:モロッコ：アラブ人が65％、ベルベル人が30％です。
K:中国：漢民族92％のほか、55の少数民族がいます。
L:ブルガリア：ブルガリア人が約80％、トルコ系が9.7％、ロマが3.4％です。
N:イエメン：主としてアラブ人です。

第2回

90分

今の社会、住みやすい？
～少数派の人々、それぞれの想い～

Ⅰ　少数派とはどのような人々のことなのだろう？（15分）

1. 資料 5 を読む。

グループの中で一人ずつ異なる資料を読むことができるように配布する。

2. グループの中で、自分が読んだ資料では、どのような人たちが少数民族だったか、その人たちはどのような状況におかれているのか紹介し合い、模造紙に書き出す。資料に出てきた人以外にも少数派だったり、同じような状況におかれている人がいれば付け加える。

3. その中で、日本にも同じような立場の少数派の人々がいるかどうか、また、その人たちはどのような状況におかれているのか、グループで話し合う。

どんな国にも多様な人々が暮らし、いわゆるマジョリティと言われる多数派の人々の他に、マイノリティと呼ばれる少数派の人々が存在する。第1回では、国そのものが無くなってしまったり、変わってしまった場合を考えたが、この回では、たとえ自分の国があったとしても、安心して暮らせない人たちもたくさんいることに気づく。また、海外だけではなく、日本にも多様な人々が暮らしていることにも気づく。

Ⅱ　少数派の人々の想いを体感する　その1　（20分）

4. 次のルールにしたがって、カードゲームをする。

① 資料 6-1 のカードを★カードは各グループに1枚、◎カードはそれ以外の人数分コピーする。カードを見えないように裏向けにして、グループのメンバーに一人１枚ずつ配る。（６人グループなら、★カードを1枚と◎カードを５枚配る。）

② 配られたメンバーは、他の人にカードが見えないように、自分のカードを読む。

③ 資料 6-2 を各グループに１枚ずつ配る。配られた図は、グループの真ん中に置く。

④ ファシリテーターが「せーの」の合図をしたら、自分のカードに書いてあるとおり指さす。１回目、２回目、３回目と３回行う。

5. ゲームをやってみて、どんな気持ちになったか、グループで感想を話し合う。

少数派になった時の不安な気持ち、または、多数派になった時の気持ちを体感する。

Ⅲ　少数派の人々の想いを体感する　その2　（30分）

6. ファシリテーターからこれから考える作業の設定状況を聞く。

7. 資料7「おふれ書」を読んで、どのように感じたか、生活を守るために、自分ならどうするか、想像してグループで話し合う。

❽ 逆に、自分がカントウ連合王国の国民だったら、厳しい「おふれ」に苦しむオワリ国民を見てどう思うか、想像してグループで話し合う。

❾ ❹～❽をやってみて、似たようなこと、同じように感じたことが、実際の生活の中でないか、全体で出し合う。

人はだれも、自分の文化や価値観を守って暮らしていきたいと考える。それらが否定されたり排除されたりした時、どんな気持ちになるか体感することにより、自分が多数派である時の少数派への接し方についても考える。

Ⅳ　多様な人々が住むことのメリット・デメリットを考える　（20分）

成果物 1
→P. 85へ
対比表
→P. 3

❿ 国や地域の中に多様な人々が住んでいることは、いいことなのか悪いことなのかを２色の付箋に書き出す。

⓫ グループで共有しながら、模造紙に対比表でまとめる。

多様な人々が住むことのメリット	多様な人々が住むことのデメリット

多様であることは豊かであり、強みであることに気づけるとよい。

Ⅴ　ふりかえり　（5分）

⓬ 第2回を通して、気づいたこと、感想などを共有する。

資　料

資料 5	① チェコに住む民族の苦悩	061	ﾁｪｺ P.26
	② 少数民族　それぞれの思い　～ウイグル問題～	008	中国 P.26
	③ 少数派（マイノリティー）を考えよう	065	ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞP.22
	④ ペルーに渡った日本人	038	ﾍﾟﾙｰ P.25
	⑤「日系アメリカ人」について知っていますか？	025	ｱﾒﾘｶ P.21
	⑥ オランダの光と影	051	ｵﾗﾝﾀﾞP.28
	＆ 2005年パリ郊外暴動事件	066	ﾌﾗﾝｽ P.32
	⑦「平等」や「自由」を重視するスウェーデンの移民政策	058	ｽｳｪｰﾃﾞﾝP.26
	⑧ 先住民たちの「抵抗の500年」	031	ｸﾞｱﾃﾏﾗ P.28
	⑨ 土地は誰のもの？～先住民族の権利を考える～	034	ﾆｶﾗｸﾞｱ P.32
	⑩ スリランカでの少数民族の問題	005	ｽﾘﾗﾝｶ P.26
	＆ 紛争に翻弄されたアルメニア人	045	ｱﾙﾒﾆｱ P.22
資料 6-1	あなたはどちら派？(カード)	065	ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞP.21
資料 6-2	あなたはどちら派？(ボード)	065	ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞP.21
資料 7	もし、〇〇が禁止されたら？	043	ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞP.21

第3回

90分

対立が激化したら　！？
～戦争と平和について考えよう～

Ⅰ　対立がエスカレートしたらどうなってしまうだろう？　（15分）

1. グループで模造紙に「対立がエスカレートしたら」どうなってしまうか、派生図を書く。

   対立とは、2人以上の人間の間で起こる口論または意見の不一致

   派生図 →P.3

2. ギャラリー方式で他のグループの派生図を見て回る。

   成果物 2 →P. 85へ

3. 他のグループの派生図も見て、どんなことに気づいたか、全員で話し合う。

   第2回で少数派の気持ちについて考えたが、一部の人だけの利益を追求すると、そこには、だれかが不満を持って我慢するか、あるいは対立が起こってしまう。そして、その対立がどんどん激化してしまった結果が、戦争・紛争であることに気づく。

   ギャラリー方式 →P. 5

Ⅱ　なくならない戦争と紛争。どうして起こってしまうのだろう？　（30分）

4. 自分たちが知っている戦争や紛争を挙げる。それらの戦争や紛争について知っていることも話し合う。

5. 資料 8 の資料を読み、戦争や紛争はどうして起こってしまうのか、その原因として考えられることをできるだけたくさん書き出す。

   資料は1人1枚配布するが、できるだけグループのメンバーそれぞれに異なる資料が配られるようにする。

   成果物 3 →P. 85へ

6. グループで、自分が読んだカードの内容を紹介し合い、戦争や紛争の原因をできるだけたくさん出し、紙にまとめる。

7. グループに 資料 9 を１枚ずつ配布し、自分たちがまとめた紙と比較して、気づいたことや感想を話し合う。

   ここでは、「戦争」と「紛争」の定義も伝える。
   戦争・紛争の原因は1つではなく、いろいろなことが複雑に絡み合って起こってしまうことに気づく。

   戦争と紛争 →P.78

Ⅲ　「平和」について考えよう（40分）

8. 「戦争」の反対語は何だと思うか、全員で話し合う。

9. 「戦争や紛争がない」ことが本当に平和なのだろうか？　平和である状態とはどのような状態のことなのか、平和に必要な要素をまずは各自でできるだけたくさん付箋に書き出す。

10. それぞれが書き出したものを、グループでKJ法で整理する。

    KJ法 →P.4

11. 資料 10 を配布し、自分たちが考えた「平和の要素」と比べ、気づいたこと、感じたことを話し合う。

    成果物 4 →P. 85へ

⑫ ❽～❿を踏まえ、日本は平和かどうか考え、平和だと思うところ、平和ではないと思うところを各自対比表にする。

平和だと思うところ	平和ではないと思うところ

対比表 →P.3

⑬ グループで共有し、気づいたことを全員で話し合う。

戦争・紛争がないことが「平和」ではない。真に平和な社会、すべての人々にとって暮らしやすい社会とはどういう社会なのか、また、日本は本当に平和なのか、すべての人々にとって暮らしやすい社会なのか、を考え、どのような社会を創ることを目指していくのか、イメージを持つ。

Ⅳ　ふりかえり（5分）

⑭ 第3回を通して、気づいたこと、感想などを共有する。

資　料

資料8

① イエメンの歴史～2つのイエメン～　019 ｲｴﾒﾝ P. 23
② ボスニア紛争 ～どうして起こってしまったのだろう？～　070 ﾎﾞｽﾆｱ･ﾍﾙﾂｪｺﾞﾋﾞﾅ P. 23
③ サッカー戦争～平和な社会をつくるには？～　029 ｴﾙｻﾙﾊﾞﾄﾞﾙ P. 23・25
④ ルワンダ紛争　120 ﾙﾜﾝﾀﾞ P. 25
⑤ スペイン内戦から学ぶこと　059 ｽﾍﾟｲﾝ P. 33
⑥ 内戦の傷痕～ネパール内戦～　009 ﾈﾊﾟｰﾙ P. 26
⑦ グルジア紛争から考えること ～戦争でも平和でもない状況～　055 ｸﾞﾙｼﾞｱ P. 21
⑧ ファシリテーター用補足説明資料

資料9 世界の様々な紛争　019 ｲｴﾒﾝ P. 22
資料10 平和学　032 ｺｽﾀﾘｶ P. 23・24

資料10

● 戦争・紛争の要因

戦争・紛争が起こる原因は1つではありません。直接的な原因に下記のような様々な要因が複雑に絡み合って起こります。

歴史的な背景	外国に支配されていた植民地時代には、関係ない民族同士を統合したり、民族や国境を意図的に分割することがありました。このような不自然な境界線のために、一つの国としてまとまらず、安定しない場合があります。
国内の問題	国そのものが貧しい場合は、国民の不満も大きく、紛争を招きやすくなります。また、一部の権力をもった個人や民族または宗教だけに有利になるような政策がとられた場合は、不平等を感じたグループから不満が高まり、紛争につながることがあります。少数民族の独立運動を多数民族が武力弾圧した結果、紛争へ発展することがあります。
外国からの干渉	アメリカ合衆国とソ連が対立していた冷戦の時代には、それぞれの国が自分の味方を増やそうとしてよその国に介入していました。現在でも石油などの資源をめぐり、自分の国に有利になるように外国が介入したり、自分の領土だと主張して攻め入るなどの紛争も起こっています。
経済的な動機	武器商人は武器を売るために紛争を拡大しようとします。資源の需要を引き上げるために起こる紛争もあります。外国の資源の豊かな領土を得るために紛争を始める場合もあります。
その他の特殊な状況	人口密度が高い地域においては、水や食べ物の奪い合いで紛争へと発展することがあります。

第4回

多文化共生社会を築くために大切なこと
～対立を超えて共生するために～

90分

Ⅰ　第1～3回のふりかえり（10分）

1. 成果物1～4を貼りだし、これまでに学んだこと、気づいたことをグループでふりかえり、「多文化共生社会」とはどんな社会なのか、グループで自由に話し合う。

成果物 1 →P. 82
成果物 2 →P. 83
成果物3→P. 83
成果物 4 →P. 83

Ⅱ　多文化共生社会を創るためにはどうしたらいいのだろう？　海外の事例に学ぶ　（45分）

2. グループで考えた「多文化共生社会」を全員で共有する。
3. ここで海外の事例を考える。まずはクロアチア。
クロアチアが1991年まで属していたユーゴスラビアは、とても多様なものが混在している地域であるが、この地域をあらわした 資料 11 の数字、２～７は何を数えたものか、あてはまる言葉をグループで選んで入れる。
4. 各自 資料 12 を読む。
5. 各グループ２チームに分かれ、１チームは 資料 13-1 を、もう１チームは 資料 13-2 を読み、相手側に言い分を伝えあう。
6. 相手の言い分を聞いて、どう思ったか、グループで話し合う。
7. 資料14 を読む。
8. 資料14 の①②のケースは、いずれもどちらかが得をする、あるいはどちらかが損をする、または我慢するという結果をもたらすが、どちらもが満足する方法はないか、グループで話し合う。
9. 資料 15 を各自読む。クロアチア紛争の場合、どちらもが満足する方法だったかどうか考える。

> 対立がおこった時の対応として、対話を通してウィンウィンの解決法を目指したい旨を伝える。対話の方法として、ホーポノポノというステップがあることも伝える。
> (→P.86)

10. さらに、　各国の取り組みを紹介した 資料 16 を分担して読み、自分が読んだ資料の内容を他のメンバーに伝える。また、資料のどこがウィンウィンのポイントなのかをグループで話し合う。

Ⅲ　多文化共生社会を実現する7カ条をつくろう　（35分）

11. 第１～４回全体を通して気づいたこと、大切だと思ったこと、実行しようと思ったことを踏まえ、多文化共生社会を実現するための７カ条をグループで作成し、模造紙にまとめる。
12. 各グループが作成した７カ条を読み上げ、全員で共有する。

> 様々な国が、多文化共生社会を実現するために様々な取り組みをしている。これが絶対という方法があるわけではないが、それぞれの取り組みの中で共通する要素に気づくとともに、日本や自分たちが暮らす地域もふりかえり、一人ひとりができることを考える。

資料11	ユーゴスラビアを表す７つの数字	056	ｸﾛｱﾁｱ P.23
資料12	クロアチア紛争とは	056	ｸﾛｱﾁｱ P.23
資料13-1	クロアチア人の言い分カード	056	ｸﾛｱﾁｱ P.24
資料13-2	セルビア人の言い分カード	056	ｸﾛｱﾁｱ P.24
資料14	超越法（トランセンド法）	056	ｸﾛｱﾁｱ P.27
資料15	クロアチア独立宣言から	056	ｸﾛｱﾁｱ P.26
	クロアチア紛争の最終的な解決？まで		
資料16	①ボスニアでの取り組み	070	ﾎﾞｽﾆｱ･ﾍﾙﾂｪｺﾞﾋﾞﾅ P.18･19
	②アフリカで一番古くて一番若い国	092	ｴﾘﾄﾘｱ P.28
	③アオテアロア…一国二文化の国ニュージーランド	081	ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ P.23
	④和解への取り組み～ルワンダ～	120	ﾙﾜﾝﾀﾞ P.28

3 のこたえ

7つの	**国境**（イタリア、オーストリア、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、ギリシャ、アルバニア)に囲まれ
6つの	**共和国**（スロベニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア、モンテネグロ、マケドニア）、
5つの	**民族**（セルビア人、クロアチア人、スロベニア人、モンテネグロ人、マケドニア人）、
4つの	**言語**（セルビア語、クロアチア語、スロベニア語、マケドニア語）、
3つの	**宗教**（セルビア正教、ローマカトリック、イスラム教）、
2つの	**文字**（ラテン文字、キリル文字）を
1つの	**国家**（ユーゴスラビア）にしたと言われています。

● ウィンウィン解決法

目指すは両者が満足できるウィンウィン解決法

ウィン・ウィン

両方が求めるものを得る

ウィン・ロス

Ａは求めるものを得るがＢは得られない

ロス・ウィン

Ａは求めるものを得られないがＢは得る

ロス・ロス

どちらも求めるものが得られない

ホーポノポノ　～対立から対話へ（非暴力コミュニケーション）～

○ ホーポノポノは、ハワイ語で直訳すると「曲ったものをまっすぐに直す」という意味。
○ ハワイなどのポリネシアと呼ばれる南太平洋の島々にある伝統的な平和に暮らすための慣習・和解の儀式。
○ 長老が、誰かが罪を犯したとき、それに関わる全ての人を集め車座になり、その人たちとともに事を見つめ、過去は水に流し、建設的な未来への約束をするもの。最後に長老が事実を書いた紙のみを燃やし終わる。

～　話し合いの基本ステップ　～

1. **事実を確認する**　自分に影響を与えている事柄について、善悪や責任などの判断と切り離して説明する（いつ、どこで、だれが、どうして、何が起こったか）。

2. **気持ちを伝える**　その事柄について、自分はどう感じているか、どんな気持ちがするか。相手がどうではなく、自分の内側を見つめ言葉で表現する。

3. **希望を語る**　相手を非難するのではなく、自分が大切にしたい価値観や満たされたいことを語る。

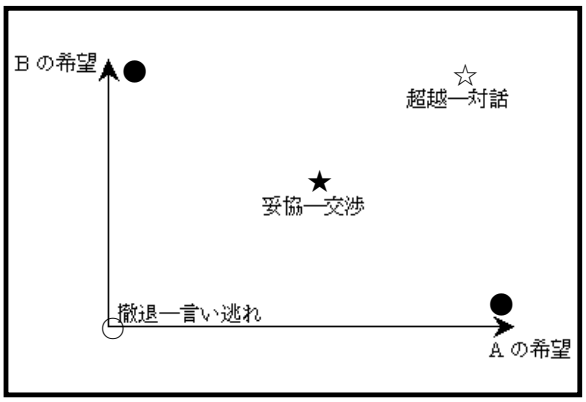
4. **約束する**　自分ができる具体的で実行可能なことを提案し、相手への希望（要求ではなく）を語る。

資料 14

超越法（トランセンド法）

オレンジが1個あるとします。このオレンジを丸々1個食べたいと思っている2人の男の子がいるとします。2人の男の子は、以前ケンカしたことがあり、仲が良いとは言えません。

もし、２人ともオレンジまるまる1個を手に入れたいと思ったならば、取り合いになるでしょうか。取り合いになったときには、ケンカや殴り合いのケンカになるかもしれません。こういった暴力的な手段によって「解決」がもたらされた場合、つまり、①**一方の男の子がオレンジを1個手に入れた場合**、それは、「一方の勝利」となります。これは、平和学的には、望ましい解決法ではありません（表中の「●」のケース）。



では、平和的な解決法とは何でしょうか。

②**2人は、1個しかないオレンジを半分こにするかもしれません。**ナイフで切り分けるか、皮をむいて中身を分け合うか、するかもしれません。もともとは1個まるまるほしかったのですから、結果は「妥協」です。50％の満足度ということになります（表中の「★」のケース）。

あるいは、２人は、このオレンジをめぐって対立することを避けるかもしれません。対立することより、波風が立たないことを選択するのです。この場合は、紛争そのものを回避するという意味で、「撤退」とか「逃避」と呼んでいます。消極的な解決法ですが、意外と、重要な役割を果たすことも多いのです。特に、お互いに暴力手段に打って出ようとする場合には、暴力を予防する効果があります（表中の「〇」のケース）。

しかし、2人は、もっと創造的に問題を転換しようとするかもしれません。オレンジが1個しかないのなら、仲よく模写してお絵かきを楽しんだり、オレンジをボールに見立てて、キャッチボールをするかもしれません。もう1個、オレンジを買ってきて、１人に１つずつ分けっこするかもしれません。あるいは、1個のオレンジでも、オレンジジュースを絞って、寒天を混ぜ、ゼリーを作ったり、小麦粉や砂糖を持ってきてオレンジケーキを作ったりするかもしれません。そのとき、２人だけじゃなくて、他の友達を誘って、料理を楽しむかもしれないし、ケーキを囲んで、誰かのお誕生日をお祝いするかもしれません。残った皮の部分は、ポプリにしたり、砂糖漬けにしてチョコをまぶしてデザートを作るかもしれませんね。最後に残った種は、土に植えて、オレンジの木を育てるかもしれません。数年後には立派なオレンジがたくさんなるでしょう。その間、２人は、家族や友人を巻き込んで、一緒に育てるかもしれないし、世界では食糧難で苦しむ子供たちがいることを学校で勉強したことを思い出し、たくさんのオレンジを売って得た収益を「ＮＧＯオレンジ基金」という団体を設立して、そういった子どもたちのための国際協力をする活動を始動するかもしれません。これは、「超越点」と呼ばれます（表中の「☆」のケース）。

超越点とは、もともとの目標が満たされるだけではなく、それ以外のさまざまな「副産物」が生まれることにこそ意味を見出します。たくさんのオレンジをたらふく食べられるだけではなく、友情が芽生え、ＮＧＯ活動が活発になるのです。

※注：「トランセンド法」とは、ノルウェーのヨハン・ガルトゥング博士によって考案された、非暴力・平和的手段による紛争の転換のための理論である。
・トランセンド国際ネットワーク　www.transcend.org
・トランセンド研究会（トランセンド日本）　www.transcendjapan.net

モデルプログラム H

つながりに気づき、つながりを築く

～世界と日本、世界と自分のつながりに気づき、課題のある状況を変えるための手立てを考える～

回　数	2回
所要時間	各回90分
対　象	高校生以上

ねらい

- 世界と日本とのつながりを知り、自分にも関係していることに気づく。
- つながりの背景で起きている問題について知り、より良いつながりを築く方法を考える。

つながりに気づき、つながりを築く

～世界と日本、世界と自分のつながりに気づき、課題のある状況を変えるための手立てを考える～

各回のねらいと流れ

第1回　世界とのつながりに気づく

⇒ P.91

資料 1

- 普段身近に使っているものの多くが世界とつながっていることに気づく。
- 世界の多くの国と様々なカタチで関係していることを知る。

① 昨日お世話になったもの（25分）
② 世界と自分のつながりを考える（20分）
③ 世界と日本の様々なつながりについて知る（35分）
④ ふりかえり（10分）

第2回　世界とのより良いつながりを築く

⇒ P.93

資料 2
資料 3

- 世界とのつながりの中で、環境問題、貧困問題など知らず知らずに加担している場合があることを知る。
- 課題がある世界とのつながりを、より良いつながりにするための方法を考える。

① 世界とのつながりを10の国で具体的に考える（25分）
② 世界とのつながりで起こる課題を深める（25分）
③ よりよいつながりを築くためにどうすればいいか考える（30分）
④ 第1～2回のふりかえり（10分）

用語解説

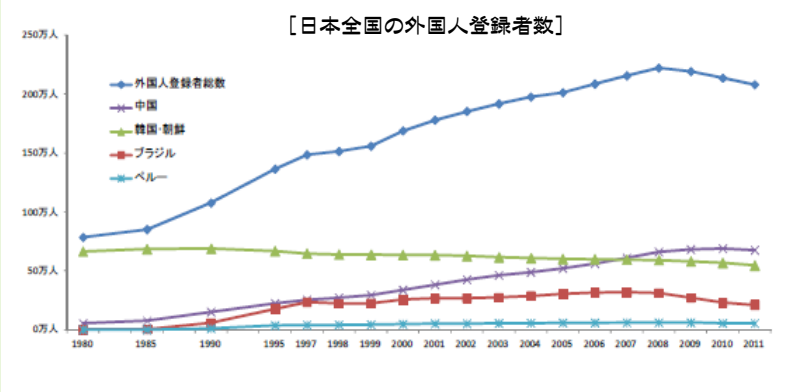
グローバリゼーション

人・モノ・お金・情報が国境を越えて、地球規模で広がり、移動する状態。ボーダーレスが進むことにより、「つながり」が拡大する一方で、それが生み出す対立とその解決、ルールやシステムの再構築が課題となっています。

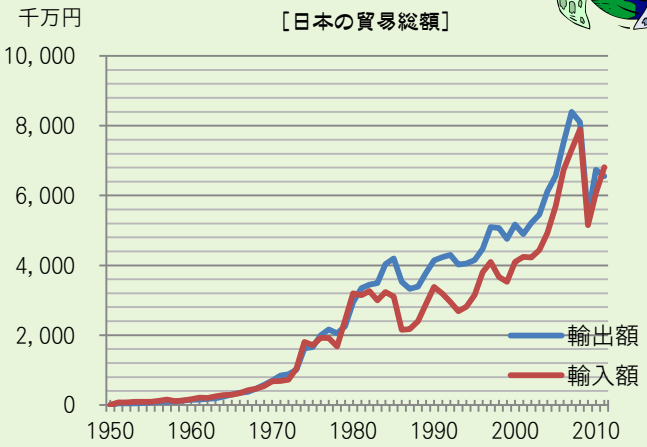
人

日本の外国人登録者数は、207万8,480人で、総人口における割合は、1.63%です。（2011年末）

2009年の統計で、ドイツは8.2%、イギリス7.0%、アメリカ合衆国6.9%と他の先進国と比較すると少ないですが、それでも多くの外国人が日本で暮らしていることがわかります。一方、海外に在留している日本人の数は、2011年10月現在の統計で1,182,557人と前年に比べて3.43%増加しています。2011年の外国人旅行者数は6,218,752人、日本人の海外への旅行者数は16,994,200人です。



モノ・お金



2011年の日本の輸出総額は65兆5,465億円、輸入総額は68兆1,112億円。インターネットの普及に伴い、お金もグローバルに世界を行き来するようになっています。

情報

インターネットを通してリアルタイムで世界中の情報が集まり、日本の情報も世界中に流れています。また、全世界で約10億人のユーザーがいるといわれるFACEBOOKなど、SNSも広がりを見せています。

使用する教材

ｲﾗﾝ	ｶﾅﾀﾞ	ｽｲｽ	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ
ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ	ｿﾛﾓﾝ諸島	ﾏｰｼｬﾙ諸島
ｳｽﾞﾍﾞｷｽﾀﾝ	ｷﾞﾆｱ	ﾁｭﾆｼﾞｱ	ﾏﾚｰｼｱ
ｴﾁｵﾋﾟｱ	ｷﾙｷﾞｽ	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	南ｱﾌﾘｶ
ｴﾙｻﾙﾊﾞﾄﾞﾙ	ｺｽﾀﾘｶ	ﾌｨﾘﾋﾟﾝ	ﾓﾛｯｺ
ｵｰｽﾄﾘｱ	ｺﾝｺﾞ共和国	ﾍﾞﾈｽﾞｴﾗ	ﾓﾝｺﾞﾙ
ｶﾞｰﾅ	ｻﾓｱ	ﾍﾞﾘｰｽﾞ	

準備するもの

- グループ数×２枚
- 参加者数×４枚
- グループ数セット

第1回

90分

世界とのつながりに気づく

Ⅰ 昨日お世話になったもの（25分）

派生図 →P.3

❶ ４～５人のグループになり、模造紙に「昨日お世話なったもの」の派生図を書く。

●それぞれ昨日一日何をしていたかを考え、お世話になったものとして、思いついたことを、グループのメンバーに声を出して伝えた上で模造紙に5分間でできる限り多く書き出す。その際、書いた「お世話になったもの」がお世話になっているものを考え、書くといった具合に、お世話になったものつながり派生図を作り上げる。
●「お世話になったもの」には、物や人の行為がある。例えば、ご飯を食べたら「ご飯を作ってくれた人」「お米」「炊飯器」などがあり、さらに、その先に「お米を作った人」「炊くための水」「電気」、さらに、「石油」「タンカー」「石油を採掘した人」といった具体に、無限に広がるので、例示しながら、活性化させるとよい。
目標を立てるとさらに活性化する。例えば「質よりも量を出して」とか、「最初の分岐点を10こ以上、派生するものを7こ以上書く」といった具合に。

❷ グループの図が完成したら、回し読みで３グループ分程度共有し、自分たちのグループになかったアイデアでなるほど！と思ったものに、☆印を付ける。

Ⅱ 世界と自分のつながりを考える（20分）

❸ 「昨日お世話になったもの」の中で、外国に関係するものをマジックで括ったり、追加で考えれば外国に届きそうなものは、書き足す。

❹ 外国に関わる「お世話になったもの」にはどんなものがあるか、分類して、紙に書き出す。

❺ 分類した結果を全体で発表する。

ファシリテーターは発表された内容を板書し、同じ内容のことは発表しないように促すとともに、次のワークの参考にするためにも残しておく。

Ⅲ 世界と日本の様々なつながりについて知る（35分）

❻ ４～５人のグループになり、アジア・オセアニア、アメリカ、アフリカ、ヨーロッパのいずれかから担当を決める。

❼ 資料１ の担当地域に属する国の５つのクイズから１人１つずつ担当する。各自クイズを解き、解説を読んで理解し、どんなつながりがあったか整理しておく。

時間がなくなった場合は、多様な地域、多様なつながりの資料を組み合わせて、すべてのグループが同じ資料を使って読み解くようにすると、後に全体で発表・共有する時間を省略できる。

❽ グループで、自分が読んだ国が日本とどんなつながりがあるか、紹介する。

❾ 全体で、自分のグループが担当した地域の国ではどんなつながりがあったか発表する。

ファシリテーターは発表された内容を、先のワークで板書した隣に、地域ごとに板書し、比較できるようにする。

Ⅳ　ふりかえり　（10分）

❿ 個人で、❶～❾の作業を通して、気づいたこと、感じたこと、わかったことを紙に書く。

⓫ グループでその内容を共有し、何人かが全体で発表する。

資　料

資料１　日本とのつながりクイズ

［アジア・オセアニア］

①「バングラデシュと日本はこんなにつながってるよ！」	011	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ P.19-20
②「カンボジアと日本、似てるゾ!? 」	003	ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ P.21-22
③「インドネシアと日本同じところ・違うところウソホントクイズ」	002	ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ P.19-20
④「フィリピンの中の日本、日本の中のフィリピン」	013	ﾌｨﾘﾋﾟﾝ P.19-20
⑤「日本とのつながり～新しい関係づくり～」	086	ﾏｰｼｬﾙ諸島 P.17-18

［アメリカ］

⑥「カナダへ渡った日本人① 日系カナダ人の歴史」	026	ｶﾅﾀﾞ P.15-16
⑦「カナダからやってくるもの、どれだけ？」	026	ｶﾅﾀﾞ P.13-14
⑧「ベリーズと日本のつながり」	037	ﾍﾞﾘｰｽﾞ P.15-16
⑨「エルサルバドルと日本の関係…ウソ？ホント？」	029	ｴﾙｻﾙﾊﾞﾄﾞﾙ P.13-14
⑩「コスタリカと日本のつながりウソ！ホント？クイズ」	032	ｺｽﾀﾘｶ P.19-20

［アフリカ］

⑪「ギニアと日本ウソ？ホント？クイズ」	096	ｷﾞﾆｱ P.15-16
⑫「モロッコと日本とのつながりクイズ」	118	ﾓﾛｯｺ P.22-23
⑬「チュニジアと日本の様々なつながり」	109	ﾁｭﾆｼﾞｱ P.13-14
⑭「エチオピアと日本　３択クイズ！！！」	091	ｴﾁｵﾋﾟｱ P.15-16
⑮「南アフリカと日本、つながってる？？」	116	南ｱﾌﾘｶ P.19-20

［ヨーロッパ］

⑯「つながってる！？オーストリアと日本」	050	ｵｰｽﾄﾘｱ P.15-16
⑰「スイスと日本、つながってる？」	057	ｽｲｽ P.15-16
⑱「日本語になったポルトガル語」	071	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ P.19-20
⑲「ウソ？ホント？一緒に考えてみましょう」	054	ｷﾙｷﾞｽ P.13-14
⑳「ウズベキスタンと日本のつながりウソ？ホント？」	048	ｳｽﾞﾍﾞｷｽﾀﾝ P.21-22

90分

世界とのより良いつながりを築く

Ⅰ 世界とのつながりを10の国で具体的に考える（25分）

❶ ４～５人グループになり、配られた 資料２ 10組の「国名カード（写真付）」と「つながりの内容カード（★印付）の正しい組み合わせを考え、カードを合わせる。

❷ 正解を聞き、間違った場合は正しくカードを合わせる。

場を盛り上げるために、正解数をグループに聞いてもよい。

❸ さらに配られた10枚の「つながりが作り出す現象カード（●印）」が、❶❷で並べた10ヵ国のうちどの国のことか考え、「つながり内容カード」の横に並べる。

❹ 正解を聞き、間違った場合は正しくカードを合わせる。

ここで、つながりが作り出す現象には、プラスの側面とマイナスの側面があることを伝える。

❺ 10ヵ国のうち、つながりがマイナスの現象も生み出しているケース５ヵ国の 資料３ を１人１ヵ国担当して読み、後でグループメンバーにポイントを説明できるようにまとめる。

❻ グループで共有する。

Ⅱ 世界とのつながりで起こる課題を深める（25分）

❼ つながりの中で大きな位置をしめている「貿易」について、関連する課題に関する次のビデオのどちらかを視聴する。

A **「飢える国・飽食の国」**：地球データマップ第10回
http://www.veoh.com/watch/v160953038zAzPeRa

B **「遠くからくる食べもの」**：地球データマップ第11回
http://www.veoh.com/watch/v16241742R5kTMyeD

Aは貿易と人権、Bは貿易と環境を取り上げたNHKの番組である。(各20分)

❽ ビデオを見て、感じたことをグループで共有する。

❾ 何人かが全体で発表する。

Ⅲ よりよいつながりを築くためにどうすればいいか考える（30分）

❿ ❺の 資料３ の５つの国のケースのうち1ヵ国を担当し、マイナスの影響を起こさせないより良いつながりを築くために、「現地ですべきこと」、「日本ですべきこと」を考え、模造紙上に国名＋問題となっているものを表題として書き、その下に対比表にまとめる。

現地ですべきこと	日本ですべきこと

対比表 →P.3

⑪ 回し読みで３グループ分程度共有し、自分たちのグループになかったアイデアでなるほど!と思ったものに、☆印を付ける。

⑫ 各自、「現地ですべきこと」「日本ですべきこと」に貢献するために、自分にできることを考え、紙に、３つ書く。

⑬ グループで、「自分にできること」を共有する。

Ⅳ　第1～2回のふりかえり（10分）

⑭ 全体を通して、気づいたこと、感じたこと、わかったことを、何人かが全体で発表する。

資　料

資料２　「国名 ＆ つながり」カード　→P. 95

資料３
①「平和とダイヤモンド～紛争ダイヤモンドって知ってる？～」　099 ｺﾝｺﾞ(共) P.22
②「ふわふわカシミアと大草原」　017 ﾓﾝｺﾞﾙ P.20
③「ボルネオ・オランウータン・サミット」　016 ﾏﾚｰｼｱ P.26
④「甘くて苦いチョコレート」　093 ｶﾞｰﾅ P.26
⑤「バナナのお話」　013 ﾌｨﾘﾋﾟﾝ P.29

資料３　概要

①「平和とダイヤモンド～紛争ダイヤモンドって知ってる？～」
　ダイヤモンドを産出する国は世界でも限られており、そのダイヤモンド採掘の権利を巡り、紛争が起きている地域があります。ブラッド･ダイヤモンド（別名「紛争ダイヤモンド」）とは、ダイヤモンド産出国において反政府軍が、採掘した原石を先進国に売り、得た外貨で更なる武装を整え、戦いの長期化を可能にする、そういうダイヤモンドのことです。2000年南アフリカのキンバリーで開催された会議で「ブラッド・ダイヤモンドを根絶する」ことが合意されました(キンバリー・プロセス）。日本も、キンバリー・プロセスに調印しています。

②「ふわふわカシミアと大草原」
　モンゴルの特産品の1つであるカシミアはモンゴルや中国などの寒い地域で放牧によって育てられてるヤギからとれます。モンゴル政府が2002年に行った調査では、草原の劣化の原因はヤギの放牧が半分近くを占めており、それが砂漠化につながっているのです。日本でも中国からの黄砂が飛んでくるなど、砂漠化の影響を受けています。

③「ボルネオ･オラウンータン･サミット」
　多くの野生動物の減少は、森林の伐採や土地の開発による生活の場の減少があげられます。ボルネオ島やスマトラ島では、「アブラヤシ」を生産するプランテーションが一因と言われています。プランテーションで栽培されたアブラヤシからは、「パーム油」と呼ばれる植物油が精製されます。パーム油はマーガリン、アイスクリーム、チョコレート、ホイップクリーム、フライ製品、インスタントラーメンなど主に食用に使われますが、日本はほとんどをマレーシアから輸入しています。私たちの暮らしが、オランウータンの減少につながる要因となっているのです。

④「甘くて苦いチョコレート」
　日本の私たちは、甘くて美味しいチョコレートを日常的に買ったり食べたりすることができます。日本が輸入するカカオ豆の約70％はガーナ産ですが、ガーナのカカオ生産者が抱える現状は苦く深刻です。ガーナには、カカオがチョコレートになるということを知らない子どもたちがたくさんいます。

⑤「バナナのお話」
　日本で私たちが食べるバナナの約80％がフィリピンのミンダナオ島で作られています。バナナ農園では多くの人々が働いていますが、その手取りは、200ペソ弱（500円弱）。保険や年金も入っていて、パヤタスのごみ山で廃品回収するよりも稼ぎはよいけれど、殺虫剤や防腐剤のために体調を崩す人もいます。

資料 2 「国名 ＆ つながり」カードの内容.

ソロモン諸島

★
日本の鰹節の多くはこの国で獲れたカツオから作られています。

●
日本だけでなく、多くの先進諸国で需要が急増したことから、乱獲による個体数の減少が懸念されています。

ソロモン諸島	★日本の鰹節の多くはこの国で獲れたカツオから作られています。	●日本だけでなく、多くの先進諸国で需要が急増したことから、乱獲による個体数の減少が懸念されています。
ベネズエラ	★この国の国立大学の一つは、東北大学と学術交流協定を結び、交換留学を含めた、教育・研究協定を行っています。	●日本への関心が高まり、生け花、茶の湯、空手の演武など、日本文化紹介が積極的に行われ、より良い関係を作る精神が、様々な体験や文化交流を通じて育まれています。
カンボジア	★内戦からの復興・開発に尽力し、「日本橋」「きずな橋」という橋の建設・修復に支援協力しました。	●東日本大震災の際、日本はたくさんの支援を受けました。支援するだけではなく、お互いに助け合い、支えられています。
コンゴ共和国	★世界でも産出する国が限られている、ダイヤモンドの産出国。日本もたくさんの宝石をこの国から輸入しています。	●それを売って得た外貨を武器の購入に充て、内戦・紛争を長期化・深刻化させています。私たちのお金が知らないうちに戦争に加担していることにつながります。
イラン	★日本の石油は、サウジアラビア、アラブ首長国連邦に次いで３番目にこの国から輸入されています。日本の石油の約90％は中東から輸入されています。	●世界が今のまま使い続けたら、それは約41年で枯渇するといわれています。私たちの社会や暮らしは、それに支えられています。
モンゴル	★カシミアはこの国の特産品のひとつです。滑らかな手触りで暖かいカシミアは、マフラーや手袋、帽子など日本の私たちの冬の生活を楽しませてくれます。	●それの需要の増大は、この地域の自然に根ざした生活を大きく変え、その飼育頭数を激増させました。土地の草は食べつくされて、砂漠化が深刻化しています。
サモア	★深刻化する廃棄物処理の問題解決のため、日本の「福岡方式」と呼ばれるごみ処理方法を、モデル事業として採用し、高い効果を挙げています。	●日本の方式を、開発途上国の状況に合わせてローコストに作り変えて高い効果を挙げています。新技術開発を行うことで途上国の課題解決に取り組んでいます。
マレーシア	★日本が輸入するパーム油の94％がこの国から輸入されています。マーガリン、アイスクリーム、インスタントラーメン、生活用品など、多くのものに利用されています。	●それを生産するため、森林を伐採して広大な農地を開拓。豊かな熱帯の森は姿を消し、そこに生息するさらに多くの生物が生息地を失いました。
ガーナ	★日本が輸入するカカオ豆の約70％はこの国で採られています。日本は国別年間チョコレート消費量第６位。１人あたりの年間消費量は19位です。	●子どもたちが、その農園で危険有害な重労働を強いられ、対価なしで働かされるケースが報告されています。世界の子どもの7人に1人が児童労働をしています。
フィリピン	★日本のバナナの輸入量のうち、全体の約93％をこの国から輸入しています。この国で生産されるバナナの約10％が日本へ輸出されています。	●その農園で働く人々の報酬はわずかで、大部分は先進国の企業などが得ています。その農園での労働環境は過酷で、農薬や防腐剤のために体調を崩す人もいます。

総合プログラム Ⅰ

世界のSOSに耳を傾けよう！

回　数	3回
所要時間	各回90分
対　象	小学校高学年以上

ねらい

●世界が現在抱えている様々な課題の全体像をつかみ、それらの課題のつながりに気づく。

●クラスで決めた課題に関して、背景や原因などを知り、課題に関する理解を深める。

●世界の課題に自分も無関係ではないことに気づき、課題を抱えている国を「かわいそう」と考えるのではなく、同じ地球の一員として対等な立場で、自分にできることは何かを考える。

世界のSOSに耳を傾けよう

各回のねらいと流れ

第1回　世界のSOSをキャッチ！

⇒ P. 99

- 多様な世界と肯定的に出会い、どの国にも「良さ」があり、「課題」もあることを知る。
- 世界が抱えている課題の全体像をつかむ。

資料 1
資料 2
資料 3
資料 4

① 世界と出会う　クイズ・トリビア編（25分）
② 世界と出会う　課題編（20分）
③ なぜ私たちは世界のＳＯＳに耳を傾けるのか？　課題を解決しないとどうなる？（30分）
④ わたしたちの知っている世界のＳＯＳ！？（10分）
⑤ ふりかえり（５分）

第2回　世界の課題の「なぜ？」「どうして？」を追求しよう

⇒ P.101

- 世界の課題とは、どんな問題なのか、なぜ問題なのかを理解する。
- 課題を作りだしている原因をさぐり、自分たちとの関係に気づく。

資料 5-1
資料 5-2
資料 5-3
資料 6
資料 7

① 第1回で共有した「世界の課題」をふりかえる（10分）
② その課題、原因は何だ？！（45分）
③ 課題を創り出す「原因」と「わたしたち」はどんな関係？？　（30分）
④ ふりかえり（５分）

第3回　平和を創り出すわたしたち！

⇒ P.103

- 課題を解決するために、役立つこと、必要なことを考える。
- 平和な世界とはどんな社会なのかを考え、自分たちにできることを考える。

資料 8
資料 9

①「原因を作り出すわたし」から「解決策を創り出すわたし」になろう！（30分）
② 課題を解決するための様々な方法を理解する（25分）
③ 平和を創り出すわたしたちになろう！（25分）
④ ふりかえり（10分）

用語解説

ミレニアム開発目標（子ども向け）

→P.108参照

「今日われわれが直面する主たる課題は、グローバリゼーションが世界のすべての人々にとって前向きの力となることを確保することである」とする国連ミレニアム宣言では、国際社会の支援を必要とする喫緊の課題に対する具体的数値目標として、８の目標、21のターゲット、59の指標を掲げています。

● 貧困と飢餓をなくそう！（極度の貧困と飢餓の撲滅）

地球上では、5人に１人が1日1ドル未満の所得で生活をし、7人に1人が慢性的な飢えに苦しんでいます。また、もっとも裕福な1％の人々が、もっとも貧しい57％の人々と同じだけの所得を得ています。所得貧困により、十分な栄養を得られない、適切な教育や保健医療を受けられない、安定した職を得られないという困難に多くの人々が苦しんでいるのです。

● 小学校に通えるようにしよう！（普遍的初等教育の達成）

１億1,500万人の子どもが学校に通っておらず、多くは南アジアとサハラ以南アフリカに住んでいます。途上国では5人に1人が学校に通っていないことになり、その5分の３は女の子です。また、世界中の成人のうち6人に1人が読み書きできません。その数は、８億7,600万人で、その３分の２は女性です。

● 男女の差をなくそう！（ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上）

教育を受けていない母親から生まれた子どもは、教育を受けている母親から生まれた子どもに比べ、栄養不良や５歳未満で死亡する割合が２倍になるというデータがあります。また、教育を受けた母親の子どもの就学率も高くなっています。

● 赤ちゃんを守ろう!（乳幼児死亡率の削減）

2002年、1,000人の子どものうち５歳未満で亡くなった子どもの数は、先進国では７人、南アジアでは97人、サハラ以南のアフリカでは174人に上ります。その背景には、貧困による不十分な食糧、不衛生な水、不公平な医療サービスが挙げられるほか、紛争や災害などで抵抗力の弱い子どもたちが犠牲となっているのです。

● お母さんを守ろう！（妊産婦の健康の改善）

51万5,000件に上る妊産婦の死亡の99％は途上国で起こっています。先進国では、2,900人に１人の妊産婦死亡率がサハラ以南アフリカでは13人に１人です。

● 病気をふせごう！（HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止）

HIV感染者の90％以上が途上国の人で、サハラ以南アフリカは感染者全体の70％を占めています。毎年５億人がマラリアに感染し、100万人以上が死亡しています。このうち90％はサハラ以南アフリカに住んでいます。

● くらしを良くしよう！（環境の持続可能性の確保）

世界の森林は、2000年までの10年間で日本の国土面積の2.5倍にあたる約9,400万ヘクタールが減少しました。そのうちの96％がアフリカと南米の熱帯林です。エネルギーの消費量は、世界の上位10カ国が全体の65％を占めており、そのほとんどが先進国です。世界の10億人以上が安全な水を利用できずにいます。下水道などの基本的な衛生施設を利用できない人は26億人にのぼります。

● 世界のみんなで助け合おう！（開発のためのグローバル・パートナーシップの推進）

ミレニアム開発目標の達成には世界的な協力体制の下での取り組みが必要です。もはや開発は、国連や政府やNGOだけが取り組むものではありません。世界中の人々が協力しなければいけないのです。

使用する教材

ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	ｸﾛｱﾁｱ	ﾍﾞﾅﾝ
ｴｸｱﾄﾞﾙ	ﾁｬﾄﾞ	ﾍﾞﾘｰｽﾞ
ｶﾞｰﾅ	ﾌｨﾘﾋﾟﾝ	

準備するもの

- グループ数×２枚
- 参加者数×２枚
- グループ数セット

第1回

90分

世界のSOSをキャッチ！

Ⅰ　世界と出会う　クイズ・トリビア編　（25分）

1. ５～６人の６グループになり、配布された各グループの担当国（ 資料１ に記載の国）の位置を 資料２ の世界地図で確認する。
2. まずは、各自でクイズを解いてみる。
その後、答え合わせをしながら、他のグループに出題したいクイズ（「おもしろクイズ」）に〇をつけておく。
3. グループで話し合い「おもしろクイズ」を１つ決定する。
4. 各グループで決定した「おもしろクイズ」を出題し、他のグループは挙手で答える。出題したグループは正解を伝え、解説する。

● グループで話し合っている間にファシリテーターは、下の表を板書しておく。

	ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	ｶﾞｰﾅ	ｸﾛｱﾁｱ	ﾁｬﾄﾞ	ﾌｨﾘﾋﾟﾝ	ﾍﾞﾘｰｽﾞ
おもしろ情報						
（課題）						

● ファシリテーターは、出題されたクイズの解答を聞きながら、表の「おもしろ情報」欄にその情報を板書していく。この段階では、その下の欄は空白にしておく。

Ⅱ　世界と出会う　課題編　（20分）

5. 担当国の 資料３ 「課題シート」をまずは各自で読みながら、どんな課題を抱えているのかを考える。
6. グループで何が課題なのかを話し合い、「課題シート」からキーワードを探す。
7. グループごとに担当した国がどのような課題を抱えているか発表する。

●ファシリテーターは、発表された課題を、表に板書する。
●多様な課題を出されることが予想されるので、下表のように要約するとよい。

	ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	ｶﾞｰﾅ	ｸﾛｱﾁｱ	ﾁｬﾄﾞ	ﾌｨﾘﾋﾟﾝ	ﾍﾞﾘｰｽﾞ
おもしろ情報						
課　題	森林伐採、オランウータンの住処、貧弱な森	学校に行けない、農園で重労働、危険な仕事、体罰、貧困	民族紛争、殺し合い	水不足、きれいな水がない、病気、水汲み、学校に行けない	農薬、病気、お金がない、空腹	ゴミ、廃棄物処理、不衛生な環境、悪臭、地下水の汚染、海の汚染
	森林破壊と動物保護	**児童労働**	**民族紛争**	**水問題**	**貧困**	**ゴミ問題**

● これまでの作業を通じて、どの国にもおもしろいところや良さがあり、課題もあることを確認する。

Ⅲ　なぜわたしたちは世界のＳＯＳに耳を傾けるのか？ 課題を解決しないとどうなる？　（30分）

8 グループごとに、それぞれが出した課題を「解決しないとどうなるか」を派生図を作って考え、派生図の中の「最悪の状態」だと思う場所にドクロマークをつける。

派生図→P.3

9 全員で他のグループの派生図を見て回る。その際、自分たちのグループになかった意見に〇をつけていく。他のグループで発見したこと、わかったことを全体で共有する。

課題をそのままにしておくことは、自分を含めた様々なものに悪影響を及ぼすことを確認する。

Ⅳ　わたしたちの知っている　世界のＳＯＳ！？　（10分）

10 6カ国の課題の他に、世界（地球）はどんな問題を抱えているか、世界が発しているＳＯＳはどんなものがあるのかをポップコーン方式で発表する。

ポップコーン方式→P.5

たとえば、温暖化、異常気象、自然災害、大気汚染、テロ、領土問題、宗教対立、民族紛争　など

11 資料４「今世界で起きている11の真実」を読み、内容を理解する。

全体やグループで読み合うのか個人で読むのか、残り時間に合わせて選択する。

Ⅴ　ふりかえり　（５分）

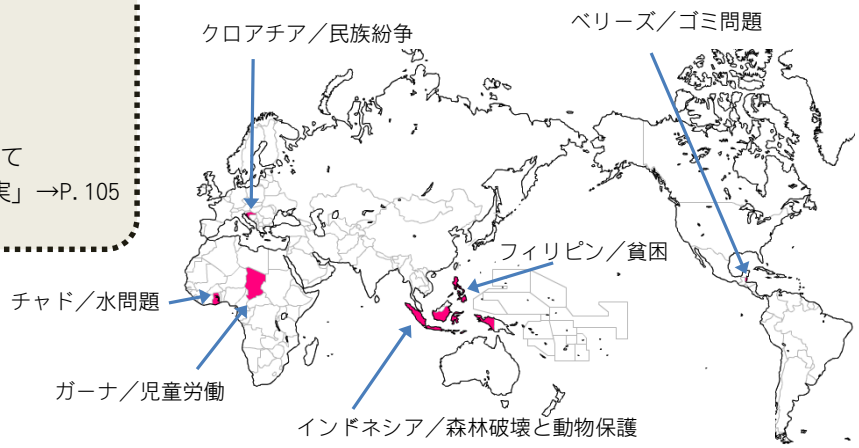
12 第１回を通して、発見したこと、わかったことを全体で共有する。

- 世界の課題は広範囲にわたっているが、課題ごとにはつながりがあることを確認する。
- 課題の全体像を知っておくことは、課題解決の糸口を増やすことにつながることを確認する。

資　料

資料１　世界のクイズ
資料２　世界地図
資料３　課題シート
資料４　「今世界で起きている11の真実」→P. 105

資料３の国と課題



第2回

90分

世界の課題の「なぜ？」「どうして？」を追求しよう

Ⅰ　第１回で共有した「世界の課題」をふりかえる　（10分）

❶ ６カ国が抱える課題をふりかえる。

●ファシリテーターは第１回で話し合った６カ国が抱える課題についてキーワードを共有するため、あらかじめ意見をまとめた表を用意しておく。
●「世界のＳＯＳ」に耳を傾けないでそのままにしておくと、どんな生き物も生きていけなくなることがわかったことを確認する。

Ⅱ　その課題、原因は何だ？！　（45分）

❷ 人権グループは 資料 5-1 を、環境グループは 資料 5-2 を各自で読み、課題の原因にアンダーラインを引く。

あらかじめ「人権」と「環境」にグループ分けをしておく。必要に応じて 資料 5-3 の世界地図で国の位置を確認するといい。

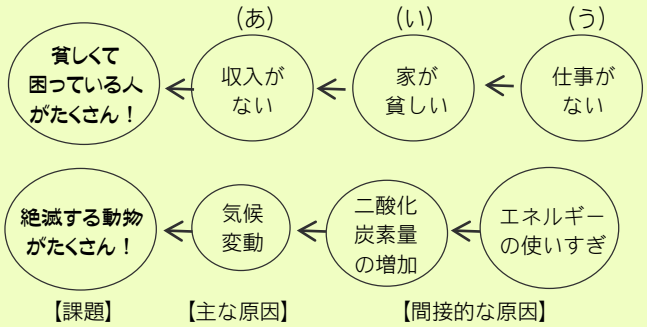
❸ それぞれが見つけた原因を共有するため、模造紙の中央に課題を書き、その周りに読み取った原因を書いていくとともに、自分たちが知っている原因も書き足していく。

「人権」グループの課題：貧しくて困っている人がたくさん！
「環境」グループの課題：絶滅する動物がたくさん！

❹ 資料 6「主な原因カード」を模造紙に貼りながら、主な原因を確認する。さらに原因の原因を書き足し、因果関係図をつくる。

因果関係図
→P. 3

例えば、「貧困」の原因である（あ）という状態は（い）によって作られる。また、（い）の原因は（う）である…というように書き出していく。



❺ 資料 7「間接的な原因カード」を模造紙に貼りながら、原因の原因を考えて模造紙に書く。

できあがっていく模造紙は、中央に「課題」、それを取り囲むように「主な原因」「間接的な原因」と広がり、だんだん私たちの考えや行動に結びついた原因にたどりついていくことで課題が自分のこととして捉えられる。

❻ 全員で各グループの模造紙を見て回り共有する。その際、「自分と関係・関わりがあると思う原因」に★印をつけていく。

Ⅳ　課題を創り出す「原因」と「わたしたち」はどんな関係？？　（30分）

7 グループで★の中から３つの原因を選び、私たちの日常のどんな行動や考えがその原因と関係があるかを考え、文章にしてみる。

〇だれもいない部屋でも電気をつけていることがある
〇生活の中でエネルギーの使い方についてあまり考えないで暮らしている
〇食べ残す
など
●自分たちが世界の課題に直接、間接に関わっていることに気づくことができる。

8 グループで文章を読みあげて、全体で共有する。

Ⅴ　ふりかえり　（5分）

9 第2回を通して、発見したこと、わかったことを全体で共有する。

世界の課題の原因を作りだすことに私たちが関係しているならば、私たちの知恵や行動で課題を解決することもできるのではないかと呼びかけ、次回、課題解決のために何ができるのかを考える伏線とする。

資　料

資料 5-1 「貧しくて困る人がたくさん！」はなぜ？ 013 ﾌｨﾘﾋﾟﾝ P.28 113 ﾍﾞﾅﾝ P.22･23
資料 5-2 「絶滅する動物がたくさん！」はなぜ？ 002 ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ P.26･27 028 ｴｸｱﾄﾞﾙ P.15･16･26
資料 5-3 世界地図
資料 6 主な原因カード（ 6-1：人権グループ　6-2：環境グループ）
資料 7 間接的な原因カード（ 7-1：人権グループ　7-2：環境グループ）

資料 6 主な原因カード の内容

人権グループ： 紛争が起きる／自然災害にあう／豊かな国ばかりが儲ける／助ける人が少ない／病気になる／収入がない

環境グループ： 人が魚や動物をとりすぎる／地球が温暖化し気候が不安定になる／生き物の住む場所を汚される／助けようとする人が少ない／（よそから来た生き物）外来種との競争に負ける／生き物の住む場所を壊される

資料 7 間接的な原因カード の内容

人権グループ： 学校がない／教える人がいない／選びたくても選べない／学校に行けない／食べ物がない／家がもともと貧しい／仕事がない／技術がない／そのままでいいと思っている／雨が降らない／植民地だった（他国から支配されていた）／（貧しい人がいるという）仕組みを維持したい／立場が弱い／差別がある／税金が正しく使われていない／状況や原因などを知らない／産業がない／自分だけ豊かであればいい

環境グループ： 食べ過ぎたり残したりする／毛皮や象牙を人がほしがる／たくさん取って儲けようとする／二酸化炭素をたくさん出す／電気をたくさん使う／エアコンを使いすぎる／車に頼って生活している／有害なゴミを捨てる／川に汚い水を流す／殺虫や除草の農薬を使う／木を切り倒して紙などを作る／ダムを作る／手つかずの自然に人が入る／外国に売れる食物だけを大量に育てる／動物の命を軽く考えている／状況や原因などを知らない／外国の動物を川や池に捨てる／私たちとは関係がないと思う

第3回

90分

平和を創り出すわたしたち！

Ⅰ　「原因を作り出すわたし」から「解決策を創り出すわたし」になろう！　（30分）

❶ 資料８「解決策を創り出すわたし」シートの「解決策を創り出すわたし」欄に、自分ができることを書きだす。

ファシリテーターはあらかじめ、第2回❼で出された意見をまとめておく（資料8ファシリテーター用参考資料を参照）。また、「〇〇をしない」ではなく「（課題を解決するために）〇〇をする」という肯定的表現を使うよう指示する。

❷ 全体に伝えたい意見を各グループ１、２つずつ発表する。

●ファシリテーターは出された意見を板書する。
●各グループが「原因を作り出すわたし」欄のどの項目について発表するかを決めておくと、意見の量のバランスがとりやすい。

Ⅱ　課題を解決するための様々な方法を理解する　（25分）

❸ 資料９「世界の課題を解決する９つの方法」を読み、理解する。
また、９つ以外のアイデアがある場合は白紙のカードに書き足す。

❹ どの解決方法が重要・必要であるか考えながら、９つの解決方法をランキングする。

ランキング
→P. 4

❺ グループで共有する。上位３つについては、その理由も伝えあう。

❻ グループで出された意見を全体で共有する。

Ⅲ　平和を創り出すわたしたちになろう！　（25分）

❼ 『おもいやりのうた』動画を観る。

❽ わたしがこれから始める「わたしのおもいやり宣言」を紙に書く。

「わたしは〇〇するよ～!」の「〇〇」に入ることばを考える。

❾ グループ（または全員）で、一人ずつ発表する。他の人は拍手でエールを送る。

Ⅳ　ふりかえり　（10分）

❿ 全体のふりかえり

「平和」とは紛争や戦争がないだけでなく、人や動物、世界中のあらゆる生物が「困った」という状態から自由になること。
では、私たちが何をすることが地球の平和を創り出すことに役立つのか。私たちは誰もが平和を創り出す力を持っている。

資料 8 「解決策を創り出すわたし」シート

資料 9 「世界の課題を解決する9つの方法」

OMOIYARIのうた（作詞：藤田恵美）

もしも人々が「思いやり」を失くしたら
地球は一秒で消えてしまうね
だって僕たちは「思いやり」に包まれて
生まれて来た　育てられた

水や空気が 必要なように
誰もがひとりで 生きてはゆけない

倒れそうな人には そっと手を差し伸べて
OMOIYARIは心を温めるプレゼント

「ありがとう」って言われたら なぜか嬉しくなった
OMOIYARIは世界を幸せにする魔法

もしも友達が悲しい思いしてたら
知らないふりなんて したりしないで
だって僕たちは希望を握りしめて
生まれて来た 地球（ほし）の仲間

海や山や森や動物も
僕たちの「思いやり」で未来が変ってゆく

自分勝手はやめて みんな笑顔にしたい
OMOIYARIは 心を温めるプレゼント

難しそうだけれど ちゃんと心にあるよ
OMOIYARIは 世界を幸せにする魔法

JASRAC 出1302591−402

資料 9

A
本やインターネットなどで、課題について調べて、課題の現実を**知る**。

B
課題の解決に取り組む団体の講座やイベントに**参加**し、様々な人々とつながる。

C
募金・寄付やボランティアをして、課題の解決に取り組む団体を**応援**する。

D
世界や地域で、課題の解決に向けて、自分が**直接活動**する。

E
便利、安い、速いということばかりが大事だと思う今の自分の生活のあり方を**見直す**。

F
環境に良い商品、生産する人のことまで考えた商品を**広める**。

G
国や市町など政治ができることを提案し、**政治**を動かす。

H
問題を自分の周りの人に**知らせ**、一緒に行動する人を**増やす**。

I

※P.74 のカードを子ども用に書き換えたものです。

今、地球で起きている11の真実

1 地球全体では、毎年九州と四国を合わせた面積が砂漠化（さばくか）しており、すでに地球の４分の１が砂漠化している。

2 「絶対的貧困」の生活といわれる1日１ドル（約80円）以下の生活で暮らす人は、世界の人口70億人のうち11億人以上いる。その90％がアジアやアフリカで暮らす人たちである。

3 世界では、飢（う）えと栄養不足が原因で、毎日２万5,000人が死んでいる。貧しい国では、3秒に１人の割合で５才前の子どもが死んでいる。

4 このままのスピードで森林をばっさいする（切り出す）と、100年後には、地球上の熱帯雨林はなくなり、地球上の半分の生き物が絶滅する。

5 人間が作りだした世界中の有害な化学物質が風や海流によって北極に運ばれ、汚染（おせん）された魚を食べたホッキョクグマの体に、化学物質がたまっている。

6 世界には清潔な水が手に入らない地域がある。きたない水を飲んだために、おなかをこわして死んでしまう子どもが1日4,000人もいる。

7 世界には、70億人が食べるのに十分な食料（しょくりょう）があるのに、８億人以上が常におなかをすかせている。（おいしい牛肉を作るため、たくさんの穀物を人が食べないで牛に食べさせている）。

8 地球の資源には限りがある。でも、その資源のほとんどを世界の２割の先進国が消費している。

9 豊かな先進国の子どもは、開発途上国のこどもの30倍から50倍の資源を消費している（あふれるおもちゃ、たくさんのスナック菓子、豊かな食事、暮らしやすく快適な部屋など）。

10 石油に頼って、電気や車を多く使う暮らしが、国際的な紛争を引き起こす原因になっている（石油がとれる国は限られている。しかし、どうしても石油が必要で、どんなことをしても手に入れようとすることが、争いの原因になっている）。

11 世界中の軍事費（軍隊にかけるお金）の合計額の３分の１で、世界の様々な問題を解決することができる。
→飢（う）えや栄養失調をなくす、エイズをなくす、住むところのない人に住まいを用意する、世界中の人がきれいで安全な水を飲めるようにする、読み書きのできない人をなくす、自然にやさしい安全なエネルギーを作る、核兵器をなくす、地雷をなくす、難民の助ける、森林ばっさいをやめさせる、地球温暖化を止めることなどなど。すべてを足しても世界中の軍事費の３分の１あればよい。

阿部治監修・浦本典子イラスト「あなたの暮らしが世界を変える―持続可能な未来がわかる絵本」を参照に作成

総合プログラム J

世界から学ぼう！

回　数	4回
所要時間	各回90分
対　象	高校生以上

ねらい

●グローバル化した世界が抱える人類共通の課題（＝グローバルイシュー）を理解する。

●課題解決のために様々な手立てを考え、実践し、効果を上げている世界の好事例を学ぶ。

●人権と環境とが守られる持続可能なよりよい未来のビジョンを描き、それを達成するために、世界の好事例から学んだことを、どう日本で応用できるかを具体的に考える。

世界から学ぼう！

各回のねらいと流れ

第1回　グローバルイシューとは何か　なぜグローバルイシューについて考えるのか

⇒ P. 109

資料 1
資料 2

- グローバル化の恩恵とグローバル化した世界が抱えることになった課題を理解する。
- 「グローバルイシューと自分」、「グローバルイシューと未来」との関わりを考える。

① 世界がグローバル化したことによる恩恵（私たちが受けているメリット）を考える（25分）
② 今の世界が抱える人類共通の課題（グローバルイシュー）について考える（25分）
③ グローバルイシューと自分、グローバルイシューと未来とのつながりについて考える（30分）
④ ふりかえり（10分）

第2回　急がば回れ！　～課題解決のために、まず現状を把握し、原因をさぐろう～

⇒ P.111

資料 3

- 今日の地球の、人権問題及び環境問題の現状を、数字やデータでおおまかに把握する。
- 問題の背景にあるもの、問題を作りだしている原因をさぐり、自分たちとの関係を考える。

① グローバルイシューの現状を把握する（30分）
② 問題を作りだしている原因をさぐる（50分）
③ ふりかえり（10分）

第3回　課題解決に取り組み効果を上げている国がある！　～世界の好事例から学ぼう～

⇒ P. 113

資料 4

- ビジョン達成と課題解決に向けた各国の取り組みを知り、課題解決の可能性に気づく
- 人権や環境が共に守られる、私たちが望むよりよい未来の姿（ビジョン）を描く

① 課題解決に向けた世界の取り組みを知る（40分）
② 課題解決型からビジョン達成型へ意識をシフトし、望む未来のビジョンを描く（45分）
③ ふりかえり（５分）

第4回　わたしたちにもできるはず！　～持続可能な未来をわたしから～

⇒ P.115

資料 5
資料 6

- 課題解決とビジョン達成のために、世界の好事例から学んだことを日本に応用するためのプロジェクトを考える。
- 課題解決とビジョン達成のために、自分ができることを考える。

① 課題解決に向けて役立つことを整理する（10分）
② 日本で取り組みたい「持続可能な未来プロジェクト」を考える（45分）
③ プロジェクト・コンペ（15分）
④ 実効性・実行性を高めよう！　（15分）
⑤ 持続可能なよりよい未来のために、わたしから始められること（５分）

用語解説

ミレニアム開発目標（MDGs: Millennium Development Goals）

「今日われわれが直面する主たる課題は、グローバリゼーションが世界のすべての人々にとって前向きの力となることを確保することである」とする国連ミレニアム宣言では、国際社会の支援を必要とする喫緊の課題に対する具体的数値目標として、8の目標、21のターゲット、59の指標を掲げています。

国際社会の共通目標としてＭＤＧｓが設定されて以降、その達成に向かって様々な取り組みが行われてきました。これまで、1日1.25ドル未満で生活する人の割合が半減し、小学校で男女の就学率がほぼ同数になり、マラリアによる死亡者数が約３分の１減少するなど、多くの進展がみられた一方で、サハラ以南アフリカ地域では多くの目標が達成されていないなど課題も残っています。

出典：国連開発計画（ＵＮＤＰ）「ミレニアム開発目標」

目　標		ターゲット	
1	極度の貧困と飢餓の撲滅	1-A	2015年までに1日1ドル未満で生活する人口の割合を1990年の水準の半数に減少させる。
		1-B	女性、若者を含むすべての人々の、完全かつ生産的な雇用、ディーセント・ワーク（適切な雇用）を達成する。
		1-C	2015年までに飢餓に苦しむ人口の割合を1990年の水準の半数に減少させる。
2	普遍的な初等教育の達成	2-A	2015年までにすべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする。
3	ジェンダー平等の推進と女性の地位向上	3-A	2005年までに可能な限り、初等・中等教育で男女格差を解消し、2015年までにすべての教育レベルで男女格差を解消する。
4	乳幼児死亡率の削減	4-A	2015年までに５歳未満時の死亡率を1990年の水準の３分の１にまで引き下げる。
5	妊産婦の健康状態の改善	5-A	2015年までに妊産婦の死亡率を1990年の水準の４分の１に引き下げる。
		5-B	2015年までにリプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）の完全普及を達成する。
6	ＨＩＶ/エイズ、マラリア、その他の疾病のまん延防止	6-A	2015年までにＨＩＶ/エイズのまん延を阻止し、その後、減少させる。
		6-B	2010年までに必要とするすべての人がＨＩＶ/エイズの治療を受けられるようにする。
		6-C	2015年までにマラリアやその他の主要な疾病の発生を阻止し、その後、発生率を下げる。
7	環境の持続可能性を確保	7-A	持続可能な開発の原則を国家政策やプログラムに反映させ、環境資源の損失を阻止し、回復を図る。
		7-B	2010年までに生物多様性の損失を確実に減少させ、その後も継続的に減少させる。
		7-C	2015年までに安全な飲料水と衛生施設を継続的に利用できない人々の割合を半減する。
		7-D	2020年までに少なくとも1億人のスラム居住者の生活を大きく改善する。
8	開発のためのグローバルなパートナーシップの推進	8-A	開放的で、ルールに基づく、予測可能でかつ差別的でない貿易と金融システムを構築する。
		8-B	後発開発途上国（ＬＤＣｓ）の特別なニーズに取り組む。
		8-C	内陸開発途上国と小島嶼開発途上国（太平洋・西インド諸島・インド洋などにある、領土が狭く、低地の島国）の特別なニーズに取り組む。
		8-D	国内および国際的措置を通じて途上国の債務問題に包括的に取り組み、債務を長期的に持続可能なものとする。
		8-E	製薬会社と協力して、途上国で人々が安価で必要不可欠な医薬品を入手できるようにする。
		8-F	民間セクターと協力して、特に情報・通信での新技術による利益が得られるようにする。

使用する教材

ｲﾝﾄﾞ　ｺｽﾀﾘｶ　ｽｳｪｰﾃﾞﾝ　ﾌﾞｰﾀﾝ
ｴﾁｵﾋﾟｱ　ｻﾝﾄﾒ･ﾌﾟﾘﾝｼﾍﾟ　ｿﾛﾓﾝ諸島　ﾍﾞﾘｰｽﾞ
ｵﾗﾝﾀﾞ　ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ　ﾄﾞｲﾂ　ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ
ｷﾘﾊﾞｽ　ｽｲｽ　ﾊﾟﾅﾏ　ﾏﾘ

準備するもの

- グループ数×7枚
- 参加者数×３枚
- 参加者数×10枚
- グループ数セット

第1回

グローバルイシューとは何か
なぜグローバルイシューについて考えるのか

90分

Ⅰ　世界がグローバル化したことによる恩恵（私たちが受けているメリット）を考える（25分）

1. ４人グループになり、「グローバル化の恩恵」を模造紙でブレインストーミングする。

   「グローバル化」とは、ヒト・モノ・オカネ・ジョウホウなどが、より遠くまで、より早く、より大量に移動可能になったこと。

2. 他グループの模造紙を、回し読みで共有する。

ブレインストーミング →P.3

Ⅱ　今の世界が抱える人類共通の課題（グローバルイシュー）について考える（25分）

3. グローバル化した世界が抱えるようになった人類共通の今日的課題には何があるか、グループでKJ法でまとめる。

   グローバルイシューは、「地球規模の今日的課題」のことであり、その種類はたくさんあるが、大別すると、「人権系（人の生命や安心・安全に生きることに関わること）」と、「環境系（生き物が生きる土台である環境に関わること）」とに分かれることを押さえたい。
   また、問題同士はつながっていること、一部悪循環になっているところがあることにも気づけるといい。

KJ法 →P.4

Ⅲ　グローバルイシューと自分、グローバルイシューと未来とのつながりについて考える（30分）

4. これらグローバルイシューが解決されないとどうなるのか、その影響や今後起こりそうなことを予測し派生図にする。

5. 派生図で予測した事柄の中で、自分に直接的・間接的に影響を及ぼすところに★印をつける。

6. 他グループの模造紙を回し読みで共有する。

7. 「人権が守られないとどうなるのか」「環境が守られないとどうなるのか」について、資料１ 資料２を読み、更に理解を深める。
   （４人のうち、２人は 資料１を、２人は 資料２を読み、後から互いにわかったことをペアになり教え合う。）

   環境が守られなくても、人権が守られなくても、人の命、または安全や安心に関わる大問題であり、解決が必要であることを理解する。

派生図 →P.3

Ⅳ　ふりかえり（10分）

8. 第１回を通して、気づいたこと／大切だと思ったこと／がっかりしたこと／嬉しかったことなどの感想をグループで共有する。

資料 1　「アウシュビッツ収容所」　069 ポーランド P.27･28

資料 2　「地球環境問題」　051 オランダ P.31
「地球温暖化の影響とキリバスの現状」　076 キリバス P.24

グローバリゼーションの恩恵と影

● グローバル化の恩恵について、派生図を書いてみました。

海外に住める／友達が増える／お米の種類がたくさんある／遠いところに行ける／安しうまし／食べ物のバリエーションが増える／脳に刺激／仕事が増える／音楽のバリエーションが増える／英語が話せる
…などの意見が出されました。

● 大学生が「グローバル化した世界が抱える課題は何か？」を出し合ってみました。

食の安全／食料危機・食料不足／人身売買／子ども兵士／魚の乱獲／フロン／原発／宗教戦争／医療不足／黄砂／核廃棄物／格差・貧困・飢餓／水不足・水争い／温暖化／レアメタル／資源争い／領土問題／民族紛争／ワーキングプア／教育問題／海面上昇／森林伐採／砂漠化／海水温度上昇／いじめ／CO2排出量増／宇宙ゴミ／生態系のバランス／温暖化による自然災害の巨大化／人種差別／教育格差／病気／領空・領海問題／酸性雨／ドル安円高／くらげの異常発生／失業／世界経済低迷／政治不信／イデオロギーの衝突／資本主義対社会主義／生物の絶滅／独裁／拉致／ニセモノ商品の横行／野生生物の絶滅／サイバー・テロ／寄付文化の低迷／FTA（東南アジア自由貿易協定）／ユーロ危機／TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）　など

第2回

90分

急がば回れ！
～課題解決のために、まず現状を把握し、原因をさぐろう～

Ⅰ　グローバルイシューの現状を把握する（30分）

1. 4人グループになり、資料3 ①「生物多様性の危機」②「廃棄物（ごみ）問題」③「地球温暖化」④「不安定な水資源」⑤「貧困」の5種類の資料から各自1種類を受け持ち、内容を読み解く。
2. 自分の読んだ資料に書かれていたポイントをそれぞれ2分ずつプレゼンし、グループで共有する。

Ⅱ　問題を作りだしている原因をさぐる（50分）

3. 資料3 の①～⑤の資料で、①を読んだ人、②を読んだ人、③を読んだ人、④を読んだ人、⑤を読んだ人同士で、新たな5人グループを作る。
4. 同じテーマの資料を読んだ人が集まった新たなグループで、そのテーマに関して、資料も参考にしながら、「問題を作りだしている背景や原因」を因果関係図にして、原因の原因をさぐる。

因果関係図
→P.3

5. 原因のうち、自分も直接的、間接的に関わっていると思うものに★印をつける。
6. 因果関係図を作ってみて、わかったこと・言えることなどを、グループで箇条書きにしてまとめる。
7. 元の4人グループに戻り、テーマごとに原因をさぐる5人グループで考えたこと、わかったことを発表しあい共有する。

第1回Ⅲで考えたグローバルイシューの影響とも比較してみるとよい。

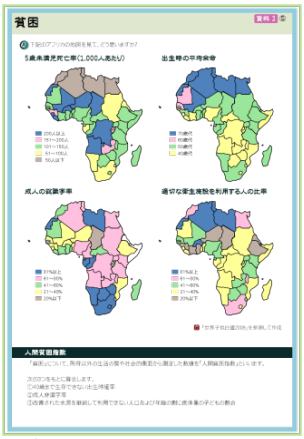
Ⅲ　ふりかえり（10分）

8. 第2回の全体を通しての感想を考える。
9. それぞれが考えたことをグループで共有し、まとめる。
10. 全体で共有する。

資料３（複数の教材を参考に作成）

①「生物多様性の危機」
②「廃棄物（ごみ）問題」
③「地球温暖化」
④「不安定な水資源」
⑤「貧困」

① 生物多様性の危機



⑤ 貧困

資料３　概要

①　生物多様性の危機

「生物多様性」とは、遺伝子、種、生態系などすべてを含むことばで、あらゆる生物種の多さと、それによって成り立っている生態系の豊かさやバランスが保たれている状態を言います。しかし、近年、環境の悪化や生息域の減少、乱獲などにより種の絶滅が急速な勢いで進んでおり、１年間に約４万種もの生き物が絶滅していると言われています。絶滅の原因のほとんどが人間活動によるものである一方で、人間は生態系から多くの恵みを受けています。

②　廃棄物（ごみ）問題

世界の国々ではまだ廃棄物処理施設がなく、廃棄物の分別回収やリサイクルシステムがありません。ごみ収集車によって回収されたごみは、処理されることなくごみ処理場に溜められていく一方です。昔なら土に返るものがほとんどだったので問題にならなかったごみが、人々の暮らしの変化に伴って、土に返らないプラスチックのごみが増えてきたことで問題になってきているのです。ごみ処理場の周辺は不衛生な環境になっており、悪臭、地下水の汚染、周辺のマングローブ林への影響が懸念されています。またごみは海に流れ出し、海洋汚染の原因にもなっています。

③　地球温暖化

温暖化により、干ばつや洪水が増え、水不足や水被害がますます深刻となり、海面上昇により、沿岸域の低地が水没します。また、自然の生態系は崩れ、絶滅してしまう種が増えていきます。人間にとっても、死亡率が高まり、伝染病危険地域が増加し、公害が加速します。

④　不安定な水資源

世界で９億人もの人々が汚染から保護されていない水源を使い、25億人が、適切なトイレを利用できません。そのうちの12億人には、トイレすらありません。学校に女子用のトイレがないため学校に行けない子どもがいて、安全な水とトイレなどがない非衛生な環境が原因となり、毎年、下痢で180万人が死亡しています。そのうちの90％が５歳未満の子ども…。水に関する多くの課題が山積する中、今世紀半ばまでに、最悪の場合で60か国の70億人が、最善の場合でも48か国の20億人が水不足に直面することになると予測されています。

⑤　貧困

「貧困」について、所得以外の生活の質や社会的側面から測定した数値を「人間貧困指数」といいます。
次の３つをもとに算出します。

① 40歳まで生存できない出生時確率
② 成人非識字率
③ 改善された水源を継続して利用できない人口および年齢の割に低体重の子どもの割合

アフリカやアジアの国々で、「貧困」に苦しんでいる人々が数多くいるのです。

第3回

90分

課題解決に取り組み効果を上げている国がある！
～世界の好事例から学ぼう！～

Ⅰ　課題解決に向けた世界の取り組みを知る（40分）

❶ ７人グループになり、配布された７種類の 資料４ のうち、各自１種類を受け持ち、読み解く。

❷ 各自自分の読み解いた資料に関して、
　1）何に対しての取り組みか
　2）どんな方法・どんなプロセスの取り組みか
　3）どんな成果や効果をあげているか
　4）ポイントは何だと思ったか
　5）もっとも印象深かったことは何か
の５点に関して、グループで共有する。

Ⅱ　課題解決型からビジョン達成型へ意識をシフトし、望む未来のビジョンを描く（45分）

❸ メンバー替えをして、新たに５人グループを作り、「人権と環境とが守られる持続可能なよりよい未来とはどのような社会のことを言うのか」をKJ法で考え、共有し、その姿を「望む未来の姿７カ条」として、７つの文章にまとめる。

KJ法 →P.4

❹ ❸でつくった「よりよい未来の社会像」のイメージを、模造紙大の絵にして表す。

❺ １グループずつ前に出て、「望む未来の姿７カ条」を読み上げ、描いた絵の説明をし、全グループ分を全体で共有する。

Ⅲ　ふりかえり（5分）

❻ 気づいたこと／大切だと思ったこと／残念だったこと／嬉しかったこと、などの感想をグループで共有する。

資料４　各国の取り組み好事例から学ぼう！

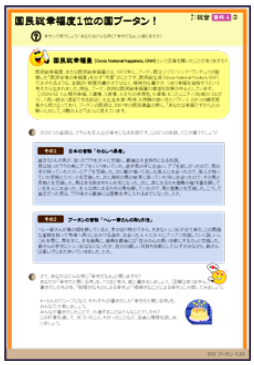
① 水資源がなくなる？！シンガポールの水　004 ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ P.21･22
② インドに学ぼう～NGOの取り組み～　001 ｲﾝﾄﾞ P.25･26
③ 国民総幸福度１位の国ブータン！　012 ﾌﾞｰﾀﾝ P.23･24
④ カーボン・ニュートラルをめざして　032 ｺｽﾀﾘｶ P.25･26
⑤ 持続可能な社会へ～福祉編～　058 ｽｳｪｰﾃﾞﾝ P.21･22･27
⑥ 環境先進国ドイツ！　063 ﾄﾞｲﾂ P.25･26
⑦ 平和のために　032 ｺｽﾀﾘｶ P.23･24

① シンガポールに学ぼう！

シンガポールは国土が小さく貯水が困難な上、人口が増加しているため、国内で水資源を賄うことができません。そのため、下水再生処理に力を入れ、NEWaterという飲料水を開発しました。使用済みの水を再利用したパイオニアとして注目を集めています。

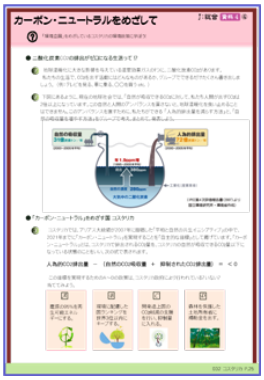
② インドに学ぼう！

途上国で支援活動をする団体は数多くありますが、場当たり的な事業が多く、その後につながりません。ここでは、住民を主体としたコミュニティの発展と環境保護への取り組みを学びます。



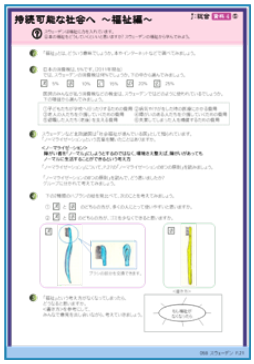
③ ブータンに学ぼう！

ブータンでは、国の力や進歩を「生産」ではなく「幸福」で図ろうという概念のもと、「幸福とは人間関係にある」として、9つの指標を掲げています。「幸せ」とはいったい何でしょう？



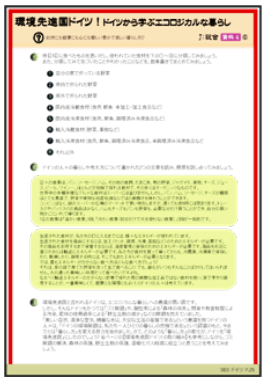
④ コスタリカに学ぼう！

環境立国をめざすコスタリカ。排出されるCO_2量を自然が吸収できるCO_2量以下にする「カーボン・ニュートラル」を自主的な目標として掲げています。



⑤ スウェーデンに学ぼう！

スウェーデンは社会福祉に力を入れている国です。世界でも早い段階で、高齢化社会を迎え、早くから高齢者、障がい者対策を始めてきました。そんな中で生まれたのが、「ノーマライゼーション」の原則と人間工学を取りいれた「エルゴノミクス」なデザインです。



⑥ ドイツに学ぼう！

ドイツはエコロジカルな暮らしへの意識が高い国です。「美しい自然、正常な空気、きれいな水は、大切な生活の基盤である」と考えるドイツの人々は「環境問題は、わたしたち一人ひとりの暮らしの危機である。」という認識のもと、「暮らし方」を変える努力をしました。

⑦ もうひとつ、コスタリカに学ぼう！

コスタリカは、世界で唯一の非武装永世中立国。軍備ではなく教育に力を入れることによって国の安全保障を守るという考え方をもっています。「軍隊よりも教育を」の姿勢はコスタリカ人の誇りであり、自分の国だけでなく、周りの国にも平和を広めようという姿勢は高く評価されています。

第4回

わたしたちにもできるはず！
～持続可能な未来をわたしから～

90分

Ⅰ　課題解決に向けて役立つことを整理する（10分）

❶ ５人グループになり、第３回の各国の好事例を思い出し、様々なグローバルイシューの解決に役立つことを整理し、リストにする。

Ⅱ　日本で取り組みたい「持続可能な未来プロジェクト」を考える（45分）

❷ グループで、資料５プロジェクトシートに基づいて、企画を考える。

プロジェクトのポイントは
〇課題解決に役立つ取り組みであること
〇ビジョン達成につながる取り組みであること
〇各国の好事例を参考にしつつ、独自性のある、地域特性を活かした取り組みであること
〇イベント的な単発で終わるものでなく、つながり広がり深まる取り組みであること
〇人権と環境との両面に配慮された取り組みであること
〇無関心層にもアピールし、多くの人を巻き込む魅力ある取り組みであること
〇実現可能であり、効果が見込まれ、例えば助成金申請にも耐えうる取り組みであること
〇取り組みの必要性が明確に説明できること

Ⅲ　プロジェクト・コンペ（15分）

❸ 各グループのプロジェクトを２分でプレゼンし、上記の「プロジェクトのポイント」を元に、他のグループが 資料６ 採点シートに点数をつけ、１位を決める。

Ⅳ　実効性・実行性を高めよう！　（15分）

❹ １位になったプロジェクトについて、「目標達成を阻むもの（バリア）」は何か、「目標達成に有効に働く行動や力」は何かを明確にすることで、実効性と実行性を高めるためのアイデアを発表しあう。

ファシリテーターは出されたアイデアを板書する。

Ⅴ　持続可能なよりよい未来のために、わたしから始められること（5分）

❺ 全４回を通して学んできたことを通して、今ある課題を解決しながら、持続可能なよりよい望む未来を築くために、「自分ができること・したいこと」を７つ以上箇条書きにする。

❻ グループで共有する。

資料 5　プロジェクトシート

資料 6　採点シート

プロジェクト・シート

■テーマ
■ねらい
■対象
■期間
■具体的内容
■プロジェクトのアピール・ポイント（うり）

※このシートを元にして、模造紙にまとめる

【プロジェクトに期待する要素】

- ○課題解決につながる取り組みである
- ○ビジョン達成につながる取り組みである
- ○各国の項事例を参考にしつつ、地域特性を活かした独自性のあるもの
- ○イベント的な単発に終わるものではなく、つながり広がり深まるもの
- ○人権と環境との両面に配慮された取り組みである
- ○無関心層にもアピールしうる、魅力ある提案である
- ○実現可能であり、酷かが見込まれ、助成金申請にも耐えうる取り組みである
- ○このプロジェクトでなければならない必要性が明確であるもの

採点シート

	1	2	3	4	5
課題解決につながる取り組みである					
ビジョン達成につながる取り組みである					
各国の好事例を参考にしつつ、地域特性を活かした独自性のあるものである					
イベント的な単発に終わるものではなく、つながり広がり深まるものである					
人権と環境との両面に配慮された取り組みである					
無関心層にもアピールしうる、魅力ある提案である					
実現可能であり、効果が見込まれ、助成金申請にも耐えうる取り組みである					
このプロジェクトでなければならない必要性が明確であるものである					

【合計】　　／40

MDGsの達成状況

国連は2015年までにすべての国、地域ですべての目標を達成するために、年に一度MDGs達成に向けた進捗状況を報告書にまとめています。2010年6月に発行された報告書によると、その進捗状況は一様ではなく、分野や地域によってばらつきが見られます。

2015年までに達成が見込まれるのは、「極度の貧困の半減」「安全な飲料水のない人口の半減」など。達成が難しいとみられるのは、「乳幼児死亡率の削減」「妊産婦の健康の改善」「HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病のまん延の防止」です。

■：目標達成済みまたは達成間近　■：現状が続けば2015年達成が見込まれる
■：現状のままでは達成不可能　■：進展なしまたは悪化　□：データが不十分

目　標	ターゲット	北アフリカ	サブ・サハラ・アフリカ	東アジア	東南アジア	南アジア	西アジア	オセアニア	ラテンアメリカ・カリブ	独立国家共同体の欧州	独立国家共同体のアジア
1 極度の貧困と飢餓の撲滅	極度の貧困半減	■	□	■	■	□	■		□	■	□
	生産的かつ適切な雇用	■	■	■	□	□	■	■	□	■	■
	極度の飢餓半減	■	□	■	■	■	■		□	■	□
2 普遍的な初等教育の達成	初等教育の完全普及	■	□	□	□	■	□		□	■	■
3 ジェンダー平等の推進と女性の地位向上	初等教育における女性の就学率	■	■	■	□	■	■	■	■	■	■
	女性賃金労働者の割合	□	□	□	□	□	□	□	■	■	■
	国会における女性議員の割合	□	□	■	□	□	□	□	□	□	□
4 乳幼児死亡率の削減	５歳未満児死亡率を３分の１に削減	■	□	□	□	□	□	□	■	□	□
5 妊産婦の健康状態の改善	妊産婦死亡率を４分の１に削減	■	■	■	□	□	□	□	□	■	■
	リプロダクティブ・ヘルスへのアクセス	■	□	■	□	□	□		□		□
6 HIV/ｴｲｽﾞ、ﾏﾗﾘｱ、その他の疾病のまん延防止	HIV／エイズまん延防止	■	□	□	□	■	□	□	□	□	■
	結核まん延防止	■	■	■	■	■	□	■	■	□	□
7 環境の持続可能性を確保	森林破壊防止	■	□	■	■	■	■	■	□	■	■
	安全飲料水のない人口半減	■	□	■	■	■	□	■	■	□	□
	衛生設備のない人口半減	■	□	□	■	□	□	■	□	■	□
	スラム居住者の生活改善	■	□	■	■	■	■	■	□		
8 開発のためのｸﾞﾛｰﾊﾞﾙなﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟの推進	インターネット利用者	■	□	■	□	□	■	□	■	■	□

※独立国家共同体とは旧ソ連邦のこと

出典：外務省ウェブサイト

参 考 資 料

きっかけ

2005年に開催された愛知万博（愛・地球博）には、世界中から120カ国が公式に参加出展しました。『わたしたちの地球と未来』は、その120カ国それぞれをテーマにして、世界の国を知り、世界の国から学び、地球的課題について考える国際理解教育教材です。

愛知万博期間中は、愛知県内の市町村がそれぞれの参加国を地域ぐるみで受け入れる「一市町村一国フレンドシップ事業」により、交流を深めました。この教材は、そのときの楽しさを広げ、つなげていきたいという想いから作成されたものです。

ねらいと内容

『私たちの地球と未来』は、次のことをねらいとした内容となっています。

- ○ 世界の多様性を知り、多様な人やものと出会うこと・交流することの楽しさを伝える
- ○ 多角的に肯定的に相手国と出会い、人の顔が見え、つながりを感じられるようになる
- ○ 国や人の多様性だけでなく、共通するものがあること（同一性）を理解する
- ○ 相手を知ることを通して自国（自分）を振り返り、お互いの誇りや課題を確認する
- ○ 共に学びあい、知り、考え、気づき、よりよい未来を共に築く入口を提供する
- ○ わたしたちは一人ひとりがよりよい未来を創る「担い手」であるという意識をもつ

120カ国の教材は、共通の構成になっています。基本的に２～４ページで１つのテーマを掲載しており、実際に使っていただくプログラム（左ページ）とそれに関する説明（右ページ）とで構成されています。それぞれの章は、以下のとおりです。

第1章　○○ってどんな国？
その国について、楽しみながら知るためのプログラム
第2章　へえ～、○○と日本
日本の同じところ、違うところ、つながりについて知るためのプログラム
第3章　一緒に考えよう！　こんな課題
地球の課題を共に考え、共に超えるためのプログラム
第4章　そして未来へ
多文化共生、未来のビジョンなど
参考資料
様々なデータ、地図、教材作成にあたり参考にした文献・データの出典など

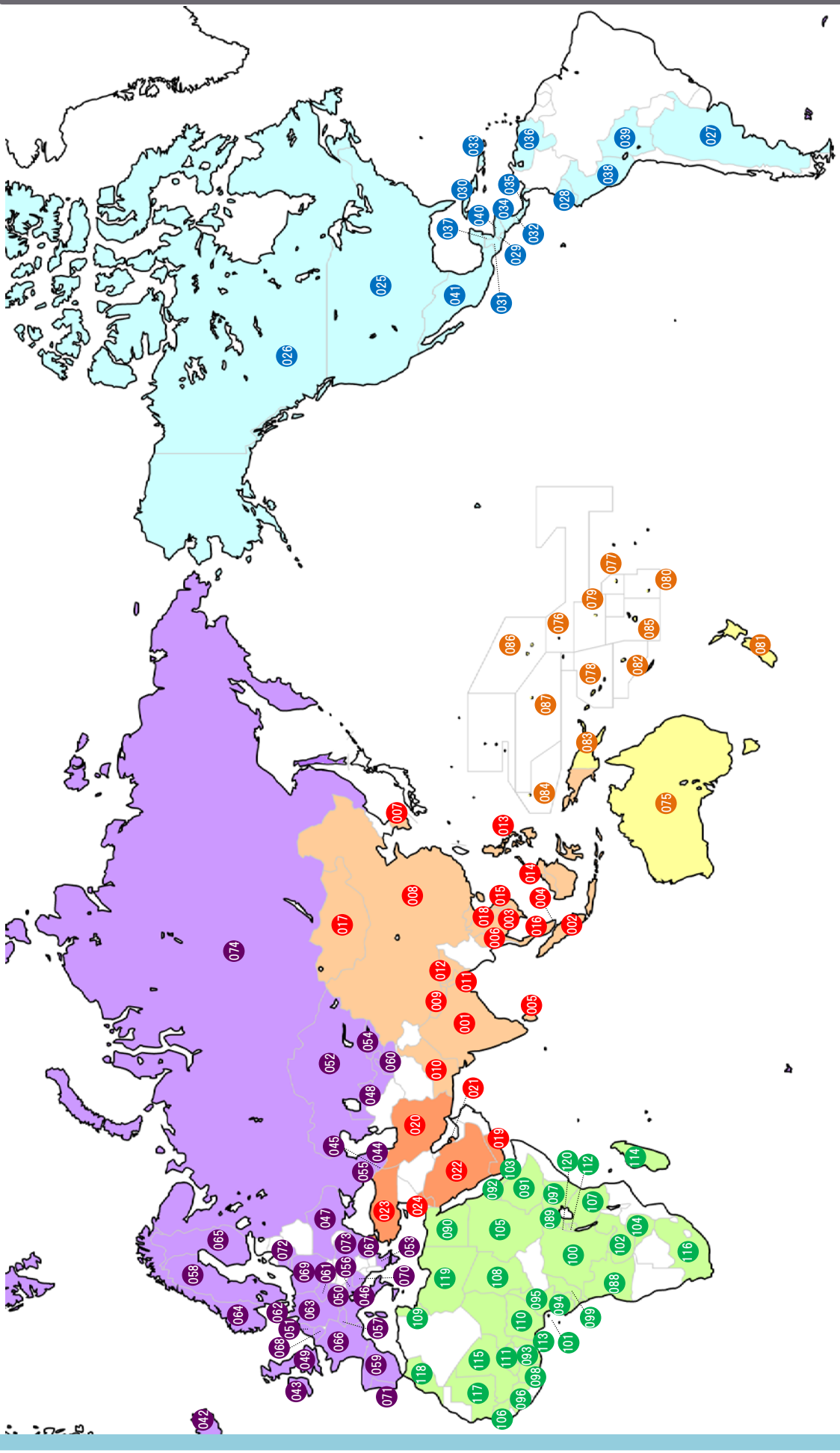
教材の特徴

この教材は、参加型プログラムの参加者が直接使用するのではなく、ファシリテーター（→P. 2）や先生に使っていただくための教材です。対象は、小学校高学年以上です。

なお、教材は（公財）愛知県国際交流協会ホームページからダウンロードできます。
（http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/kyouzai.html）

『わたしたちの地球と未来』マップ

国名など詳細は教材一覧（→P.121～128 ）参照



アジア＆中東

NO	国名	取り扱っている課題			○×クイズ	料理	学校	その他
		人権	環境	その他				
001	インド		森づくり		○	○		多言語・産業・文化・歴史・NGO
002	インドネシア		生物多様性・森	自然災害と国際協力	○	△	○	生物
003	カンボジア	内戦・幸せとは		国際協力	○			歴史・世界遺産・ことわざ・民話
004	シンガポール		水		○	○		シングリッシュ・ルール
005	スリランカ	人のつながり・多民族			○	△	○	象・ココナッツ
006	タイ	貧困			△	△		象・祭り・祝日・一村一品運動
007	大韓民国	高齢化社会			○			キムチ・民話・韓国語
008	中国	少数民族	砂漠化と黄砂		選択	○		漢字・祝日・トンパ文字
009	ネパール	貧困と教育・内戦	ゴミ問題		○		○	遊び
010	パキスタン	格差と教育・平和			○	○		
011	バングラデシュ	マイクロクレジット			○	○	○	ファッション・貿易
012	ブータン	幸福度	ゴミ問題・森林		○三択	○	○	民族衣装・仏教・動植物・歴史
013	フィリピン	貧困とﾌｪｱﾄﾚｰﾄﾞ・多文化共生			三択	○	○	世界一・フィリピンの中の日本
014	ブルネイ		ゴミ・省エネ・天然資源熱帯雨林		○	○		水上集落・祝日・貿易
015	ベトナム		マングローブの森・川の汚染	交通問題	三択	○	○	家族・民族衣装・遊び・歴史
016	マレーシア	地域格差・民族格差	森林		三択		○	首都機能・建築物・世界遺産

NO	国名	取り扱っている課題			○×クイズ	料理	学校	その他
		人権	環境	その他				
017	モンゴル	ストリートチルドレン	砂漠化		○			遊牧民・祝日
018	ラオス	就学率・平和			○	○	○	民族衣装・お祭り
019	イエメン	平和・女性の地位			○	○		ファッション・住宅
020	イラン		エネルギー		○	○		中東・イスラム教・お正月・ヘジャブ
021	カタール		エネルギー		○			イスラム教
022	サウジアラビア			失業率・インフレ・渋滞	○		○	イスラム教・おしゃれ・アラビア語
023	トルコ	民族問題	水		○	○	○	歴史・世界遺産・地震・温泉
024	ヨルダン	難民			○		○	イスラム教

北米・中南米

NO	国名	取り扱っている課題			○×クイズ	料理	学校	その他
		人権	環境	その他				
025	アメリカ合衆国	多様性・戦争と平和		ファーストフード			○	移民・日系人・世界一・先住民
026	カナダ	先住民	生物多様性	言語	○			貿易・日系人
026—2	カナダ-ミササガ	多文化主義	絶滅・地球温暖化			○	○	世界遺産・輸出入品目・カナダの1日・幻のクマ・エコファッション・姉妹都市交流
027	アルゼンチン	貧困			○	○		南米・日系人・タンゴ・モノカルチャー
028	エクアドル	フェアトレード	絶滅危惧種		○			スペイン語・ダーウィンの進化論・先住民族・世界遺産
029	エルサルバドル	サッカー戦争	ゴミ		○	○		マヤブルー・火山と地震・マヤ遺跡

NO	国名	取り扱っている課題			○×クイ章	料理	学校	その他
		人権	環境	その他				
030	キューバ	対立			○	△		海賊・歴史
031	グアテマラ	先住民・フェアトレード			○		○	中米・マヤ遺跡・民族衣装・コーヒー・国旗
032	コスタリカ	平和	カーボン・ニュートラル・生態系サービス		○	○		中米・フルーツ・生物・コーヒー
033	ドミニカ共和国	多文化共生	電気	エコロジカルフットプリントとBHN	○	△		踊り・コロンブス・野球
034	ニカラグア	自由と平等・先住民の権利		運河	○	○		国旗・ODAとNGO・フェアトレード
035	パナマ		絶滅危惧種		○	○		パナマ運河
036	ベネズエラ		絶滅危惧種	国づくり				国旗・生物・先住民族
037	ベリーズ	多文化共生	ゴミ		○	△	○	サンゴ礁・マヤ文明・先住民
038	ペルー			食料危機・テロ	○	○	○	アンデス文明・インカ帝国・日系人
039	ボリビア	児童労働と子どもの権利・フェアトレード			○	○		日本人移民・歴史
040	ホンジュラス	児童労働と子どもの権利	温暖化・自然災害		○	○	○	世界遺産・祝祭日
041	メキシコ	異文化体験		国境・不法入国				歴史・祝日・遺跡

ヨーロッパ（含NIS諸国）

NO	国名	取り扱っている課題			○×クイズ	料理	学校	その他
		人権	環境	その他				
042	アイスランド		エネルギー・絶滅		○	○	○	火山・ヴァイキング・スポーツ・サンタ・世界平和指数1位
043	アイルランド	多民族			○			アイルランド産・著名人・歴史・馬
044	アゼルバイジャン		石油	国境	○			カスピ海・ノーベル賞・旧ソ連崩壊
045	アルメニア	難民			○	○		世界遺産・アララト山
046	イタリア	南北格差		街づくり	○	○	○	祝日・日本の中のイタリア
047	ウクライナ		原発・電気		○	○		
048	ウズベキスタン		砂漠化		○	○		多民族・キリル文字・おしゃれ
049	英国	多民族	自然保護運動		○	○	○	世界初・ティータイム・王室
050	オーストリア	中立国	原子力発電		○	○	○	歴史・クリスマス
051	オランダ	多文化共生	温暖化		○	○	○	自転車・歴史・オランダ語
052	カザフスタン	核廃絶	砂漠化・放射能・大気汚染・ゴミ・エネルギー		○	○		シルクロード・宇宙基地
053	ギリシャ		酸性雨	ユーロ危機	○	○		パルテノン神殿・古代オリンピック
054	キルギス	国境			○	○		中央アジア・遊牧民・シルクロード
055	グルジア	紛争			○	○		ことわざ
056	クロアチア	紛争			○	○	○	クロアチアの中の日本
057	スイス	永世中立国	地球温暖化			○		スイス語・お祭・観光立国・建物
058	スウェーデン	福祉・多様性	エネルギー等	ノーマライゼーション	○		○	お祭り・日本の中のスウェーデン・世界遺産・先住民・移民

	国名	取り扱っている課題			○×クイズ	料理	学校	その他
		人権	環境	その他				
059	スペイン	内戦		動物愛護	○	○		闘牛・世界遺産・フィエスタ・ガウディ・建築・スペイン語・サッカー
060	タジキスタン	紛争と平和	水問題		○	○		タジキスタン人・伝統音楽・結婚式・国際協力
061	チェコ	国・多民族			○	○		建築・ボヘミアングラス・温泉
062	デンマーク		エネルギー	税金	○		○	サンタクロース・自転車・ルーン文字・ヴァイキング・レゴブロック
063	ドイツ	平和	環境先進国		○	○	○	日本の中のドイツ・クリスマス
064	ノルウェー	平和・平等			○			歴史・人間開発指数・福祉国家・ノーベル賞
065	フィンランド	少数派	森林					おもしろ選手権・1年のイベント・発祥のもの・サンタクロース
066	フランス	多文化共生		食料自給率	○	○	○	マンガ・自転車
067	ブルガリア			EU	○	○		半地下商店・ユーモア・ヨーグルト くしゃみ・ことわざ
068	ベルギー			EU	○	○		世界遺産・王室
069	ポーランド	アウシュビッツ収容所	公害		○	○		世界遺産・動物・ポーランド語 常識・ポーランド人・クリスマス
070	ボスニア・ヘルツェゴビナ	平和・戦争			○	○		
071	ポルトガル	植民地政策	環境問題		○	○	○	コルク・常識・ポルトガル語
072	リトアニア	独立	原子力発電		○	○	△	杉原千畝・アンバー(琥珀)
073	ルーマニア	チャウシェスクの子どもたち		野犬	○	○		世界遺産・陽気なお墓・食生活・ドラキュラ
074	ロシア		ゴミ問題		○	○		穀物自給率・祭り

オセアニア

NO	国名	取り扱っている課題			○×クイズ	料理	学校	その他
		人権	環境	その他				
075	オーストラリア	多文化共生社会	水資源		○		○	世界一・先住民・動植物・コアラ・サンゴ
076	キリバス		温暖化・ゴミ		○			太平洋諸島
077	サモア			地震・サモアの課題	○	△	○	家・祝日
078	ソロモン		絶滅危惧種・自然との共生		○			伝統文化・農業・歴史・昔話
079	ツバル		地球温暖化		○	△		ツバル語
080	トンガ			GDP・モノカルチャー	○	○	○	カボチャ
081	ニュージーランド	平和			○		○	食料輸入・マオリ族
082	バヌアツ	幸福			○	○	○	太平洋諸島・ビスラマ語
083	パプアニューギニア	幸福		言語	○			通貨・農業・トクピシン
084	パラオ			食生活・国際協力		○	○	パラオ語・歴史
085	フィジー		地球温暖化		○		○	
086	マーシャル諸島	核実験・豊かさ	地球温暖化		○	○		オセアニア
087	ミクロネシア		ゴミ			○	○	祭り

アフリカ

NO	国名	取り扱っている課題			○×クイズ	料理	学校	その他
		人権	環境	その他				
088	アンゴラ	赤ちゃんとお母さん・地雷			○	○	○	
089	ウガンダ	子ども兵士・エイズ			○	○	○	野生動物・ガンダ語
090	エジプト	ジェンダー			○	○	○	歴史・アラビア語
091	エチオピア	フェアトレード	水			○		民族とことば・コーヒー・世界遺産
092	エリトリア			国づくり	○	△	△	アフリカパズル・熱帯雨林・祭りと祝日・歴史
093	ガーナ	フェアトレード					△	アディンクラ
094	ガボン		絶滅危惧種・森林伐採	ミレニアム開発目標	○	△	○	国旗・歴史・ノーベル賞・バイオ燃料
095	カメルーン	豊かさ			○		○	チョコレート
096	ギニア	マラリア		資源	○	△		楽器
097	ケニア		野生動物・森	国境	○			動物・もったいない
098	コートジボワール	児童労働	森林伐採			○	○	国旗・遊び
099	コンゴ共和国	平和とダイヤモンド			○	○		森
100	コンゴ民主共和国	エイズ・紛争	トイレ		○	○		レアメタル・都市鉱山・コレラ
101	サントメ・プリンシペ	カカオ・奴隷貿易						切手・蘭・アフリカの状況
102	ザンビア	エイズ・民主主義と平和			○		○	通貨・回廊・教育・スポーツと音楽
103	ジブチ	多文化共生	海の生物		○			
104	ジンバブエ		絶滅危惧種	ハイパーインフレ	○		○	歴史

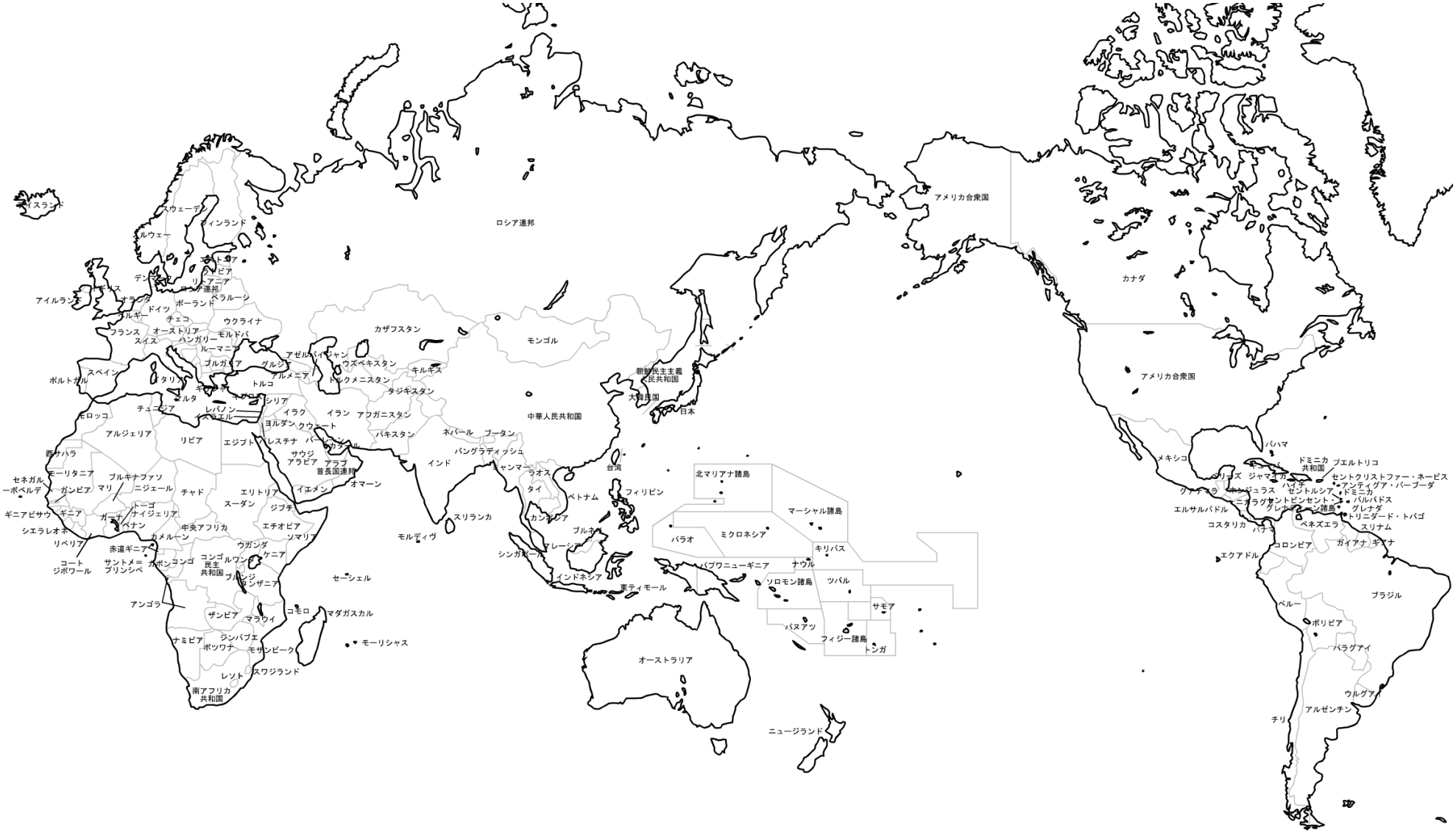
NO	国名	取り扱っている課題			○×クイズ	料理	学校	その他
		人権	環境	その他				
105	スーダン	難民			○	○		民話
106	セネガル	緑の革命・豊かさ			○	○	○	都会の暮らし・村の暮らし
107	タンザニア	感染症・衛生・医療			○	○	○	歴史・動物・布
108	チャド		水・砂漠化		○	△	○	
109	チュニジア	ジェンダー	水産資源の危機		○			家族・家
110	ナイジェリア	多様性			○	△	○	遊び・ヘアスタイル
111	ブルキナファソ	教育	水			○		家・パーニュ
112	ブルンジ	民族紛争・食料不足・教育			○		○	コーヒー
113	ベナン	奴隷貿易		アフリカの状況	○	○		日本語教育
114	マダガスカル		森林破壊	動植物の危機		○	○	動物・植物・世界遺産
115	マリ		水・砂漠化			○		音楽・建築・砂漠
116	南アフリカ	アパルトヘイト	絶滅危惧種		○			髪型・アフリカ
117	モーリタニア	ガバージュ・FGM	グローバルコモンズ					国旗・砂漠・ラクダ・タコ・アラビア語
118	モロッコ	マイクロクレジット		食料問題	○	○	○	イスラム教・ことわざ
119	大リビア			国際社会の一員として	○			世界遺産
120	ルワンダ	内戦			○	○		マウンテンゴリラ・歴史・コーヒー

	用語	掲載箇所 国名	ページ	本マニュアル
あ	アイデンティティー			34
	アパルトヘイト	116 南アフリカ	29	46
	HIV/エイズ	089 ウガンダ 102 ザンビア	24 27	
	永世中立国	050 オーストリア	26	
	エコロジカルフットプリント	033 ドミニカ 071 ポルトガル 074 ロシア	22 27 21	
	NGO/NPO	001 インド 003 カンボジア 034 ニカラグア 108 チャド 118 モロッコ	22 30 22 18 30	
	エネルギー資源確認埋蔵量	044 アゼルバイジャン	22	
	FGM	117 モーリタニア	26	
	ODA	034 ニカラグア 060 タジキスタン	22 18	
か	カースト制度	001 インド	18	
	核拡散防止条約(NTP)	052 カザフスタン	27	
	ガバージュ	117 モーリタニア	26	
	環境権・環境法	071 ポルトガル	28	
	京都議定書	051 オランダ 071 ポルトガル 074 ロシア	31 29 26	
	キンバリー・プロセス	068 ベルギー 099 コンゴ共和国	10 25	
	グローバリゼーション			90
	高齢人口比率	007 韓国	30	
	国籍			34
	国内総生産(GDP)/国民総生産(GNP)/国民総所得(GNI)	H22年度教材 080 トンガ 116 南アフリカ	4章 23 22	
	国民総幸福度(GNH)	H22年度教材 012 ブータン	4章 23	
	国家			46

	用語	掲載箇所 国名	ページ	本マニュアル
	5歳未満児死亡率	101 サントメプリンシペ 113 ベナン	16 22	
	子どもの権利条約	017 モンゴル 039 ボリビア 040 ホンジュラス	24 24 21・24	22
さ	砂漠化	017 モンゴル 108 チャド 115 マリ	20 24 16・28	56
	3R	097 ケニア	22	
	酸性雨	053 ギリシャ	22	
	ジェンダー・ギャップ指数	090 エジプト	24	
	持続可能な開発	048 ウズベキスタン	31	
	児童労働	010 パキスタン 028 エクアドル 040 ホンジュラス 093 ガーナ 098 コートジボアール	26 28 21 27 20	22
	消極的平和と積極的平和	032 コスタリカ 099 コンゴ共和国	24 23	78
	植民地	071 ポルトガル	33	
	食料自給率	026-1 カナダ	14	8
	新エネルギー	020 イラン 050 オーストリア 052 カザフスタン 062 デンマーク	26 24 26 30	
	ストリートチルドレン	017 モンゴル	22	
	生物多様性	002 インドネシア 026-1 カナダ 035 パナマ 078 ソロモン	26 24 30 22	
	世界遺産	023 トルコ 040 ホンジュラス 068 ベルギー	16 18 13	34
	世界人権宣言	063 ドイツ	27	
	絶対的貧困と相対的貧困			68

	用語	掲載箇所 国名	ページ	本マニュアル
	戦争と紛争	070 ﾎﾞｽﾆｱ	22	78
た	多文化共生社会	061 ﾁｪｺ	24	46
	地球温暖化	040 ﾎﾝｼﾞｭﾗｽ	26	56
		085 ﾌｨｼﾞｰ	22	
		086 ﾏｰｼｬﾙ諸島	26	
		116 南ｱﾌﾘｶ	26	
	地球幸福度指数	032 ｺｽﾀﾘｶ	16	
	地産地消			8
	適切な衛生施設			68
	奴隷貿易	101 ｻﾝﾄﾒﾌﾟﾘﾝｼﾍﾟ	25	
		113 ﾍﾞﾅﾝ	19	
な	ナチュラルトラスト運動	049 英国	26	
	難民	024 ﾖﾙﾀﾞﾝ	22	46
		045 ｱﾙﾒﾆｱ	23	
	人間開発指数（HDI）	H22年度教材	4章	68
		064 ﾉﾙｳｪｰ	14	
		095 ｶﾒﾙｰﾝ	28	
		106 ｾﾈｶﾞﾙ	32	
	人間貧困指数	106 南ｱﾌﾘｶ	22	
		115 ﾏﾘ	22	
	ノーベル賞	019 ｲｴﾒﾝ	26	
		044 ｱｾﾞﾙﾊﾞｲｼﾞｬﾝ	15	
		058 ｽｳｪｰﾃﾞﾝ	31	
		064 ﾉﾙｳｪｰ	27	
		094 ｶﾞﾎﾞﾝ	27	
	ノーマライゼーション	058 ｽｳｪｰﾃﾞﾝ	27	
は	バイオ燃料	094 ｶﾞﾎﾞﾝ	27	
	ハイパーインフレ	104 ｼﾞﾝﾊﾞﾌﾞｴ	24	
	BHN（人間の基本的欲求）	003 ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ	32	
		024 ﾖﾙﾀﾞﾝ	22	
		033 ﾄﾞﾐﾆｶ	22	
		095 ｶﾒﾙｰﾝ	28	
		106 ｾﾈｶﾞﾙ	32	
	貧困	006 ﾀｲ	22	68

	用語	掲載箇所 国名	ページ	本マニュアル
	フェアトレード	028 ｴｸｱﾄﾞﾙ	28	8
		031 ｸﾞｱﾃﾏﾗ	30	
		034 ﾆｶﾗｸﾞｱ	24	
		039 ﾎﾞﾘﾋﾞｱ	26	
		091 ｴﾁｵﾋﾟｱ	21	
		098 ｺｰﾄｼﾞﾎﾞｱｰﾙ	20	
	ブラッドダイヤモンド	068 ﾍﾞﾙｷﾞｰ	10	
		099 ｺﾝｺﾞ共和国	22	
	平均寿命/平均余命	101 ｻﾝﾄﾒﾌﾟﾘﾝｼﾍﾟ	16	68
		113 ﾍﾞﾅﾝ	22	
		116 南ｱﾌﾘｶ	22	
ま	マイクロクレジット	011 ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	24	
		118 ﾓﾛｯｺ	30	
	ミレニアム開発目標（MDGs）	H21年度教材	4章	98・108
	モノカルチャー	027 ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ	30	
		080 ﾄﾝｶﾞ	28	
ら	レアメタル	104 ｼﾞﾝﾊﾞﾌﾞｴ	18	
		116 南ｱﾌﾘｶ	20	
	レッドデータブック/レッドリスト	028 ｴｸｱﾄﾞﾙ	26	
		035 ﾊﾟﾅﾏ	30	
		036 ﾍﾞﾈｽﾞｴﾗ	22	
		116 南ｱﾌﾘｶ	26	


アイスランド
ノルウェー
スウェーデン
フィンランド
ロシア連邦
エストニア
ラトビア
リトアニア
デンマーク
ベラルーシ
アイルランド
ポーランド
ドイツ
ベルギー
チェコ
ウクライナ
フランス
オーストリア
スイス
ハンガリー
モルドバ
ルーマニア
ポルトガル
スペイン
イタリア
ブルガリア
グルジア
アゼルバイジャン
アルメニア
トルコ
カザフスタン
ウズベキスタン
トルクメニスタン
キルギス
タジキスタン
モンゴル
朝鮮民主主義人民共和国
大韓民国
日本
中華人民共和国
アメリカ合衆国
カナダ
メキシコ
モロッコ
アルジェリア
チュニジア
リビア
エジプト
レバノン
シリア
イスラエル
ヨルダン
イラク
イラン
アフガニスタン
クウェート
パキスタン
ネパール
ブータン
バングラディッシュ
インド
サウジアラビア
アラブ首長国連邦
オマーン
イエメン
西サハラ
モーリタニア
セネガル
ガンビア
ブルキナファソ
マリ
ニジェール
チャド
スーダン
エリトリア
ジブチ
ギニアビサウ
ギニア
ガーナ
トーゴ
ナイジェリア
ベナン
シエラレオネ
リベリア
カメルーン
中央アフリカ
エチオピア
ソマリア
赤道ギニア
ウガンダ
ケニア
コンゴ民主共和国
ルワンダ
ブルンジ
タンザニア
セーシェル
コート・ジボワール
サントメ＝プリンシペ
ガボン
コンゴ
アンゴラ
ザンビア
マラウイ
コモロ
マダガスカル
ナミビア
ボツワナ
ジンバブエ
モザンビーク
モーリシャス
レソト
スワジランド
南アフリカ共和国
スリランカ
モルディヴ
台湾
ラオス
タイ
ベトナム
カンボジア
ブルネイ
マレーシア
シンガポール
インドネシア
フィリピン
東ティモール
北マリアナ諸島
マーシャル諸島
パラオ
ミクロネシア
キリバス
パプワニューギニア
ナウル
ソロモン諸島
ツバル
サモア
バヌアツ
フィジー諸島
トンガ
オーストラリア
ニュージランド
バハマ
ドミニカ共和国
プエルトリコ
セントクリストファー・ネービス
アンティグア・バーブーダ
ドミニカ
ジャマイカ
ハイチ
ベリーズ
グアテマラ
ホンジュラス
セントルシア
ニカラグア
セントビンセント
グレナディン諸島
グレナダ
バルバドス
エルサルバドル
トリニダード・トバゴ
コスタリカ
パナマ
ベネズエラ
スリナム
コロンビア
ガイアナ
ギアナ
エクアドル
ブラジル
ペルー
ボリビア
パラグアイ
ウルグアイ
アルゼンチン
チリ

世界の国を知る　世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来

活用マニュアル

2013年2月

発行：
編集　公益財団法人 愛知県国際交流協会
〒460-0001
名古屋市中区三の丸二丁目6番1号
あいち国際プラザ
TEL：052-961-8746 FAX：052-961-8045
E-mail：koryu@aia.pref.aichi.jp
URL: http://www2/aia.pref.aichi.jp

印刷：トッパン・フォームズ株式会社

本マニュアルは、作成にあたり財団法人自治体国際化協会の助成を受けています。